

J館(新事務・研究棟) 完成予想図=2012年2月竣工予定



建設進む、J館・新図書館

建設中のJ館(新事務・研究棟)



巻頭カラー

「大樟会」総会・ホームカミングデー開催

勝田泰久理事長 2期目の方針／徳永光俊学長 今後の教学の方針

80周年記念募金を進めよう

ズームアップ経大人



建設中の新図書館



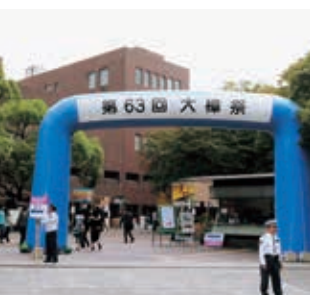
新図書館 完成予想図=2012年4月竣工予定

平成23年度

同窓会「大樟会」総会・ホームカミングデー 盛大に開催される！

平成23年10月30日(日)午前11時より同窓会「大樟会」総会と大学主催の初の「ホームカミングデー」が本学キャンパスで同時開催された。同窓会「大樟会」総会は例年11月3日に開催されていたが、今年は大学祭「大樟祭」の最終日にあわせて開かれたもので、約300名弱のOB・OGが参加し、旧友との再会を楽しんだ。特に同窓会「大樟会」は遠方の支部が支部総会を兼ねバスで参加するケースや同期会をこの日にあわせて開くなど、新しい趣向も目だった。大樟会総会はオープニングセレモニーに次いで感謝状の贈呈、記念講演会があり、午後からは交流レセプションが学生会館で行われた。

総会・ホームカミングデー



当日は大樟祭も開催



受付風景



会場風景



学歌斉唱(グリークラブ)



司会(小林真人常務理事)



開式のことば(北村實実行委員長)



感謝状贈呈



謝辞(小野茂樹前愛媛支部長)



式辞(勝田泰久理事長)



歓迎のことば(徳永光俊学長)



ごあいさつ(佐藤武司会長)

記念講演



李 容淑先生



記念講演会風景

交流レセプション



鏡割り(左から、徳永学長、佐藤会長、勝田理事長)



バンド演奏



徳永学長と佐藤会長を囲んで



中締め(草薙信照副学長)



和やかな会場内

CONTENTS

- 2 大樟会総会・ホームカミングデー開催
- 6 勝田泰久理事長 2期目の方針
- 8 徳永光俊学長 今後の教学の方針
- 10 情報社会学部創設 家本修経営情報学部長
- 11 経営学部定員増のねらい 井形浩治経営学部長
- 16 創立80周年記念事業募金 佐藤武司会長 ほか
- 17 創立80周年記念事業募金の状況について
- 18 個人からの寄付金に対する税制改正について
- 19 「スポーツ文化振興室」の設立について 宋仁守学生委員長
- 20 支部だより
- 34 OB・OGネットワーク
- 43 お世話になった先生からの“お元気”なお便り
- 44 ゼミ短信
- 46 本部だより
- 48 支部長一覧
- 49 ホームページ掲示板の活用
- 50 ズームアップ経大人
 王崚氏／牧田安夫氏／倉貫徹氏／塩見哲氏／田中豊久氏／
 米丸友樹氏／北川茂氏／西野正彦氏／山本陵太郎氏／
 関谷博氏／尾後正樹氏／(対談)西野宗一氏・西澤正義氏

「皆さん、お帰りなさい」

勝田理事長、徳永学長が歓迎のあいさつ

平成23年度 大樟会総会・ホームカミングデーを同時開催

○…午前11時、オープニングセレモニーの開会宣言が、80周年記念事業実行委員会の北村實幹事から述べられた。グリーククラブの学歌斉唱のあと、勝田泰久理事長が「皆さん、お帰りなさい。心から歓迎します。きょう、大学・卒業生が一つとなってホームカミングデーが実現しました。79年の歴史ある大学で遅きに失した感もありますが80周年を控えた今、大学と同窓会が一体となって新世紀に向かって手を取り合い大学の発展に寄与したい。私はできる限りの同窓会の支部総会に出て地方の方のナマの声を聞いており、理解もしております」と述べられ、大学の運営、教学面での学部再編、財務状況、5～10年先の大学の状況、就職戦線の状況など報告された。

続いて徳永光俊学長が「初のホームカミングデー、皆さん一日楽しんでください。今日の記念品として大学の今昔を写真でまとめたカレンダーを作りました。ご利用ください。私は「ゼミ・マナー・就職の経大」をコンセプトに、質を高め社会に発信してきました。また「大経大プライド」という母校への誇りを持つことで90～100周年を展望していきたいと考えています。同窓生の皆さんも母校の発展に力を貸してください」と歓迎のあいさつをされた。

○…同窓会を代表し佐藤武司会長は「就職状況が厳しい。同窓会としてもバックアップできることはしていきたい。80周年の募金活動も同窓会は2億円が目標、皆さんのさらなる応援をお願いします」と呼びかけた。

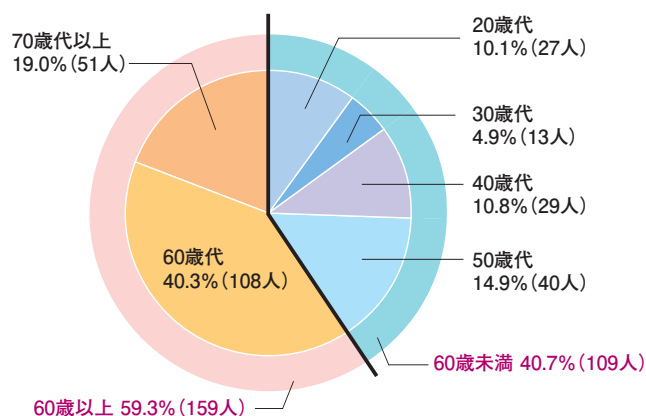
次に同窓会に永年貢献された支部長はじめ5名のOBに感謝状が贈られ、代表して愛媛前支部長の小野茂樹さんが謝辞を述べられた。

恒例の記念講演会は「外国人から見た日本文化の再発見」をテーマに、旅行会社の(株)リンカイを経営しYOKOSOJAPAN大使(国土交通省)でもある李容淑(イ・ヨンスク)さんが、永年の大阪在住の経験から、韓国人がひかれる日本の文化や魅力(温泉、お祭り、和食、日本酒など)についていろんな事例をあげユーモラスに解説、会場を沸かせた。

○…午後からは会場を変え交流レセプションが始まった。ぎっしりと参加者で埋まった会場は身動きもままならぬ中、恒例の鏡開き、乾杯と続き和やかな一時が繰り広げられた。今回はバンド演奏も入り一段と賑やかで、若いOB・OGの皆さんもすっかり打ち解けたよう。また今年は遠方から支部総会も兼ねバスで来られた淡路島、北播磨支部の皆さんや大学に最も近い北大阪支部の皆さんも駆けつけた。さらに同期会も29、30、32、34、35期の皆さんもこの日に集合、総会後は場所を変え旧交を温められた。

レセプションは終盤、一段と熱が入り学歌、逍遙歌の大合唱が来年の再会を約すかのように会場一杯に広がった。

■ホームカミングデー参加者数(卒業生のみ)



各支部・同期会の皆さん(大樟会総会・ホームカミングデー会場にて)



29期生のみなさん



30期生のみなさん



32期生のみなさん



34期生のみなさん



35期生のみなさん

別会場にて



北播磨支部



淡路島支部



北大阪支部



32期生OB会



34期生OB会



29期生OB会(「ひでよし」にて)

80周年を迎えるにあたり 勝田泰久理事長2期目の方針 地域に親しまれる大学を目指す

大阪経済大学は今年2012年10月1日、創立80周年記念を迎える。この80年間、大樟の大樹を育み、愛しんできた何万人もの“つながる力”が80周年を祝い、その重みを受け入れ、さらなる未来にむけ歩み始める。その先は90～100周年へとつながり、今こそ80周年の歴史を活かした知恵と工夫が求められる。大学経営の先頭にたち2期目に臨まれる勝田泰久理事長と、学長就任2年目の徳永光俊先生が2011年10月14日、「経営・教学の方針」として中・長期的展望を説明された。以下、概要を紹介いたします。

(広報部長 平田義行)



勝田泰久理事長

I. 80年の歴史を活かす

- ① この大隅の地を離れない
(キャンパス整備の基本)
- ② 4学部制を堅持する
- ③ キャンパス整備は一応の完成
但し、100周年に向けて構想を立てる
- ④ 卒業生86千人の力を活かす
・就職の充実、北浜キャンパスの活性化 等

II. 社会の中の大学

- ① 地元、地域社会との共生
- ② 有為な人材を育て、世に送り出す
- ③ 世間の評価、注目度を高める
 - ・学外連携の積極化
 - ・広報の積極化
 - ・学生スポーツの強化

(I. 80周年の歴史を活かす)

- ①大阪の都心部にある数少ない大学の一つとして地域の活性化に貢献するとともに、80年の歴史を活かすためにも、この大隅の地は離れない。土地を提供するというお話もありますが、90～100周年を展望する時、学生も増えもう少し広い土地が欲しい、となれば否定はしません。そのため財力を整えることは今からしなければなりません。
- ②経済・経営を中心に情報社会学部、人間科学部の4学部体制は維持します。時代に合わせた学科、コースの開設や将来新学部の増設が必要となれば考えていきたい。同時に研究所などの歴史のある組織も時代に沿った改革を進めたい。
- ③卒業生86千人の力を集中し大学と協調したい。具体的には就職面での強い支援や卒業生による北浜キャンパスの活性化の協力を呼びかけたい。
- ④80周年事業として多額の費用を使つてのキャンパス整備はあと3年で完成するが、記念イベントもたくさんやりたい。学生向きの講演会の講師は、昨年お願いしましたジャパネットたかたの高田社長や岩谷産業の牧野社長のような卒業生を呼びたい。こんな有名な方が卒業生なのかとたくさんの学生が聴講し大成功でした。

(II. 社会の中の大学)

- ①地元に親しまれる大学としての評価は年々高まってきている。市民に大学をオープンにするという視点が大切だ。昨年、1500人の成人式にA館を提供したが、市民講座の開催や災害時の避難所としても有効だ。また、大学の付近10箇所に防犯カメラの設置を寄贈したが、これは学生の安全にも役立つ。
 - ②経大人らしい有為な人材を育て世に出したい。本学の特徴からもっと金融界に人材を送りたい。
 - ③世間の評価、注目度を高めることは全学的課題だ。率直に申しあげて、80年の歴史がある大学としてはもっと目立っていいのではないかと。それには学外連携を深め知的財産を持つ大学からの発信力を高める。先生方は学会へ当然のように出席されるように、地元の経済界の会合にも多少の費用が必要でも顔をだして欲しい。私宛には案内状がたくさん来るので、担当の先生にまわしたい。
- 広報・広告は費用対効果を考え積極化すると同時に、先生方には得意分野でメディアにどんどん登場してもらいたい。スポーツの強化は学生部が中心になり「スポーツ文化振興室」を設置した。今年から全学あげて横断的支援で強化したい。

Ⅲ. 10年後、20年後の姿

- ① 経営の透明性が高く、安定した基盤に支えられた大学
- ② 教育(ゼミ)の経大、実学の経大という評価が定まる
- ③ 高校生が進んで応募してくる大学
- ④ 社会の評価が高く、企業から学生が求められる大学
- ⑤ 女子学生が2,000人を超えている形

(Ⅲ. 10年後、20年後の姿)

①から⑤は決して理想ではなく、経大に集う人々全てがこうした夢を実現するために、時間はかかりますがあきらめずに進めていきたい。

- ①安全・安心・快適な環境・キャンパス整備を行うため、今後とも安定した財務基盤の維持に努めたい。
- ②実学については創立時から実践されておりますが、ゼミについては学長が先陣を切って進めているところです。
- ③④多くの卒業生が社会の多方面で活躍され、企業や地域から永年高い評価をいただいている。今後はそれをもっともっと高めていきたい。そして、高校生が本学を一番を選んでくれるようにしたい。

Ⅳ. SD・MD・FDの強化

- ① 職員力の強化(SD) Staff Development
- ② 経営力の強化(MD) Management Development
- ③ 教育力の強化(FD) Faculty Development

(Ⅳ. SD・MD・FDの強化)

学校経営が上向くにはこの3点の強化は欠かせません。

- ①職員の皆さんが、経営の一翼を担うという自覚を持ち、企画力をつけ将来は経営力を発揮できるよう頑張ってください。最近の堅実に伸びている他大学は職員の力が伸びているといわれます。これにはやはり自分の学内だけの知識ではなく、他大学との職員の交流を行い、よその空気を勉強してもらうことを考えている。常々申しあげているように「経営」は職員の仕事なのです。
- ②もちろん私たちの職務ですが、月に数回行います理事会も強化されてきました。特に財務強化は力を入れており、順次改善に向かっております。

Ⅴ. 入口・教育・出口について

- ① 入学者の確保(入口)
- ② 教育の充実「学士力」の向上
- ③ 就職力の強化(出口)

(Ⅴ. 入り口・教育・出口)

- ①これについては妙案はない。これまでの評判を維持しながらオープンキャンパス、高大連携、インターンシップ、母校訪問など続けていながら予定人数を確保していきたい。特に「学費」は他大学よりかなり安いといわれており、これは現水準を維持し学内では経費の効率化を図り、経済的に入りやすい大学として定着させたい。
- ②③教学とも重なるが、キャリアアップ講座をまとめあげる専任講師を入れたい。就職に当たっては進路支援センターが企業との連携を深めスポーツの経験者や資格をもつ、経大生らしさを発揮できるような学生を育てる。語学研修を強化し特に英語、中国語は分かるような指導がこれから求められる。提携校と協力し、1年間ぐらいの前向きな休学で、海外留学をすすめていきたい。

Ⅵ. 教員・職員の皆さんに望むこと

- ① 前例・過去にとらわれないこと
- ② 他大学の良い点を採り入れる姿勢
- ③ 何事もスピードが大切
・議論より実行
- ④ 費用 対 効果 の徹底
・無駄の排除
・消極的にはならない
- ⑤ 改革・変化なくして進歩はない

(Ⅵ. 教員・職員の皆さんに望むこと)

向こう3年間仕事をする上で皆さんにお願いしたいことは①から⑤の通りです。前例やルールがないと就任当時良く言われましたが、なければ作ればいい訳で物の見方や考え方で意見の違いはあります。しかし対立からは何も生まれません。好き嫌いは無くし、切磋琢磨してお互い競争をしていきましょう。また、他大学のいい先例としての良い点は見習い取り入れる。失敗を恐れずにスピードを上げる。今後、少子化に向かい費用対効果の徹底は避けて通れません。大学の改革とは大きな変化ではなく、少しずつ変わっていきながら1年たったら大きく変わったというのが望ましい姿です。
隠し事やコソコソしない、この姿勢で仕事を進めていただきたいと思います。

徳永光俊学長 今後の教学方針 “大経大PRIDE” を持とう

I 私の教育に対する基本スタンス

- そっと手を添え じっと待つ
- 愛と志のある教育
- 道理は天地を貫く



I 私の教育に対する基本スタンス

学長に就任しておよそ1年がたちました。これまでの反省と今後の抱負を込めて、教学に関する今後の方針について簡単に紹介します。まず、私の教育に対する基本スタンスですが、「そっと手を添え、じっと待つ」というものです。手の添え加減、待ち加減が難しいところですし、相手によって自由自在に変えていかなければなりませんが、だからこそ教育という仕事は楽しく奥が深いのだと思います。そして、学生に対して愛情を注ぎ、これからの日本社会を担う気概、志を育てていかなければなりません。「愛と志のある教育」です。初代学長である黒正巖博士は、こうした大経大の教育の芯柱になる理念を「道理貫天地」と言われました。

II 大経大の教育の特徴は何か

- ゼミの大経大
- マナーの大経大
- 就職の大経大



II ゼミ・マナー・就職の大経大

それでは、大経大の教育の特徴はどこにあるのでしょうか。私は、「ゼミ・マナー・就職の大経大」の3つにまとめたいと思います。「ゼミの大経大」として、1年生からの一貫した少人数ゼミ教育で、学生たちの学力・実力を育てようとしています。ゼミ教育の集約点である「ゼミ1グランプリ」は、2年目となりました。「マナーの大経大」として、一人前の社会人に必要な基礎的なマナーを身に付けさせる努力をしています。同窓会北大阪支部の方々が学内のマナーアップ活動に協力いただいたことは、うれしい限りでした。最後に「就職の大経大」として、この就職氷河期にあっても、希望する仕事に就けるように1年生からのキャリアサポートシステムで支援しています。シニア・アドバイザー制度、就職活動での不安に対する心理カウンセラーの配置など、きめ細かい支援を行ってきました。

III 大経大は、どのような学生を育てるのか

- しっかりもん
- あったかもん
- やんちゃもん



III 大経大は、どのような学生を育てるのか

めざすべき学生像として、私は「堅実で清新な学生」を掲げています。具体的には、公務員や教職、民間などへの就職、クラブ・サークル活動などに対して、最後まであきらめずに努力する「しっかりもん」の学生。東日本大震災へのボランティア活動や、学内をきれいにするマナーアップ活動などに自発的に参加する、他人を気遣いできる「あったかもん」の学生。そして海外実習・語学研修に飛び込んだり、起業をめざすなど気骨をもった「やんちゃもん」の学生です。大経大生ってスゴイ、と言われないですね。



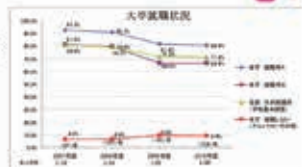
徳永光俊学長

IV 当面の教育の重点は何か ??

■ 就職・キャリア教育

■ 共通・語学教育

■ 地域・企業・世界とつながる教育

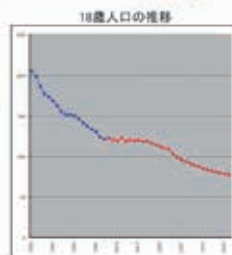


V 社会状況の変化に いかに対応するか ??

■ 2018年からの18歳人口の減少

■ 2015年の立命館大学の茨木進出

■ 関西の私大間の競争激化



VI 100周年(2032)に向けてのイマ・ココ ーつながる力。NO. 1ー ー経済・経営系の大学としてNO. 1ー

■ 学生目線に立ったきめ細やかな教育の充実

■ 大学としての研究能力の強化と社会への発信

■ 全構成員による「大経大PRIDE」の創発

IV・V 当面の教育の重点は何か

2018年度からの18歳人口の減少、2015年度の某大学の茨木進出、そして関西の私学間競争の激化という社会的状況の変化の中で、大経大としてとくに次の点に力を入れていきたいと思っています。第1に勝田理事長も強調されていますが、就職・キャリア教育の充実です。かつては「就職の大経大」と評判でしたが、この間就職率は徐々に悪化しており、早急に対策を立てなければなりません。進路支援センターとゼミ教員との連携を密にするとともに、さらに4月よりキャリア教育の専任の教員を採用する予定です。専任の教員のもとで、特別チームを作り、全学的なテコ入れをはかるつもりです。同窓会の皆様には、今後とも倍旧のご支援をお願いいたします。他に共通教育・語学教育の充実、地域・企業・世界とつながる教育の充実がありますが、詳細は省略させていただきます。

VI 100周年(2032年)に向けてのイマ・ココ

本年は記念すべき創立80周年を迎えます。8万6千人の卒業生の皆様方と一緒に祝いできることは、うれしい限りです。100周年(2032年)には、経済・経営系の大学としてNo.1を目指したいと思います。そのためにイマ・ココで、学生目線に立ったきめ細かい教育を実現し、自分たちが学ぶ大学に誇りと自負を持った学生を育てていかなければなりません。

“大経大PRIDE”、これが合言葉です。教員・職員、卒業生の皆様、私たち自身から“大経大PRIDE”を持ち、学生たちの教育に携わっていきましょう。今後ともよろしくご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

情報社会学部が創設されます。 ～情報社会分野のトップブランドへ駆け登ろう～

平成24年4月1日から、経営情報学部が改組され情報社会学部に生まれ変わります。経営情報学部で推進してきた情報技術や知識、ファイナンスの知識が社会の諸問題を、ビジネスや経済を背景に情報技術をもとに次世代社会を率先して牽引していく学生を生み出していきます。

経営情報学部長 家本 修教授



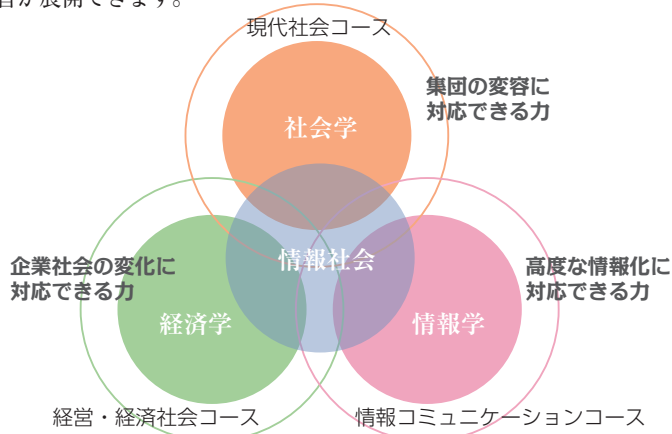
どのような学部か

目まぐるしく変化する情報社会にあって、情報技術と情報学を体系的に総合的に学びながら、経営・経済社会の次世代を担う人材を育成していきます。この中にあって、人間活動や文化活動、経済社会が引き起こす社会問題、国際社会の変遷など実態が把握できる能力を育成することや、そのための調査技術やシミュレーション技術、コミュニケーション技術を育成していきます。

3つのコースの関係は

「現代社会コース」「情報コミュニケーションコース」「経営・経済社会コース」を設置し、コースでありながら柔軟な科目選択による学習を可能にしています。

まず、幅広い分野から学習をはじめ専門科目の履修へ展開していきます。この時も、コースを越えて多様な組み合わせを選択することも可能で広く深く知識を育成していきます。さらに、より深く学習するためには、発展科目を設置し、より高度な学習が展開できます。



人材育成の目標は

社会学、経営・経済学、情報学を体系的総合的に学ぶことにより、社会を率先して牽引できる人材で、社会に役立つ知識と技能を身につけることです。そのためには、「創造性」「国際性」「協調性」とともに、「経済観」「倫理観」を身につけることも社会の成長のために活躍することが必要になってきます。

そのためのカリキュラムは

「ロジカルシンキング」や「ビジネスプランニング」などの科目を通じて日常業務から、企画立案から折衝、提案に至るまでの過程を認識し、情報の発想、整理、発信といった内容から、創造的立案や論理的に自らの考えを整理、展開でき、提案できること組み込んでいきます。各科目の根底には、協調性と自律的に問題解決に当たれる意欲や技術を高めます。「ファシリテーション」からビジネスシーンの役割を認識し、ワークショップやクロスカリキュラムなどの教育方法を用いて、確実な知識の定着を図っていきます。また「ソーシャルネットワーク論」や「webデザイン」などを通じ、SNSの現実やコミュニケーションの構築の重要性や方法を確認しながら、社会との連携を学びます。このカリキュラムからも社会的・職業的自立が知的に支援できる実務的社会との連携を授業の中でも促進していきます。

おもな進路

従来からの製造業、卸し・小売業、情報通信業、金融・保険業に加え、マスコミ、広告、公務員、教員に就職する学生の増加を念頭に置いています。

出典：情報社会学部パンフレット、
Benesse マナビジョン、2012年度入試ガイドから

ガンバロー 日本! ガンバレ 経大ラグビー部!

あらゆる生活シーンで安心と安全を提供したい
それが私たちエース警備のテーマです。



株式会社 エース警備保障



本社 〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町4丁目9-7 TEL 06-6481-0055 FAX 06-6481-0011

URL: www.ace-guard.com ISO 9001 認証

S55卒 ラグビー部 河内 龍澈

経営学部定員増のねらい

教学理念に「国際・環境・再生・倫理」を柱に

経営学部長 井形 浩治教授



2011(平成23)年11月現在、経営学部の入学定員数は455名(1部経営学科<215>・ビジネス法学科<150>・2部経営学科<90>－大学全体の収容定員<1,530>)となっています。今回、1部経営学科の入学定員215名に85名増員し、300名に変更することを届出し受理されました。これによりまして、2012年度より本学部の入学定員数は540名(1部経営学科<300名>・ビジネス法学科<150名>・2部経営学科<90名>－大学全体の収容定員<1,615>)となります。

経営学部は、1932(昭和7)年開設の浪華高等商業学校の伝統的教学理念を強く継承する学部です。本学は2012(平成24)年に創立80周年を迎えますが、本学部もこれまで経営学部ビジネス法学科の開設、大学院経営学研究科の開設、大阪の金融中心地である「北浜」への進出等、様々な改革に取り組んできました。

現在、1部経営学科は次のような3つの教学理念・目的をもっています。

- ①(営利)企業、公的行政体、NPO組織、教育機関といった多様な組織・機関で普遍的に評価されるビジネスパーソンの育成(環境変化に適応できる人材の育成)。
- ②単なる専門知識人でなく、企業のみならず社会の変革をなし遂げるような潜在的能力の付与(「理論」に裏付けられた「実践」的資質を持った人材の育成)。
- ③ビジネス法学科との学際援用で、「品格」、「遵法性」の醸成や、「社会人」としての高いコミュニケーション能力の付与(対人能力の高い人材の育成)。

今世紀に入り、様々な企業不祥事、金融事件等を通して、企業のコンプライアンス経営の必要性がかつてなく高まっています。また、2011年3月に起こりました「東日本大震災」の社会的影響、とりわけ国内企業・産業全般に関わる甚大な負の影響にも見られるように、リスクマネジメント能力を持つ人材を養成する動きも強まっております。このことから、企業規模の大小にかかわらず今後ますます激変する環境下で新たなビジネスセンス・能力・技術をもつ人材が求められることは明かです。

今回、定員増に伴い「国際」「環境」「再生」「倫理」をキーワードとする教学理念の追加を考えています。「国際」とは、かつての「欧米」中心でなく、いわゆる「BRICs」(ブラジル・ロシア・インド・中国)を中心とする新興経済成長国とビジネス面に対応できる人材を育成することです。「環境」とは、先の「東日本大震災」の事例にも見られるように、不測の自然災害に対する企業リーダー的人材を育成することです。「再生」とは、事業のみならず地域の再活性化を視野に入れた人材を育成することです。最後の「倫理」は、ビジネス法学科とも同時に進行したいのですが、公的な「法・規則」、私的な「道徳」といった一般の企業市民が備えるべき資質をもった人材を育成することです。

これら教学理念を今回の定員増にあわせ、「量的」かつ「質的」に追加拡大したいと考えます。



やすらぎのある空間づくり

私たちはよりよい庭での暮らしを提案いたします。

わたしたち、タカショーグループは和歌山から日本へ、そして世界へ「ガーデニング文化創造企業」として発展しつづけています。

株式会社タカショー

本社：和歌山県海南市南赤坂20-1
〒642-0017 TEL.073-482-4128
東京本部：東京都千代田区三崎町3-2-14
〒101-0061 TEL.03-3238-0532
他、国内13支店・営業所 海外6支店

インターネット・ホームページ
<http://takasho.jp>



<タカショーグループ22社>

国内12社(タカショー含む)
海外10社
タカショーグループ22社が
私たちの仲間です



お陰さまで、創立20周年

税理士大樟会



大阪経済大学税理士大樟会創立20周年記念事業として平成23年10月13日木曜日に大阪経済大学と大阪経済大学同窓会のご後援のもと、税理士、公認会計士に関心のある学生諸君の参加により、『税理士、公認会計士を目指そう!!』というテーマで、シンポジウムを開催しました。第一部では税理士と公認会計士の基調講演のあと、第二部ではコーディネーター主導による会員3名と学生3名によるパネルディスカッションで活発な意見交換がありました。

このシンポジウムで少しでも多くの学生諸君が、税理士、公認会計士を目指し、税理士、公認会計士の資格を取得し、大阪経済大学税理士大樟会に入会されることを願ってやみません。

会長 三木 泰 (35期) (近畿税理士会岸和田支部)

お問合せ先・ご入会連絡先

組織部長 平岡 彰信 (41期) (近畿税理士会上京支部) 中野会計事務所 内
TEL : 075 (431) 4361 FAX : 075 (431) 4365
Mail : hiraoka@nakano-cpa.com

「安全・安心」の、世界ブランド。

日本初の防災メーカーから、世界の総合防災企業へ。

ホーチキは製品を通して世界に安心をお届けしています。

セント・パンクラス駅 / イギリス (当社施工物件)

ホーチキ株式会社
代表取締役会長 藤本二郎 (第34回卒 本学評議員 東京支部長)
本 社 〒141-8660 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL03 (3444) 4111 FAX03 (3444) 4118
<http://www.hochiki.co.jp>



(<http://www.ait-jp.com>)

株式会社エーアイティ

代表取締役社長 矢倉 英一（昭和48年卒業）

東証第一部上場
[証券コード：9381]

会社概要
事業内容：国際貨物輸送事業（海上輸送・航空輸送）/通関業
従業員数：連結368名 / 単体163名（2011年8月末現在）
資本金：271,140,311円（2011年8月末現在）
売上高：136億31百万円（2011年2月期連結）

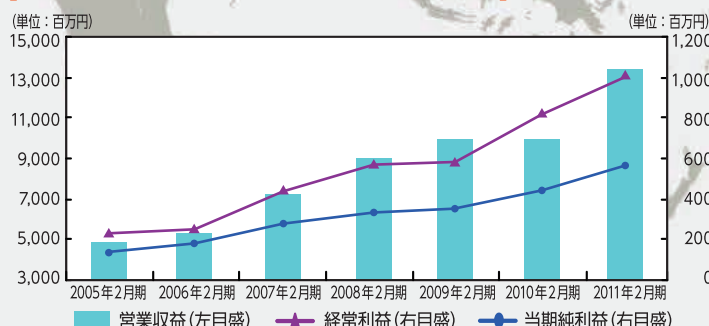
世界トップクラスを目指す国際フォワーダー ～日中間の貨物輸送に特徴～



- ◆ 中国全土に11カ所の自社拠点を配備
- ◆ 50名を超える営業人員による提案型の営業体制
- ◆ 国際輸送・通関・配送までの一貫輸送を提供
- ◆ WEBによる簡単・便利な「貨物検索サービス」の実施
- ◆ 安全・安心・最速の国際輸送サービスを実現



【営業収益・経常利益・当期純利益の推移】



お問合せ先

<本社>
大阪市中央区本町二丁目1番6号
TEL：06-6260-3450（代表）
<東京支社>
東京都港区芝5丁目33番7号
TEL：03-5427-6510（代表）
○名古屋営業所 TEL：052-963-0260
○福岡営業所 TEL：092-433-7560
○成田空港営業所 TEL：0476-33-1090
○海外オフィス：上海・大連・天津・青島・南通
蘇州・寧波・廈門・深圳・広州
香港・バンコク・ホーチミン

節 税

創業者支援

決算対策

相続対策

●成長を目指す企業のパートナー

税理士 谷丸八郎事務所

高槻市芝生町1丁目14番2号

TEL.072-678-1251

FAX.072-678-1253

税理士 谷丸明子事務所

大阪市北区天神橋2丁目4番17号

TEL.06-6949-8152

FAX.06-6949-8152

■JR東西線大阪天満宮駅・地下鉄堺筋線谷町線南森町駅徒歩1分

大経大 OB 在職 5 名

tax@tanimaru.jp

谷丸会計事務所

検索



JR大阪駅・各線梅田駅より徒歩7分

大阪府大阪市北区堂山町7-7 角庄ビル1F

tel: fax 06-6312-0529

org... オーガニックライフ オルグ

素材が持つ 自然のままの旨みを生かし
からだに優しく安全で 安心なものを 美味しく食べる楽しみ
自然を基調にしたアンティークな空間で
素敵なひとときを お過ごしください

Party Plan (税・サービス込/お1人様)

プチ・パーティー(2名様〜) ¥2500〜
貸切パーティー(50名様〜) ¥5250〜
フリードリンク付き
*各種パーティープランのご相談に応じます

大学関係のお客様はパーティー、ディナー**10%OFF**

廣 済 堂
文教ソリューション
KOSAIDO BUNKYO SOLUTION

**学校経営を支援する
多彩なソリューションを
ご提供します。**

印刷、IT、映像、イベント、人材等の幅広い事業リソースを活かし、
学校案内や広報誌の制作をはじめ、HPや映像制作、eラーニング、
学生のキャリア教育・就職支援、同窓会事務局の運営支援等、
円滑な学校経営をサポートします。

まずはお気軽にお問い合わせください

株式会社廣済堂 文教ソリューションユニット

〒560-8567 大阪府豊中市蛍池西町2-2-1
TEL 06-6855-9241
<http://www.kosaido.co.jp/>

KOSAIDO

社 労 士 大 樟 会

社会保険労務士の役割

企業の健全な発展と働く人々の幸福を目指します!!

「社会保険労務士」は、労働・社会保険に関する法律、人事、労務管理の専門家であり、企業経営の4要素のうち、人的資源に関するエキスパートです。

労働・社会保険に関する諸問題への対応、さらに年金の相談も行う「実務家の資格」であります。



社労士大樟会 会長 久保 太郎(31期)

社労士大樟会は 2008 年 7 月に誕生した大阪経済大学同窓会の職域支部です。学術の研究、講演会の開催等会員の資質向上及び社会的貢献につながる事業と会員相互の親睦をはかる事業を行っています。社労士資格をお持ちの同窓生の皆さん!ぜひご参加ください。「つながる力」を結集しましょう。

お問合せ先

事務局長 飯田 政信(35期)

■TEL: 06(6263)5511

■FAX: 06(6263)5510



この街で頑張るお客さまのおそばに。

本店営業部	〒541-0041	大阪市中央区北浜2-5-4	TEL.(06)6231-2881
中之島支店	〒530-0005	大阪市北区中之島1(大阪役所内)	TEL.(06)6202-0891
西支店	〒550-0025	大阪市西区九条南1-10-17	TEL.(06)6581-2421
阿倍野支店	〒545-0021	大阪市阿倍野区阪南町1-48-1	TEL.(06)6622-0671
生野支店	〒544-0034	大阪市生野区桃谷2-23-32	TEL.(06)6718-1121
福島支店	〒553-0005	大阪市福島区野田3-1-18	TEL.(06)6462-3621
住吉支店	〒558-0051	大阪市住吉区東粉浜3-23-8	TEL.(06)6673-8371
城東支店	〒536-0004	大阪市城東区今福西1-9-6	TEL.(06)6939-5131
東成支店	〒537-0021	大阪市東成区東中本3-18-25	TEL.(06)6971-2401
都島本通支店	〒534-0014	大阪市都島区都島北通2-3-19	TEL.(06)6924-1171
布施西支店	〒577-0848	東大阪市岸田西2-3-6	TEL.(06)6728-3301
南田辺支店	〒546-0031	大阪市東住吉区田辺3-25-20	TEL.(06)6628-0581
門真支店	〒571-0046	門真市本町30-3	TEL.(06)6909-7451
住道支店	〒574-0033	大東市扇町16-7	TEL.(072)872-4881
八尾支店	〒581-0072	八尾市久宝寺2-4-57	TEL.(072)992-0081
若江岩田支店	〒578-0941	東大阪市岩田町3-10-17	TEL.(072)963-2151
たつみ支店	〒544-0013	大阪市生野区巽中3-9-2	TEL.(06)6751-1281
生野中支店	〒544-0006	大阪市生野区中川東2-4-6	TEL.(06)6754-1811
高井田支店	〒577-0042	東大阪市堤1-13-4	TEL.(06)6788-2821
つるみ支店	〒538-0052	大阪市鶴見区横堤3-6-52	TEL.(06)6912-8861
加美中支店	〒547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-9-24	TEL.(06)6794-3931
生野南支店	〒544-0022	大阪市生野区舍利寺3-5-28	TEL.(06)6718-2181
桃谷駅前支店	〒543-0033	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-9-3	TEL.(06)6771-4881
鴻池支店	〒578-0975	東大阪市中鴻池町3-4-5	TEL.(06)6745-2811
加美北支店	〒547-0001	大阪市平野区加美北3-12-1	TEL.(06)6794-3121
中津支店	〒531-0071	大阪市北区中津1-17-26	TEL.(06)6376-3071
吉田駅前支店	〒578-0981	東大阪市島之内2-13-9	TEL.(072)964-8641
森ノ宮支店	〒540-0003	大阪市中区森ノ宮中央1-8-1	TEL.(06)6946-1081
谷町支店	〒543-0072	大阪市天王寺区生玉前町1-18	TEL.(06)6775-0751
大東北支店	〒571-0012	門真市江端町9-23	TEL.(072)882-1661
北支店	〒530-0053	大阪市北区末広町3-3	TEL.(06)6365-7801
岸の里支店	〒557-0054	大阪市西成区千本中2-2-21	TEL.(06)6659-6522
桜川支店	〒556-0021	大阪市浪速区幸町2-3-22	TEL.(06)6562-3224

小阪支店	〒577-0806	東大阪市内小阪3-1-6	TEL.(06)6730-1281
江戸堀支店	〒550-0002	大阪市西区江戸堀3-2-20	TEL.(06)6447-7881
関目支店	〒535-0031	大阪市旭区高殿4-22-40	TEL.(06)6954-0374
平野支店	〒547-0045	大阪市平野区平野上町2-7-18	TEL.(06)6791-1804
日本橋支店	〒542-0073	大阪市中央区日本橋2-9-16	TEL.(06)6641-8131
萩之茶屋支店	〒557-0015	大阪市西成区花園南1-3-15	TEL.(06)6661-6031
梅田支店	〒530-0001	大阪市北区梅田1-3-1100	TEL.(06)6341-6434
加島支店	〒532-0031	大阪市淀川区加島4-2-46	TEL.(06)6309-7821
東大阪支店	〒577-0035	東大阪市御厨中2-5-6	TEL.(06)6788-5181
港支店	〒552-0016	大阪市港区三先1-10-28	TEL.(06)6573-6261
長吉支店	〒547-0013	大阪市平野区長吉長原東1-2-73	TEL.(06)6708-9001
恩加島支店	〒551-0012	大阪市大正区平尾4-21-8	TEL.(06)6554-1351
北加賀屋支店	〒559-0011	大阪市住之江区北加賀屋1-1-26	TEL.(06)6683-6551
姫島支店	〒555-0033	大阪市西淀川区姫島5-2-1	TEL.(06)6475-3231
西九条支店	〒554-0013	大阪市此花区梅香3-33-9	TEL.(06)6464-0621
東淀川支店	〒533-0014	大阪市東淀川区豊新5-14-30	TEL.(06)6327-8861
守口支店	〒570-0083	守口市京阪本通1-4-12	TEL.(06)6993-8541
豊中支店	〒561-0853	豊中市服部南町4-1-25	TEL.(06)6864-7471
堺支店	〒590-0959	堺市堺区大町西3-2-1	TEL.(072)232-7601
夢ふくらむ支店	〒541-0041	大阪市中央区北浜2-5-4	☎0120-77-2976 (テレホンダイレクト支店)

市大病院出張所 〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-5-7 TEL.(06)6633-1321

【店舗外市信キャッシュコーナー】

大阪市立総合医療センター出張所	大阪市都島区都島本通2-13-22(大阪市立総合医療センター1階)
信金中金大阪支店出張所	大阪市中央区農人橋1-4-34(信金中央金庫ビル1階)
大阪市立大学出張所	大阪市住吉区杉本3-3-138(大阪市立大学学術情報総合センター内)
加島駅前出張所	大阪市淀川区加島3-2-14(JR東西線加島駅前)
阪神西九条駅前出張所	大阪市此花区西九条3-15-13(阪神西九条駅1階)
姫島駅前出張所	大阪市西淀川区姫里1-39-1(阪神姫島駅改札口横)



夢・ふ・く・ら・む
大阪市信用金庫

代表理事会長 **新 堂 友 衛**

(第21回卒 本学理事)

本店/〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-4 TEL. (06)6201-2881(代表)

大阪市内全24区に店舗(府下全54カ店)を有する唯一の地域金融機関です。

インターネットアドレス <http://www.osaka-shishin.co.jp/>

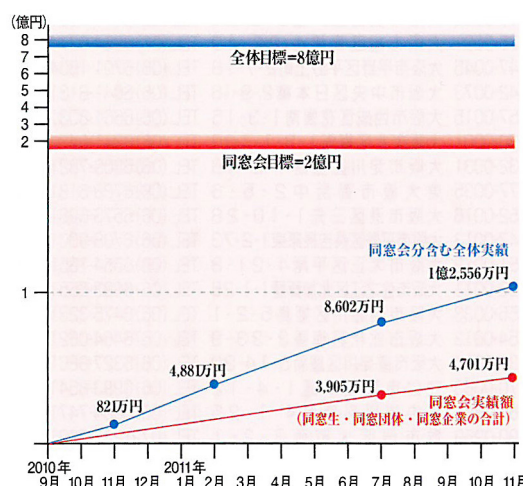
わたしたちの母校が2012年、 創立80周年を迎えます。 今こそ、支援の輪を広げましょう。



“Jump up！（飛翔！）”を合い言葉にスタートした記念募金事業も1年4ヵ月が経過しました。この間、記念事業も着々と進み、一人ひとりの協力と支援の積み重ねが具体化しています。あなたの母校愛で80周年を包みましょう。

中間報告 2010年9月30日～2011年12月13日

（資料提供：創立80周年記念事業募金事務局）



創立80周年記念事業募金にさらなるお願い

大阪経済大学同窓会「大樟会」会長
創立80周年記念事業募金委員会
委員長 佐藤武司



時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より大阪経済大学のためにご支援を賜りまして、
厚くお礼申し上げます。
創立80周年記念まで1年を切り、80周年記念事業募金をお願い致しました2010年9月より1年超経過の折り返し地点となりました。
同窓会としての目標金額2億円に向かって邁進しているところですが、まだまだ目標には程遠く、多くの皆様は何分のご協力を仰がねばと存じます。既に募金をして頂いた方々には厚くお礼申し上げます。
昨年は天変地変の多い年、筆頭に東日本大震災、原発事故、ゲリラ豪雨、台風12号災害に加え、経済情勢も厳しい中での募金のお願いとなりましたが、こんな時こそ1人でも多くの方のご協力をお願い致す所でございます。
募金の使途と致しましては既報の通り現役諸君やこれから入学して来る後輩のために

- 1、新図書館の建設
- 2、学術・芸術・スポーツ振興基金の創設

具体的に皆様の浄財の使途を明確にし末永く感謝の気持ちを残したく存じます。
今回は寄付金額が10万円以上ご寄付下さいました方や企業様は銘板にご芳名を刻み、後世に残す予定でございます。
ぜひ今回の主旨ご理解の上、多くの方々に重ねてのご協力の程お願い申し上げます。

◎大学ホームページにご寄付いただいた方のお名前と全体の金額を毎月更新しています。
<http://www.osaka-ue.ac.jp/80th/guestbook/index.html>

募金使途別集計表（2010.9.30～2011.12.13）

区分	新図書館		指定なし		奨学基金		合計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
役員・教職員	96	21,341,000	24	5,431,000	45	12,535,000	165	39,307,000
元役員・教職員	4	1,140,000	3	130,000	3	340,000	10	1,610,000
同窓生	329	20,140,500	151	5,389,000	108	3,025,500	588	28,555,000
同窓団体	19	2,877,130	18	8,103,812	9	1,131,000	46	12,111,942
同窓企業	12	1,165,000	12	3,830,000	8	1,350,000	32	6,345,000
後援会	183	2,559,000	55	648,000	70	1,446,000	308	4,653,000
一般企業	12	9,570,000	20	20,155,300	6	2,580,000	38	32,305,300
その他	10	158,602	11	389,438	4	125,700	25	673,740
合計	665	58,951,232	294	44,076,550	253	22,533,200	1212	125,560,982
	959	103,027,782						

※指定なし：新図書館へ使用する旨、募金趣意書に記載済み
※同窓団体：同窓会支部、OB会、同期会など
※同窓企業：同窓生が代表を務める企業

※その他：パソコン教室、地域の方（講座受講生）
※上記期間における処理件数・金額を表示

● 創立80周年記念事業募金の状況について ●

各同窓団体からのご寄付状況 (2011年12月13日現在)

(敬称略)

●同窓会本部・支部・各種団体	
同窓会本部	¥5,000,000
池田泉州銀行経友会	¥600,000
泉南支部	¥500,000
熊本支部	¥300,000
神戸支部	¥300,000
和歌山支部	¥300,000
静岡支部	¥250,000
姫路支部	¥250,000
大樟体育会	¥200,000
明石支部	¥200,000
税理士大樟会	¥200,000
東京支部	¥200,000
社労士大樟会	¥200,000
備後支部	¥200,000
北河内支部	¥141,130
池田支部	¥120,000
北海道支部	¥100,000
山口支部	¥100,000
岡山支部	¥100,000
宮崎支部	¥100,000
愛知支部	¥100,000
津山支部	¥60,000
伊丹支部	¥50,000
大樟教育研究会和歌山県	¥14,000

●クラブOB/OG会	
空手道部OB会	¥200,000
山岳部OB会	¥181,000
吹簫会	¥177,812
柔道部OB会	¥100,000
ワンダーフォーゲル部OB会	¥100,000
ラグビー部OB会	¥100,000
ゴルフ部OB会	¥100,000
ソフトテニス部OB会	¥100,000
準硬式野球部OB会	¥100,000
ハンドボール部OB会	¥100,000
●ゼミOB/OG会	
藤田ゼミOB有志	¥170,000
●同期会	
32期生会	¥125,000
三十期生会	¥100,000
とりあえず34会	¥50,000
第14回生同期会有志	¥32,000
33会(24期生会)	¥20,000
●その他	
大樟会総会・ホームカミングデー 交流レセプション参加者ご一同	¥570,000
寮友会有志	¥145,000
株式会社東急コミュニティー卒業生ご一同	¥36,000
同窓会和歌山支部那賀地区 ゴルフ会有志ご一同	¥20,000

卒業回数別寄付状況 (2011年12月13日現在)

卒業回生(卒業年度)	人数	募金額
第3回生(昭和12年卒)	3	160,000
第5回生(昭和14年卒)	1	5,000
第6回生(昭和15年卒)	2	130,000
第7回生(昭和16年卒)	2	180,000
第8回生(昭和17年卒)	1	10,000
第10回生(昭和19年卒)	2	20,000
第11回生(昭和20年卒)	4	265,000
第12回生(昭和21年卒)	5	82,000
第13回生(昭和22年卒)	4	41,000
第14回生(昭和23年卒)	3	170,000
第15回生(昭和24年卒)	4	10,070,000
第16回生(昭和25年卒)	6	100,000
第17回生(昭和26年卒)	4	37,000
第18回生(昭和27年卒)	1	100,000
第19回生(昭和28年卒)	5	60,000
第20回生(昭和29年卒)	3	18,000
第21回生(昭和30年卒)	12	275,000
第22回生(昭和31年卒)	9	111,000
第23回生(昭和32年卒)	19	416,000
第24回生(昭和33年卒)	10	285,000
第25回生(昭和34年卒)	9	250,000
第26回生(昭和35年卒)	14	283,000
第27回生(昭和36年卒)	13	935,000
第28回生(昭和37年卒)	12	112,000
第29回生(昭和38年卒)	11	195,000
第30回生(昭和39年卒)	17	775,000
第31回生(昭和40年卒)	15	154,000
第32回生(昭和41年卒)	30	2,340,000
第33回生(昭和42年卒)	23	1,411,000
第34回生(昭和43年卒)	17	487,000
第35回生(昭和44年卒)	35	1,840,000
第36回生(昭和45年卒)	15	300,000
第37回生(昭和46年卒)	21	377,000
第38回生(昭和47年卒)	23	1,456,000
第39回生(昭和48年卒)	27	1,440,000

卒業回生(卒業年度)	人数	募金額
第40回生(昭和49年卒)	17	272,000
第41回生(昭和50年卒)	11	480,000
第42回生(昭和51年卒)	14	401,000
第43回生(昭和52年卒)	7	85,000
第44回生(昭和53年卒)	7	64,000
第45回生(昭和54年卒)	9	575,000
第46回生(昭和55年卒)	5	140,000
第47回生(昭和56年卒)	7	195,000
第48回生(昭和57年卒)	5	95,000
第49回生(昭和58年卒)	7	160,000
第50回生(昭和59年卒)	3	130,000
第51回生(昭和60年卒)	4	130,000
第52回生(昭和61年卒)	4	32,000
第53回生(昭和62年卒)	3	48,000
第54回生(昭和63年卒)	2	20,000
第55回生(平成元年卒)	3	20,000
第56回生(平成2年卒)	2	15,000
第58回生(平成4年卒)	1	10,000
第59回生(平成5年卒)	2	30,000
第61回生(平成7年卒)	4	38,000
第62回生(平成8年卒)	3	30,000
第63回生(平成9年卒)	3	32,000
第64回生(平成10年卒)	4	100,000
第65回生(平成11年卒)	1	7,000
第66回生(平成12年卒)	3	16,000
第67回生(平成13年卒)	1	10,000
第69回生(平成15年卒)	2	15,000
第70回生(平成16年卒)	2	15,000
第71回生(平成16年9月、17年3月卒)	2	15,000
第73回生(平成18年9月、19年3月卒)	2	10,000
第74回生(平成19年9月、20年3月卒)	3	20,000
第75回生(平成20年9月、21年3月卒)	4	420,000
第76回生(平成21年9月、22年3月卒)	3	25,000
第77回生(平成22年9月、23年3月卒)	1	10,000
総計	533	28,555,000

注) 同窓生で、理事・評議員の方は含まれておりません。

創立80周年記念事業募金 個人からの寄付金に対し税金が還付されます

必 読

このたび法改正により、平成23年1月1日以降のご寄付について、学校法人に対する個人からの寄付の税額控除制度が導入されました。これにより、従来からの所得控除制度と税額控除制度のいずれか一方を選択し、適用を受けることができます。

ただし、この適用を受けるためには、ご寄付いただいた翌年の確定申告の期間中に本学発行の「領収書」と「特定公益増進法人であることの証明書(写し)」または「税額控除に係る証明書(写し)」を添えて、所轄の税務署で確定申告することが必要となります。

なお、すでにご寄付いただいた方には「領収書」と「特定公益増進法人であることの証明書(写し)」と「税額控除に係る証明書(写し)」をそれぞれお送りしております。

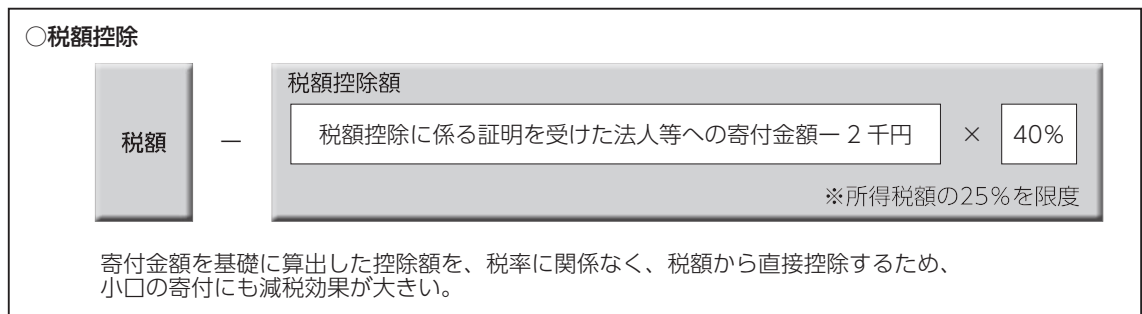


(1) 所得税

【今回導入された制度】税額からの控除

(「領収書」と「税額控除に係る証明書(写し)」が必要)

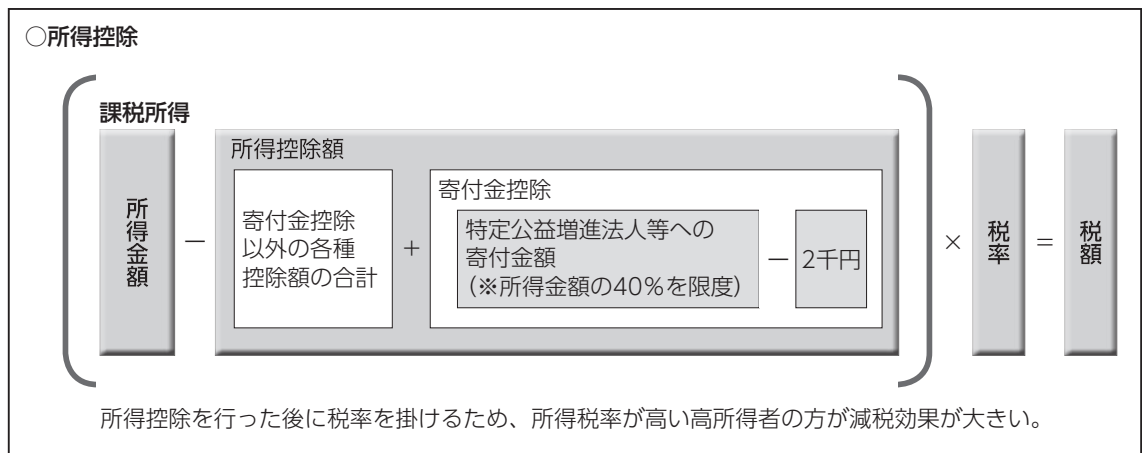
当該年中に支出した寄付金の額が2千円を超える場合には、下記の算式により、その年の所得税額から税額控除が受けられます。
(※平成23年分以後の所得税に適用されます。)



【従来からの制度】所得金額からの寄付金控除

(「領収書」と「特定公益増進法人であることの証明書(写し)」が必要)

当該年中に支出した寄付金の額が2千円を超える場合には、下記の算式により、その年の所得金額から寄付金控除が受けられます。



(2) 住民税

特定公益増進法人の認可を受けている学校法人が、自治体の条例によって認定された場合、住民税が寄付金税額控除の対象となります。個人がその年に支出した寄付金の額が2千円(従来は5千円)を超える場合で、住民税を納税されている自治体が認定した学校法人に寄付された場合は、住民税の控除を受けることができるようになりました(※平成24年分以後の個人住民税に適用されます)。詳細は住民税を納税されている自治体にお問い合わせください。なお、本学キャンパス所在地のうち、控除適用が可能な自治体は大阪市と茨木市であることを確認しております(※摂津市は適用対象外)。

クラブ学生の4年間をトータルで支援する

「スポーツ文化振興室」の設立について

「スポーツ文化振興室」は、留学生を支援する国際交流課、大学院生を支援する大学院事務室のように主にクラブ学生に対し、学生生活をはじめ履修、就職までの入口から出口までトータルで支援することを目的として設立しました。特にスポーツ AO 入試合格者に対して、競技面はもちろんのこと、学習面や生活態度の面でもリーダーとして活躍出来るように積極的に支援していきたいと考えております。

以下、現在「スポーツ文化振興室」で想定しているクラブ学生への支援を挙げさせていただきます。



学生委員長 宋 仁守
経済学部教授

◆クラブ学生に対する啓蒙教育

各種のセミナーや面談を通じてリーダーとしての意識づけを行います。大学スポーツの意義と将来のキャリアイメージの形成を行います。

◆履修指導

教務課と連携し、特にスポーツ AO 入試入学者へのクラブと学業を両立出来る履修の組み方の提案や指導を行います。

◆クラブ別面談

クラブの幹部学生と定期的に面談を行い、各クラブの悩みや要望をいち早く把握し対策を講じます。

◆成績不振者面談

スポーツ AO 入試入学者を中心に、成績不振のクラブ学生に対して個別面談を実施。必要に応じて、親や指導者と協力してクラブ学生の成績不振者の減少を図ります。

◆就職指導

就職課と連携し、クラブ別就職セミナーを実施し、就職課面談の仲介、体育会合同マッチングセミナーの実施、他大学との体育会合同マッチングセミナー等の企画を行います。

◆クラブ指導者や教員（部長、ゼミ担当）、学生との橋渡し

クラブ員の履修状況や成績等の学生情報の提供等により、クラブ指導者に学生の大学での状況を伝え、大学と現場を繋ぎます。

◆メンタル面でのフォロー

心に悩みを持つクラブ学生に対し、学生相談室とのパイプを活かした心理的サポートを行います。また必要に応じて、メンタルトレーニング講座の開講等を検討します。

以上のように、学生を細やかにフォローし、中途退学者を可能な限り減らすこと、また単位修得上の問題点等の解決を図り、課外活動全体の活性化をクラブの学生達と一緒に考えていきたいと考えております。しかしまだスタートしたばかりで不確定要素も多く、同窓会、クラブ OB / OG の方のご支援ご協力が不可欠です。何卒、お力添え頂きますようよろしくお願いします。



北海道支部

支部総会出席率No.1？



昨年、10月21日(金)、札幌市にて北海道支部総会および懇親会を開催しました。年に1度、会員が集う場として毎年この時期に実施しています。

会員8名の参加にとどまりましたが、会員総数32名ですので、25%の出席率です。多い年には30%を超える出席率を記録しております。

少人数で一体感のある懇親会が北海道支部の特徴で、会員同士の関係が家族のような雰囲気を保っています。

学校から井形浩治経営学部長、同窓会から小林真人常務理事のご出席をいただき、学校の現状などを訊かせていただきました。

母校があり、同窓会があり、支部懇親会ができる事をありがたく思い、毎年参加したいと思います。 鵜飼康正 (51回)

富山支部

古都の老舗で盛大に開催



富山県支部総会は、昨年7月9日(土)富山県高岡市「大野屋」にて開催いたしました。昨年度は会員の皆様から要望のありました富山県西部での開催を企画しました。高岡市は開封400年の歴史がある町で、市内には古い町並みや歴史ある建物が多いところです。当日は、16名の皆様が参加されました。

同窓会からは田村正晴同窓会副会長、大学からは勝田泰久理事長に、ご多用中にもかかわらずご臨席いただきました。

支部総会の参加者が少ない現状について、参加者から若年者に受け入れやすい雰囲気や提案をするべきではないかとの積極的な意見があり、今後の支部活動の活性化に役立てていきたいと感じました。また、当日ご都合で欠席された会員の皆様も、近況や住所変更など書いていただけたことが多く、それを励みに会員の皆様と繋がりを深めたいと期待しています。 支部長 小泉俊夫 (30回)

東京支部

大震災後の同窓会



未曾有の大震災後、初めての東京支部の同窓会を昨年9月15日(木)に開催しました。

当日も開催の1時間前に余震がありましたが、ご多忙の中、当日は来賓として高塚事務局長、田村同窓会副会長に出席して頂きました。今年は当日参加の人も合わせて50名以上の方(写真は一部のご出席者)に参加して頂き和やかな雰囲気での時間が進みました。

私自身としては、今年から幹事として参加しましたが、これまでの諸先輩方々のご苦勞も実感することができ、来年以降は、もっと出席者を増やしていくために葉書だけではなくメール等の環境も利用して、同窓会を盛り上げていければと思っています。

今年も多数のご出席のほどよろしくお祈りします。

幹事 嶋川史剛(61回)

石川支部

石川支部が再活動 新支部長に鍛冶一英さん(36回)



平成23年5月28日(土)午後3時 金沢スカイホテルにおいて、総会及び懇親会を開催したところ、36名の校友の出席を得ました。

総会の開始にあたり物故者への黙祷を捧げ故人を偲びました。

卒業以来長きに亘り、石川県人会を率いて下さいました21回卒・柚木繁支部長より「世代交代、若手に活躍して貰いたい。」との申し出が再三あり、規約の作成等の準備に入り5月28日の総会への運びとなりました。36回卒・鍛冶一英氏が新支部長の承認を受け、新スタッフにてスタートしました。新支部長のもと、更に組織充実のため、33回卒・田中治夫氏(能登部会)、37回卒・安土達雄氏(南加賀部会)、37回卒・南喜久雄氏(金沢方面)お三方に副支部長を務めて頂く事になり、今後の活動の協力体制が整いました。

総会当日は、本校にて全国の支部長会が開催され、お忙しい中から大学より、前教務委員長・元学長補佐の山田文明先生にご出席賜り、取り巻く環境、近況等お話しして頂きました。

懇親会では、最初に学歌斉唱、新支部長挨拶、19回卒・富岡省三氏の乾杯で賑やかに開始。全員の紹介の後、名刺交換、久しぶりの校友と、話に花が咲きた、カラオケも飛び出し、37回卒大窪信吉氏の「鶴亀」の語で締めくくりました。中締めには逍遙歌を全員肩を組み円陣になって歌い、最後は39回卒・嵐 良隆氏の万歳三唱、32回卒・前多邦治氏の閉会の辞で散会となりました。

大多(小林)寿栄子(34回)

福井支部

支部活性化に新事業を考える



平成23年6月18日、大学から河井保雄学生部長、同窓会から平田義行常務理事・広報部長両氏を福井パレスホテルにお迎えし、平成23年度福井支部総会を開催しました。

新たな会員参加を進めるために、これまで3ヶ年間にわたって講演会、演奏会などいろいろなアトラクションを実施して成果をあげてきましたが、23年度は、収支決算の承認の後、さらに支部の発展を積極的に進めるために、参加者の意見を求める時間を設けました。短い時間ではありましたが、その中で「会員の中から何人かのメンバーを選出し、活性化のための新たな事業の展開」を考えてはどうかとの意見が出されました。支部の内部組織である大淀会の例会にも話を出したところ、在学生の就職活動に少しでも役立てればということで、年内にもキャリアセミナーを開催することで話がまとまりました。

一人でも多くの卒業生が参加して支部活動がさらに活性化するように、今後とも新たな事業に取り組んでいきます。

支部長 石橋隆夫(32回)

静岡支部

和気あいあい



平成23年8月28日(日)、大学事務局次長佐々木様、同窓会事務局次長梶村様のご出席を頂き、支部総会を開催いたしました。昨年、支部会員に対し同窓会に対するアンケート調査を実施し、同窓会を盛り上げようと計画してまいりましたが、今回の出席者は前支部長をはじめ6人と少人数でした。しかし話は盛り上がり、同窓会や大学の近況等、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回の支部総会では、来年こそ出席者を倍増できるよう役員一同が努力することを決意いたしました。これからも一人でも多くの会員に出席いただき、活発な同窓会になるよう皆様の協力をよろしくお願いします。

支部長 大塩博喜(40回)

愛知支部

勝田理事長のお話に感銘



平成23年度同窓会大樟会愛知支部総会を9月11日(日)名古屋駅前の名鉄ニューグランドホテルにて開催致しました。

当日は大学より勝田理事長をはじめ同窓会本部より佐藤会長、竹中事務局長、支部より岐阜の長崎支部長、京都の田中支部長の出席をいただいていた行いました。

来賓ご挨拶の中において勝田理事長でないと聞けない様なお話をざっくばらんに、きめ細かく大学の現状についてお話していただきました。同窓会の佐藤会長より80周年の募金の事、各支部の現状、特に上海支部の立ち上げの話などを聞かせて頂きました。

総会の議事において支部の会計より10万円、80周年の募金をする事が了承されました。

懇親会に移り、出席者全員和やかな雰囲気の中話が弾み、時間の経つのも忘れる程でした。宴が盛り上がる中、赤塚副支部長の一本締めで閉会しました。

(追伸)懇案の岐阜支部の件で岐阜長崎支部長と同窓会本部の竹中事務局長との話し合いの結果、ハガキによるアンケートで今後の方向を決定します。愛知支部としては方向が決定すれば如何なる協力も致します。

支部長 五十棲保彦(32回)

京都支部

鴨川のほとりに同窓の友が大集合



平成23年11月25日(金)東華菜館にて、京都支部総会を開催致しました。ご来賓として、北村教授・理事、高塚事務局長、佐藤同窓会長、田村同副会長、並びに五十棲愛知支部長、平田北大阪支部長、大門北摂支部長、高本但馬支部長、空保同副支部長、馬場滋賀支部長代理の各氏にご臨席賜りました。出席総数は59名にもなり、会場は大いに盛り上がりしました。スピーチでは10回卒の池田大先輩から黒正先生の思い出話を、又ひ孫世代76回卒の勝又君からは、彼が実践する安心、安全な未来型農業への夢をお聞きました。余りの盛り上がりの為、お別れし難い雰囲気となって参りましたが、残念ながら予定の時刻が迫ってきました。最後に、28回卒の高橋先輩のリードにて学歌、逍遥歌を全員で斉唱してお開きとなりました。まだ参加されていない支部会員の皆様、こんなに楽しい総会にぜひご出席下さい。お待ちしております。

支部長 田中伸治(45回)

支部だより

北大阪支部

88名が支部会員に、初の総会がビールパーティ



平成22年11月3日に誕生しました北大阪支部(大阪府吹田市・茨木市・摂津市)の初の支部総会が40名の出席を得、大学で開きました。当支部は母校支援に意のある方が参加するということで「会員制」とし帰属意識を共有するため「会費(年¥1000)」を収めることで参加者を募りましたところ、88名が支部に入会されました。また、平成23年3月の卒業生(対象92名)にも新人歓迎会として無料招待を呼びかけましたところ、女性1名が参加されました。ちなみに会員の卒業平均は昭和52年の43回卒、平均年齢は57歳と若い世代の方が多くようです。会員は区切りとして100名を目指します。

昨年の7月2日の第2回総会では皆さんの自己紹介と会則・役員紹介、今後の活動については全員にアンケートをお願いしできることから実施することを確認し、会員名簿を発行、当日の欠席者にも配布しました。

懇親会はビヤガーデン風で、ジョッキを片手に老若男女、世代を超えての交流が広がり、若い方の即席のストリートダンスは大喝采でした。

支部長 平田義行(31回)

北摂支部

49名の参加で盛大に開く



平成23年2月19日、高槻市民会館で同窓生49名の参加で総会を開催致しました。来賓として大学より前学長の重森先生はじめ事務局次長佐々木様、本部より佐藤会長、齋総務部長、近隣の三支部より田中、森川、平田各支部長のご出席を賜りました。

佐々木次長様からは大学の近況、佐藤会長からは大学創立80周年募金事業計画につき詳細な説明がありました。

総会は前年度事業・決算報告の承認、今年度の事業方針の決定・収支予算の承認を決議致しました。特に80周年記念募金につき、大学への寄与を志として、支部同窓生の皆様のご理解を賜りますようお願い致します。

引き続き講演では高槻市在住でYMCA活動委員長の森本栄三様より「ノーベル賞者マザーテレサ生誕百年」のテーマでその交反と彼女の志操と生活につきお話をされました。

今年の各行事へ支部の皆さんがにぎやかに参加されんことをお願い致します。

支部長 大門壽郎(29回)

泉南支部

2年に一度、心ゆくまで親睦



2年に一度開催の泉南支部総会が、平成23年10月22日りんくうタウンの関空エアポートワシントンホテルで開催されました。

来賓として草薙副学長、平田同窓会本部広報部長等をお迎えし、出席者は総員20名でした。車野支部長のあいさつの後、副学長、広報部長よりあいさつをいただき、最近の大学をとりまく近況、風景が思い起こされ非常に懐かしい思いにかられました。近々ぜひ訪れてみたいと出席者のみんなが思ったことだろうと思います。講演会として前泉佐野市長 現大阪府議会議員維新の会、新田谷修司氏から日本メタボな大阪市の改革と大阪都構想について熱く語っていただきました。ありがとうございました。

土曜日の昼下がり、関西空港の見えるホテルで心ゆくまで親睦を深めました。

塩谷善一郎(39回)

豊中支部

新支部長が選出されました



第27回通常総会並びに懇親会が平成23年10月15日、ホテルアイボリーで盛大に開催されました。27名ご出席をいただき、大学より理事の崎田洋一様、同窓会の佐藤武司会長、竹中亨事務局長、廣野義直常務理事の皆様が来られました。そして大学講師の桂小蘭先生から「華南経済圏の社会と文化」の講演をしていただき、その後懇親会も、有意義に和やかに終わりました。ご出席いただいた方々には厚くお礼を申し上げます。

また前支部長の青木様には6年間務められて、ご苦労さまでした。後任の支部長になりました植田です。よろしくお願い致します。当支部の親睦活動は毎年色々と活動しております。10月19日丹有支部との親睦ゴルフコンペ(サンダCC27) 11月19日秋のハイキングで箕面公園、3月24日麻雀大会、4月15日春のハイキング千里中央公園、5月16日春のゴルフコンペ、6月17日カラオケ大会、7月8日ボーリング大会等、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

支部長 植田富雄(38回)

北河内支部

第4回北河内支部総会を開催



台風2号の接近で早朝から大雨洪水警報が出る悪天候にもかかわらず、5月29日(日) 11時から寝屋川市の「がんこ寝屋川店」に会員30名が出席して第4回支部総会が行われた。来賓として、学校側から勝田泰久理事長が、同窓会本部から平田義行常務理事、隣接支部から角野力北大阪支部副支部長、北摂支部から細井三郎幹事の方々にご出席を頂き、総会に花を添えていただいた。

総会に先立って挨拶に立った勝田理事長から「来年本学は創立80周年を迎えます。これに向けてすでに学生会館、体育館の建設を終え、目下事務棟と図書館の建設中で、最終14年までにすべての建物が耐震性に優れ、学生が安心して学業に専念できる建物に生まれ変わります。問題は中身をどうするかであります。企業の求める人材にどう育てていくかであります。有言実行、数だけでなく質を高める、これをモットーに頑張りますのでよろしくご支援をお願いします」との活気あふれる学内事情報告をいただき、平田常務理事からも「今年の同窓会総会は大学のホームカミングデーと同時開催の10月30日(日)としたこと、さらに80周年募金の同窓会目標2億円をお忘れなく」との挨拶を頂戴した。

その後山本寿照氏(33回卒)を議長に選出、平成22年度事業報告、会計決算報告を承認、各種イベント計画を織り込んだ平成23年度事業計画案、同会計予算案を可決、総会を終了した。

引き続き井上英文氏(社会経済史学会会員)の「東海道57次と参勤交代」と題する講演会に移り、徳川時代中期の守口周辺の宿場事情を知ることができ、会員一同熱心に拝聴した。

第2部の懇親会に入り参加者全員が近況を述べ合い、最後は全員で学歌と逍遙歌で締めくくって、次回の再会を誓って散会した。

支部長 森川義一(25回)

大阪市役所支部

80周年募金に全力で取組む



同窓会の皆様、ご無沙汰しております。大阪市役所支部総会を平成23年11月16日、ヴィアール大阪において開催することができました。当日、大学からは藤原総務部長にご出席いただき、大学の現状を詳しくご報告いただきました。また、同窓会からは、廣野常務理事に、また近隣支部のよしみで植田豊中支部長にも来ていただきました。創立80周年を今秋に控え、わが支部も寄付金に全力で取り組んで参ります。次回はもっと多くの同窓生に参加していただくことを全員で決意しました。次回の開催は平成24年の秋頃を予定しています。よろしくお願いします。

支部長 南 正治(43回)

堺支部

今年の支部創立10周年を成功させよう



平成23年11月13日(日)、大阪難波ホテル一栄において、第9回堺支部総会が開かれました。開会に先立ち大学々歌を斉唱し、今年故人となった方々を忍んで黙祷を行ないました。堀本支部長から今回の出席者が少ないのは残念だが、来年の堺支部の創立10周年は盛大に記念式典を挙行したい。今から準備をして多くの方々に出席してもらいたいと挨拶されました。次いで来賓として大学から理事・事務局次長の崎田洋一氏から大学の状況を、同窓会本部から竹中亨事務局次長が創立80周年を迎え色々な事業が進んでおり、皆様および支部からの寄付をお願いしたいと挨拶されました。議事に沿って本年度事業報告、活動状況、(旅行会、ゴルフ会、懇話会)会計報告、会計監査が行われました。役員の改選時期に当り、来年度の事業計画、予算と共に拍手で承認され、引き続き第二部に移り42回卒の木下浩二氏の発声で乾杯し懇親会がはじまりました。和気あいあいの中、日頃の旧交を温めたり、情報の交換などが会場いっぱいで行われました。最後に来年の10周年記念総会準備委員長の馬場啓充副支部長から旅行およびゴルフについてのアンケート結果が発表され、実行準備担当者が発表しました。

〈お知らせ〉

第10回大阪経済大学同窓会堺支部総会および記念式典を下記のとおり開催します。

日時 平成24年11月18日(日) 午前11時受付 11時30分開会
場所 リーガロイヤルホテル堺 利休の間

☎ 072-224-1121 (南海本線 堺駅下車 3分)

副支部長 見学捷太郎(28回)

丹有支部

秋の丹波路を散策



同窓会本部から佐藤会長、大学からは梅原経済学部長を迎え、丹波柏原の地で平成23年11月6日、丹有支部総会を開催致しました。

柏原の歴史をひもとけば、織田、明智、豊臣と歴史上の人物とのゆかりが深く、秋の気配と共に歴史を感じながら散策致しました。当日は丹波まるごと味覚フェアが行われており、ご当地グルメも楽しみました。懇親会では年代を越え学生時代の思い出話にしばし時間が経つのを忘れるほどでした。次回は三田にて開催を予定しております。

事務局長 藤林靖浩(50回)

支部だより

尼崎支部

若手の副支部長に期待



尼崎支部は平成23年度支部総会を4月27日に尼崎商工会議所にて開催しました。来賓として勝田泰久理事長、佐藤武司同窓会会長、竹中亨同窓会事務局長、山本晴義元学長のご出席と会員32名の参加がありました。

前支部長の小谷氏が亡くなられましたので全員で黙祷し、ご冥福を祈りながらの総会の開催となりました。藤縄事務局長の挨拶の後勝田理事長、佐藤同窓会会長より御祝辞をいただき、会計報告・役員の改選を行いました。今回の改選で支部長に久保太郎(昭和40年卒)、副支部長に福島裕規様(平成11年卒)、松浦雄一郎様(平成16年卒)が就任されました。副支部長を若手をお願いする事で支部の発展を期待しております。

懇親会は芝罎雄様(昭和24年卒)の乾杯にて始まり、途中ビンゴゲームをして楽しい時間を過ごしました。最後に学歌を熱唱して神代憲治様(昭和36年卒)に締めの挨拶と万歳三唱をしていただき今後の同窓会の発展を願いながら散会しました。今回の役員改選で副支部長を若手をお願いする事で支部の発展を期待しております。また若手の参加もお待ちしております。

支部長 久保太郎(31回)

伊丹支部

地域の活性化に貢献していく



6月11日、あじさいセンターにて平成23年度伊丹支部総会を開催しました。当日は総会に先立ち「伊丹散策」と題し、伊丹市内にある歴史的建造物や旧跡を訪ねるという企画を用意していましたが、あいにくの悪天候のため残念ながら中止となりました。しかし午後からは天候も回復し、午後4時からの総会のほうは予定通り開催。

来賓に大学より佐々木繁事務局長、同窓会より進木伸次郎組織部長(阪神支部長)、廣野義直常務理事(丹有支部長)、山形輝三池田支部副支部長をお迎えし、20名の会員が参加して開催されました。来賓のごあいさつのあと、前年度の事業報告、決算報告につづき新年度の事業方針・予算案を全会一致で承認いたしました。また、今回中止となった伊丹散策について、日を改めて開催したい提案がなされ、こちらも全会一致で承認されました。

総会終了後懇親会は今回、同窓生が市内で経営されている「すし善」

の仕出し料理を注文。美味しい料理と冷たいビールに一同舌鼓を打ちながら、参加者全員の近況報告を交え和気藹々とした雰囲気の中で歓談のひとときを過ごしました。

伊丹支部では、活動の基本として(1)大学発展に寄与する(2)地域の活性化に貢献する(3)会員相互の親睦を深めるの3点を基本にしておりますが、その一環として8月には市内の児童福祉施設でのボランティア活動や、秋の「宮前まつり」への参加など、地域に根差した活動をおこないました。今回は私が最年少での総会参加となりましたが、老いも若きも一緒になって年齢を気にせず活動できるのが、この伊丹支部の良いところだと思っております。若い世代の皆さんのご参加をお待ちしております!

岡田隆義(54回)

神戸支部

参加者の年齢層を広げ、女性の出席増を目指す



平成23年度神戸支部総会は、平成23年9月18日(日) 12時より、神戸・元町駅北側の「パレス神戸」に於いて開催いたしました。総会には、大学から城達也人間科学部長、同窓会から佐藤武司会長、菊川和義常務理事、尼崎支部・久保太郎支部長、伊丹支部・本庄和郎幹事、淡路島支部・竹内通弘支部長、但馬支部・高本勲支部長にご臨席を賜り、来賓の皆様から現在の大学を取り巻く状況や卒業生の就職状況、同窓会の活動状況などの報告と今後の同窓会の在り方、そして同窓生の活躍情報等心温まるご挨拶をいただきまして、出席者52名で支部総会の幕が開けられました。

今年は結果として昨年より1割ほど減りましたが、近隣の支部長並びに役員の皆様が遠方にもかかわらずご臨席を賜ったことが、支部長として本当にありがたく思いました。

また、中ほどで、会員であり、現在、神戸夙川学院大学の小野田教授より「観光」に関する講演を行っていただき、その後、恒例の抽選会を今年もビンゴゲームを行い、盛りあがったところで予定の2時間半も、あっという間に過ぎ、最後に逍遙歌を全員で斉唱して閉会といたしました。

神戸支部総会は、女性や新卒者にもたくさん出席していただくことを目標に、実行委員会を立上げ、開催日も日曜日の昼に設定し、今回の総会に至りました。

そのため、来年の目標は「参加年齢層の幅の広さと充実、そして多くの女性会員の参加」として掲げ、既に来年の総会開催日を平成24年9月30日(日曜日)正午開会に決めましたので、この「瀬江」を読まれた方はもちろんのこと、近頃の同窓生にお知らせいただき、何とか目標を達成したいと思います。

支部長 下土井康晴(25回)

但馬支部

「大経大クイズ」で盛り上がる



平成23年度但馬支部総会を、7月9日(土)午後5時より朝来市の「多々良木みのり館」にて開催しました。当日は大学側から崎田洋一事務局次長、同窓会から佐藤武司同窓会長、また久保太郎尼崎支部長、下土井康晴神戸支部長、廣野義直丹有支部長に来賓としてご出席頂きました。支部会員の参加は18名で、平成22年度の事業報告並びに決算報告、平成23年度の事業計画案並びに予算案等の議案を慎重審議のうえ可決、懇親会に移りました。

懇親会では「大阪経済大学クイズ」と題して、支部の名物事務局員秋山秀樹君と椿野浩志君の2人が考えた、大経大にちなんだマニアックなクイズで大いに盛り上がり、あっという間に2時間が過ぎました。皆さんには非常に楽しい一時を過ごせて頂けたと思います。懇親会終了後も約10名の方が宿泊され、深夜まで話が盛り上がったようです。次の支部総会には今回以上に多くの卒業生の参加をお待ちしております。

事務局長 藤原将之(48回)

明石支部

荒天の中、約40名が参加



明石支部総会は、平成23年9月3日(土)午後6時より、大型台風12号が接近してくるなか、「西明石キャスルプラザ」において開催いたしました。大荒れの天候にもかかわらず、大学側から北村實理事、同窓会から田村正晴副会長、神戸支部から下土井康晴支部長、丹有支部から廣野義直支部長、北播磨支部から伊藤俊博支部長、姫路支部から林和信支部長にもご出席いただき、総勢40名近くの参加者で開催されました。

総会では、佐藤武司支部長の挨拶の後、来賓の皆様から現在の大学を取り巻く状況等の報告をしていただきました。懇親会では、恒例のビンゴゲームを楽しんだりしながら、最後に学歌・逍遥歌を熱唱し、閉会しました。二次会は近くのカラオケステージを貸し切り、参加者の半数近くの方が、和気藹々の中、自慢の喉を披露していました。

来年も多くの皆様のご参加を得て、盛大な総会にしたいと思います。

吉本明浩(41回)

北播磨支部

母校で大樟会総会に参加



昨秋、同窓会本部「大樟会」総会への参加を兼ねて懐かしい母校で出席者15名で総会を開催しました。当日は、大学より徳永光俊学長と同窓会の佐藤武司会長にご出席いただき、最近の大学の様子や同窓会活動、さらに80周年記念事業について詳しく説明を頂きました。

総会終了後、キャンパスで開催されていた大樟祭を見学し、現役学生の皆さんの若いパワーを吸収しました。その後、D館で開催された大樟会総会に参加。参加者からは、「昔、確かこの教室で授業を受けたよな。その頃は新しい建物やったのに改築されるんやな」と時代の流れの一端を感じたりもしました。(教室に入ると途端にうたた寝をしていた方がいたのは、昔の習性でしょうか)

総会終了後は大阪市生野区「生野コリアンタウン」の焼肉店に場所を移して、昼食懇親会を開催し、本場韓国の民族料理に舌鼓を打ちながらの楽しい交流会となりました。

23年度支部事業のトピックスとして、東日本大震災直後で延期していた関西大学小野支部同窓会とのゴルフ交流戦を、9月に加東市のレークスワンCCで開催し、当支部が勝利しました。支部長 伊藤俊博(32回)

東播磨支部

27年振りに『東播磨支部』が再興となりました！



2011年11月26日、加古川市、高砂市、加古郡稲美町、加古郡播磨町の2市2町の同窓生で、東播磨支部の再興を果たしました。再興総会には、大学より城達也人間科学部長、同窓会より佐藤会長、平田広報部長、林姫路支部長、竹中事務局長、梶村事務局次長を加古川プラザホテルにお迎え開催いたしました。

参加者は24回から75回卒業まで老若男女と幅広く集っていただき、一部の再興総会においては、①再興設立決定、②新会則制定、③新役員選出の主要議案を満場一致の拍手でご承認いただきました。そして、引き続き開催の第二部 懇親会は、あっという間の2時間で、流石同窓生と強く感銘する素晴らしい自己紹介で卒業後のキャリアもご披露いただき、これは役員がしっかりとこの絆を繋げて行かなければと、皆さまの力強さに圧倒される新鮮な一時でした。

これからは、同窓会事務局や各地域支部長様のご指導をいただきながら勉強することとなりますが、会員には色んな媒体を使って情報をお伝えし、またお聞きする機会を作ることで連携し、楽しく優しい運営を心がけますので、皆さまのご指導をよろしくお願いいたします。

支部長 西川嘉紀(33回)

支部だより

備後支部

年々出席者が増える、10分間スピーチも好評



2年振りの総会は、平成23年11月23日福山ニューキャッスルホテルで開催されました。今回の出席者は前回より5名、前々回より13名多い32名でした。特に定年退職者の参加が顕著でした。その中で一輪の花を咲かせてくれたのは、75回の藤田愛美さんでした。44回の細川康弘君と福山の看護学校で同級生だとか。(微笑ましい事です)

恒例により、同窓会本部平田広報部長並びに大学事務局次長佐々木さんの学園近況報告の後、第2回目となる『話題の同窓生10分間スピーチ』は税理士平井義正氏(37回)が、この業界では珍しいISO9001を取得し15名の職員を擁するまでの、色々な苦労話を素直にされました。うれしい事に、当支部では今後まだ出席者が増加すると思われます。

長年使った会場ですが、2年後の総会はずっとゆったりした、もっと食事の充実した、しかも会費は据置き(5,000円)で、和気藹藹とした総会を挙行したいと思います。 副支部長 畠 輝雄(36回)

淡路島支部

母校での支部総会が初めて実現



10月30日午前7時からマイクロバスで2時間半、大樟会総会とホームカミングデーの準備で大わらわの大学キャンパス前に到着。E館(50周年記念館)7F会議室にて阪神在住の会員も合流、第21回淡路島支部総会を盛大に開催しました。洲本市長就任1年半余の竹内通弘支部長より全参加者へお礼の挨拶、大学より佐々木繁事務局次長、佐藤武司同窓会長から心温まる歓迎のお言葉とご祝辞を賜り、議事案件を提案、承認を頂き支部総会は終了。

続いて「大樟会総会」参加のため、D館36教室へ移動。本学の勝田理事長や徳永学長および佐藤同窓会長から創立80周年を迎える経過や今後の計画が話され、参加者に一層の協力・支援を要請。感謝状贈呈と李容淑氏の記念講演で総会終了。昔の風景から生まれ変わしつつあるキャンパスを感慨に浸りながら歩き、交流レセプション会場の学生会館へ。場内に設営された一つのテーブルに淡路島会員が囲み、相互の親睦を図ると共に近隣支部会員との交流も深めることができ、最後に全参加者で学歌・逍遙歌を斉唱、明年の再会を誓い合いました。

年に一度の総会・親睦会、24年度は淡路で開催予定です。卒業生の皆さまと共に一人でも多くの方々の参加者で開催してまいります！ 事務局次長 喜田憲康(40回)

奈良支部

新卒支部員2人も参加、盛り上がるやまとのメンバー



平成23年11月6日、奈良公園近くの奈良商工会議所ホールで支部員32人に草薙信昭副学長、下垣恒彦常務理事を迎えて開催した。

情報社会学部の新設や新図書館の建設、学生と教員の交流をテーマにした「J館」の竣工など、ますます充実する教育環境の設備状況を副学長らが話された。

総会には77回卒業の宇田健太郎さん、保田まち子さんの2人が初参加、さらに73回卒の東口弘幸さんも前回に引き続き参加するなど、支部総会「若返り」の兆しが。

院卒の保田さんは早速、会計事務所を開き顧客の開拓を始めたが「何としてでも、まずは一軒のお客さまを・・・」と猛アタック中だとか。彼女の話に先輩支部員らも応援を約束していた。

午後からは会場に隣接した「やまと旬菜・三笠」で懇親会。舌の上で踊りだすほど新鮮な刺身、地元野菜を使った数々の創作料理を堪能。西本集一支部長らの話でいっそうの盛り上がりとなり、次回の盛況を誓い合った。 山本長彦(32回)

和歌山支部

新役員2名を選出



和歌山支部は平成23年度支部総会を9月17日(土)にホテルグランピア和歌山において、来賓として大学から勝田泰久理事長、同窓会から竹中 亨事務局次長、車野修三泉南支部長をお迎えして、39名の参加者で盛大に開催しました。

新田支部長の挨拶の後、勝田理事長より創立80周年を迎える大学の現況、卒業生の就職状況の報告、記念募金へのご協力等のご祝辞を頂きました。

今回は新役員として西 芳男(36回)が事務局次長、坂東俊治(39回)が会計監査として選出され、幹事の皆様の協力を頂いて支部活動を行うことになりました。また、参加者のご賛同を頂き記念募金に支部から30万円寄付することも決めました。

場所を変えて二次会のカラオケの会にも、20名を超える人が参加して、自慢ののどを披露して和やかな時間を過ごしました。

今後、支部の発展と会員の交流・親睦に取り組んでいきます。

支部長 新田和弘(32回)

岡山支部

総会は毎年7月第1土曜日に開催



12期の大先輩から今年卒業の77期までの、岡山在住の同窓生50人以上が暑い中、集まりました。

毎回参加の人、久しぶりの人、初めての人がいましたが、同窓生であるためか瞬間に楽しい会話が始まりました。

総会では大学本部から母校の近況報告があり、来年の創立80周年に向けますます発展との話を聞き、一同大変うれしく思いました。

懇親会では、乾杯と同時にあちこちで話が盛り上がり、笑い声が弾け、楽しい時間を過ごしました。

最後に全員で肩を組み、学歌、逍遙歌を合唱し、来年の再会を約して宴を終えました。

学歌、逍遙歌を共に歌うことで絆が一層強まった思いがしました。岡山在住の同窓生の皆さん、毎年7月の第1土曜日に同窓会支部総会を行っております。

是非 来て下さい。そして共に楽しい時間を過ごしましょう。

支部長 松永清彦(41回)

広島支部

仕掛けを考え、活性化を図る



平成22年はマツダスタジアム球場での総会から、昨年は44回の渡辺洋一郎先輩が富山のANAクラウンプラザから転勤され、広島総会配人に着任されたのを期に会場を移しての総会開催となりました。渡辺先輩のご厚意によるシャンパンの乾杯でのスタート。

井形経営学部長様から大学の現状報告と、学部長先生の奥様の実家が広島であることの紹介等々。小林常務理事様からは同窓会の動向、80周年記念事業の現状取り組み報告等々がありました。

メインである1人ひとり自己紹介。常連の先輩、後輩に混じって、今回初めて参加された方3名、久しぶりに参加された方2名。和気藹々と進んでゆきました。今回は、50回台の後輩が転勤の為、広島を離れてしまい、なかなか転入の情報が掴めない為、増員できない点が課題です。最後に学歌、逍遙歌を皆さんで大合唱してお開きとなりました。

今年は節目の70回を迎える支部総会。さらに次回、ゴルフコンペ、忘年会(新年会かも)等行事で再会を約束しました。まだまだ若い年代の参加が少ない課題を残していますがいろいろ仕掛けを考え今後も活性化に努めていきたいと思います。

支部長 陰山秀明(44回)

津山支部

ひざを交え、和やかなひと時



平成23年8月20日、大学から高塚理事・事務局長、同窓会本部より梶村事務局次長、岡山支部小野前支部長、松永新支部長の皆さんを始め、多くのご出席をいただき、総会を盛会裏に開催することができました。

特にJA職員46期村上さん、50期大谷さん、70期土居さん、津山出身36期安藤さん、ご両親が津山出身28期藤本さんらが初参加で、会の雰囲気大いに盛り上げて頂き、有難うございました。また高塚様と松永様が同期でゼミも一緒だったとのこと、偶然の出会いと話題集中!

今年は真庭地域での開催が決定、地元の皆さんぜひ出席をよろしくお願い致します。

初参加の皆さんから自己紹介を兼ねてのスピーチ、また久しぶりにひざを交えてのコミュニケーションと和やかなひと時を過ごすことができました。

今年も、皆さんの参加を得て盛大な総会にしましょう!

支部長 竹本 巧(37回)

姫路支部

女性や新規の参加者を増やそう一支部長



平成23年度姫路支部総会は、10月22日(土)正午より姫路キャッスルホテルで50名の参加者で開催いたしました。林支部長の開会挨拶の後、来賓として大学より北村理事・経営学部教授、同窓会から佐藤会長をはじめ但馬支部からもご出席を賜りました。皆様より現在の大学の状況、卒業生の就職状況、近隣の同窓会活動状況、創立80周年事業の活動状況等の報告を兼ねた挨拶をいただきました。さらに会計報告に続いて80周年記念事業への寄付金決議を行いました。記念撮影の後、懇親会にはいり、和気あいあいとした自己紹介などを通じて大いに会員の親睦をはかりました。最後に全員で学歌・逍遙歌を合唱し、懐かしくも大変楽しいひと時を過ごすことができました。今後の課題として支部長からも女性、新規の参加者を増やすため、何らかの方策が必要であるとの意見がありました。出席者の皆さんは、大学の一層の発展とお互いのご健勝を祈念しながら、来年度の再開を誓い合って散会しました。ちなみに今回の総会記念品は前支部長森口製あん製の和菓子をご協力いただきました。

副支部長 上野隆裕(40回)

支部だより

山口支部

出席者は現状維持がやっと



山口支部総会は11月19日(土)大学から梅原英治経済学部長、同窓会からは丹有支部長で廣野義直常務理事、また近隣の支部からは濱忍熊本支部長、植田達三北九州支部長らのご来賓を迎えて前月開催された山口国体へご臨席の天皇陛下が宿泊された「ホテルニュータナカ」で開催。当日の参加者21名のうち、支部会員は17名。全国各支部の平均参加率は3%弱だとのこと。ならば会員数200名なので出席率は8.5%、全国平均を上回っているのでは?と自己満足。

今年度山口県の現状は受験者78名、合格者21名、うち本学入学者はたったの4名。卒業後果たして何名が帰ってくるのか分かりませんが、会員の高齢化で出席辞退者がある中で、新しい参加者もあり現状維持というところです。

総会では梅原経済学部長から学部改変などの大学の現状が詳しく報告され、あまり母校の現状に疎い参加者にとって大いに参考になりました。

会員の中の関谷博氏は政令都市以外からは初めて全国市議会議員会会長に選出され、全国知事会、市長会などと共に地方6団体の代表として毎週官邸で政府高官との協議に臨んでいるということで超多忙人なのです。

参加者の顔ぶれは固定していますが、徐々にではあるものの、新会員の参加があることは将来に多少希望が持てるのかなあと淡い期待をしているところです。

支部長 小林真人(32回)

同窓会ホームページもご覧ください！

同窓会活動をより身近なものとして活用していただくために、HPを作成しております。年間行事予定などがあり、住所変更の申請も手軽にできるようになっています。休止していました掲示板が復活しましたのでご活用ください。ご活用いただきご意見、ご感想をお待ちしております。(詳細は、49ページをご覧ください)



HPアドレス

<http://www.osaka-ue-denko.com>

徳島支部

21名の会員が懐かしい思い出話



平成23年1月22日、本学より北村實経営学部教授、同窓会本部より佐藤武司同窓会会長をお迎えし、同窓生21人が集い、徳島県支部総会を行いました。昨今ニュースで耳にする関西有名校の合併話等についても、近年本校は受験生の志願数が多くなり、また就職についても完璧ではないが、他校よりは良い状況で進んでいるとお話をいただきました。また2012年に迎える本校創立80周年記念事業の説明をいただきました。

続いて徳島支部の事業実施報告、次年度の事業計画等の提案・決着をいただき、さらに恒例の懇親会へと、宴の盛り上がりにつれ三々五々集まり近況・懐かしい思い出話に時が経つのを忘れてのひと時を楽しみ、次回再会を約しながら閉会となりました。

山口勝敏(32回)

香川支部

オールディーズの生演奏に陶醉し大盛況！



平成23年7月2日(土)にルポール讃岐において28名の出席を賜り、香川支部総会を開催いたしました。来賓として本学より井形経営学部長他2名、大樟会より佐藤会長のご臨席を賜りリラックスした雰囲気の中で始まりました。来賓の皆さまより母校の入試状況、就職状況、新築建物進捗状況、創立80周年事業の活動状況等をご報告頂きました。

今回はわが支部の第4代支部長を長く努めておられた和田憲明氏が久々に出席され、また4名の市議会議員、町議会議員(同窓会員)もお越しになり和やかな中にも充実した同窓会となりました。

懇親会では愛媛支部より荒井正人氏(37回卒)が率いるピンクパンサーズによるオールディーズ演奏が始まると酒宴が最高潮に達し、和気藹々とした賑やかな雰囲気の中で恒例の大奥氏(46回卒)による豪快な閉めの音頭にてお開きとなりました。

今年は新規会員や女性会員の参加を増やし念願の50名結集を何としても果たすべく鋭意努力するつもりです。

支部長 鈴木澄夫(36回)

愛媛支部

「大経大プライド」を持とうー徳永学長



平成23年7月3日(日)今治国際ホテルにおいて大樟会愛媛支部総会が開催されました。私は初めて参加させて頂きましたが、大阪経済大学のOBの方たちが温かく接して頂き、場に慣れることに時間はかかりませんでした。

今回36名のご出席と、大学より徳永光俊学長が参加されました。総会では徳永学長より近況報告と大阪経済大学の目指す未来を話してくださいました。スポーツ、資格講座などにこれからも尽力していき、在学生やOB、OGにも「大経大プライド」を持ち続けてほしいとおっしゃっていました。大阪から離れてもこの思いを持ち続ける先輩方がたくさんおられ、学生の頃より支えられていたことに気づき、感銘を受けました。次回の総会にも参加できることを楽しみにしています。

渡邊圭充(77回)

北九州支部

支部総会に出席していただける、温かさに感謝



北九州支部同窓会を、平成23年10月15日博多市内のホテルで開催いたしました。大学来賓として経営情報学部長・家本教授、同窓会から広報部平田部長に遠方からご出席いただき、大学近況を報告されました。また近隣支部から濱熊本支部長、小林山口支部長が応援に駆けつけてくれました。北九州支部同窓生15名が出席し、大学時代の想い出、大学への期待など大変有意義な時間を体感できたと思います。当支部は本学から遠く、身近に大学の活躍を知ることと少なく、親近感が薄い中でも支部同窓会に出席していただける同窓生の方々に感謝申し上げます。課題は同窓会への出席者を増やすことです。新たな取組みも取り入れ「参加してみようか」と思ってもらえるように、そして同窓生や同窓会の力をお借りして元気のある支部にしたいと思います。本学より離れた地域から大阪経済大学の名声が届くことを期待しています。最後に同窓会が無事開催でき、ご協力いただいた先輩方に感謝いたします。

支部長 植田達三(52回)

高知支部

今年は母校訪問を計画



平成23年10月15日(土)日航ホテル旭ロイヤルにて18時より行いました。今回は中旬の土曜日ということもあり、何かと行事が重なり前年より5名少ない18名での総会となりました。学校からは高塚事務局長、同窓会からは梶村事務局次長の出席を頂きました。

高塚・梶村様からは学校の現状、新館設立や今後の課題等、たくさんのお話をいただきました。ただOBとしては感情的にA館・B館・C館・D館・図書館等、昔のよく知っている建物がなくなるのはさみしい事です。しかし、今後の若者の減少・競争激化の時代には早めの対策が必要な事も事実です。

今年は秋の同窓会総会とあわせ、一泊でバスツアーの話もでています。毎回、総会人数集めに苦労しますが、皆様の協力なくして、同窓会活動は成立しません。1年に1回です。ご協力をよろしく願いいたします。

幹事 南 宏道

熊本支部

支部運営、苦しいががんばる



平成23年度支部総会は6月4日(土)、白鷺荘別館で総勢15名の参加で行いました。今回は25回須藤さん、26回高木さんのお二人が初参加でお越し頂いたが、常連メンバー5名の欠席があり、いささか寂しいものとなりました。当支部は現役学生が最少県だけに今年も増員は見込めず、厳しい支部運営には変わりなく、現有プラスαになりそうである。

今年の全国支部長会で、当支部より80周年協賛金を納め、かつ東日本大震災のお見舞金を熊本日日新聞経由で寄付させて頂いた旨、出席者に報告、了承を頂きました。平成24年か平成25年は、支部総会を母校で開いたらどうかと提案があり、実行すべく努力致したいと思っています。

各支部長の皆様も支部運営にはご苦労されておられる事でしょうが、“継続は力”です。共にがんばりましょう。

最後に本部に要望です。同窓会大樟会のネットを拝見しておりますが、“同窓会本部の活動とお知らせ”は、ほとんど変化なく、きめ細かい情報の発信を望みます。本部の活動の中身が見えて来ません。ご一考下さい。

支部長 濱 忍(35回)

宮崎支部

大学・同窓会状況を詳しく聞く



11月19日(土)、第9回支部総会を宮崎レマンホテルで開催しました。宮崎県は南北に長く、各地域に居住する会員を集めるには距離的にも時間的に困難な面があるため、事務局としては毎年苦労しますが、今回は延岡市や川南町からの出席者があり、総数としては少なかったものの今後の支部運営に期待が持てる状況となりました。

当日は、大学から勝田泰久理事長、同窓会から田村正晴副会長をお迎えし、大学ならびに同窓会の近況報告や活動状況等を詳細に拝聴することができました。これは距離的にも大学や同窓会に関する情報が入りにくい私達にとっては良い機会であったと思うと共に、出席者一同今後の支部活動の糧にしたいと確認しました。

最後に、当支部の課題である「会員の拡大」については、支部役員を中心とした情報交換を密にし、宮崎への転勤者やリターン者の把握に努め、その人達を取り込むことで会員の確保を行う考えです。

支部長 福田俊彦(32回)

春秋会

春秋会(西部)が開催されました

3月に開催予定であった春秋会は、直前の大震災のため延期されてしまいましたが、10月7日新阪急ホテルで開催されました。来賓に勝田理事長、徳永学長、橋本浩二進路支援部長をお迎えし、出席者は総員18名でした。

田中夏木春秋会会長(四條畷市長)のご挨拶のあと理事長、学長から大学および教学の現状についてそれぞれお話をいただき、橋本部長からは最近の就職状況についての報告がありました。懇談の席では、皆さんの職場における(1)後輩の在籍と活躍状況、(2)企業あるいは行政のトップにある立場から見た、後輩に期待する人物像や選考方法について、意見交換がありました。

社業の都合で出席が叶わなかった方もおられましたが、この度は(株)スーパーホテルの山村孝雄社長(34回)、産経新聞社の宮出好雄監査役(35回)、OS(株)の明山猛常務(38回)、が初参加されました。また、淡路島から竹内通弘洲本市長(34回)、東部春秋会から井阪健一元本学理事長(19回)が出席されました。 本部副会長 田村正晴(30回)

大樟体育会

スポーツAO入試ワク75名に増員 第11回大樟体育会総会を開く



第11回大樟体育会総会が4月23日(土)、同窓会ホールで開かれた。出席クラブは全34クラブ中20、委任状8、欠席は6クラブ。

はじめに下垣恒彦会長が1年間の各クラブ活動に対してお礼を述べ「総会は全クラブが出席していただいて話し合いをするのがベストです。3月に大学主催でクラブ部長・顧問・監督者会議が開かれ、2012年度のスポーツAO入試ワクが現行の70人から75人に増員された。しかし5人の増員は成績に準じるという条件がついており厳しい状況は変わりない。会として改善を要望していきたい。またマナーアップキャンペーンは各クラブとも協力的でした。今後はOBの皆さんも参加して欲しい」と挨拶した。

同窓会を代表して佐藤武司会長は「当会も大学は近年評価して頂いているが一部教員に理解されていないようです。一步一步の努力が大切です。80周年記念募金事業は8億円の目標に対し同窓会もバックアップせねばならないことから2億円を目標としました。大樟体育会・各クラブの皆さんのご協力をお願いします。また学生部が毎年実施しているマナーアップキャンペーンはもともと当会の前身の体育会連絡協議会からスタートしたものです。まずあいさつするよう皆さんも現役を指導して欲しい」と要望した。

大樟体育会本部はじめ同窓会、体育会本部役員の紹介、出席クラブの自己紹介ののち議事に入った。

はじめに、2010年度活動報告(2010年4月～2011年3月)と決算報告(2010年4月～2011年3月)があり、いずれも承認された。

次いで2011年度活動方針として

- 1.指定競技種目の指導体制の強化を要請
- 2.大学との定期的打ち合わせ要請
- 3.学生部、体育会本部との定期的打ち合わせ
- 4.マナー向上運動に協力する
- 5.クラブの活動視察
- 6.大樟体育会の親睦会を実施

が提案され一括承認された。

質疑応答があり会員から(1)強化クラブは強化費があるがその他クラブは遠征費・合宿費捻出に苦労している(2)大学との打ち合わせの内容を会員にも開示して欲しい。「体連協」の時は書面で頂いていた(3)クラブの試合や練習中でのケガなど保険についての発言があった。

2011年度収支予算案は、会費収入としてスポーツAO入試Aは一律¥30,000、Bは一律¥10,000が提案された。80周年事業は会として¥200,000募金するなどが提案され了承された。次いで2012年度新役員人事があり、副会長の梶村氏が事務局に、竹中氏が会計監事に、浅海氏が退任された。

広報部長 平田義行

池田泉州銀行経友会

合併後、初めての総会 佐藤同窓会会長、勝田理事長、当行頭取臨席で 花を添えていただく

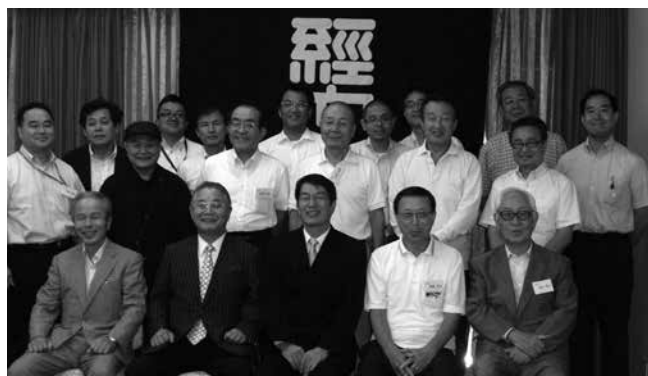
平成23年度池田泉州銀行「経友会」総会を8月26日(金) 19時より、大阪梅田の新阪急ホテルにて開催し、旧交を温めた。本会は、旧池田銀行の企業内同窓会として発足し、平成22年旧泉州銀行との合併に伴い、会員数144名と増え、当日85名の出席を得て、盛会となった。まず、田中会長の開会の挨拶に始まり、勝田理事長と服部頭取に祝辞をいただき、塙坂副会長の乾杯と続き、しばし歓談となった。恒例のビンゴゲームで盛り上がった後、佐藤同窓会会長より本学の近況報告があり、昔を懐かしんだ。

グリークラブOBを中心として、学歌、逍遥歌を皆で歌い、河瀬副会長の閉会の言葉でお開きとなり、2次会へ繰り出した。

事務局長 長岡克浩(48回)

日立大樟会

日立グループ企業へ経大生の入社がほとんど見られない 25回記念総会



第25回日立大樟会が平成23年9月16日(金) 18:30から大阪市北区梅田の「ガーデンシティクラブ大阪」に会員16名(東京から愛媛まで)が出席して、記念すべき第25回の総会が行われました。

ご来賓として、学校側から徳永光俊学長様、同窓会本部から佐藤武司会長様にご出席をいただき、田村正晴副会長様にも飛び入りでご参加をいただき総会を盛り上げていただきました。

総会に先立ち、徳永学長様より人間教育の原点として自主性の持った学生が育つ環境づくりに取り組む、同窓会の佐藤会長様からは、創立80周年を迎えての学内建物の建設状況や募金活動状況などの挨拶を頂戴しました。

懇親会では、過去から毎年日立グループには大経大から入社がありましたが、最近の7年間はゼロとなっており、このままでは日立グループと疎遠になる可能性があるため、何とか来年からは、最低1人か2人は入社に結び付けたいとの強い要望がありました。それに伴い、企業から現在の学生に求められる人間像などの話で盛り上がりしました。

最後に出席者各自の近況報告なども行い、今後ともより一層「日立大樟会」を盛り上げていくことを確認して終わりました。

会長 角脇忠行(34回)

税理士大樟会

税理士・会計士の夢を持とう 現役学生を交え、20周年記念シンポジウム



平成23年10月13日(木)、大阪経済大学E館41号室で、大阪経済大学税理士大樟会創立20周年記念シンポジウムが開催されました。

『いま、おいしい職業って何?』という演題で、市原幸恵先生が大学時代の夢の話を読みました。学生さんは食い入るように聞いていました。

さらに、平岡彰信先生の物静かな話し方。しかし話の内容は、『やりがい求めて!期待される会計士業務』という演題で公認会計士の現状を読されました。今業界は大変な時代に突入していることを説明され、学生の皆さんは真剣に聞いている会場の様子でした。

約1時間のお二人の話は、内容がとても締まった話であつという間に時間が過ぎました。さすがに人を引き込むのはなしの上手さに感嘆しました。やはり大樟会を代表するお二人の話でした。

その後のパネルディスカッション。基調講演をして頂いたお二人と若手のホープ西川先生。対する学生さんは公認会計士現役合格の清原君。税理士試験二科目合格の天谷君。簿記一級合格の宇野君の三人とコーディネーター役の倉田の7人で進行して行きました。6人のそれぞれの思いが語られ、大学の仲間でなければの本音の話がきけ、眠っているものはいないほどの緊迫感が感じられました。公聴している学生さんの質問も加わり充実のあるものになったと思われます。

このあと懇親会が開催されました。懇親会には、来賓として勝田理事長、佐藤同窓会会長の出席もあり、たくさんの学生さんが参加され楽しいひと時を過ごさせていただきました。やはり、若い人がたくさん参加してくれると活気が感じられる気がします。これから、この学生さんが税理士・会計士になって大樟会に入会してバリバリやってくれる事を期待しています。これから本当に楽しみです。

創立20周年記念事業実行副委員長 倉田 収(44回)

支部だより

社労士大樟会

より多くの会員とより高次元の情報の
交流に取り組もう！



2011年7月16日に社労士大樟会第4回定期総会を開催いたしました。

ご来賓として同窓会本部より齋貞文総務部長・平田義行広報部長・竹中亨事務局長、税理士大樟会からは三木泰会長・檜垣典仁総務副会長・中坪健治事務局長のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

総会に先立ち社労士大樟会久保太郎会長は、より多くの会員との、より高次元の情報の交流に取り組むことで同窓会、大学、そして社会に対するより大きな貢献を実現していきたい、そのために会員数の増加に今後とも傾注していくと挨拶いたしました。

総会は議長に久保太郎会長を、議事録署名人に山内淳子氏を指名し、審議を開始いたしました。そして、第1号から第3号の名議案が審議され、それぞれ満場一致で承認されました。

また、第2号議案の承認を以て、大学創立80周年記念事業への10万円の寄付を行うことを決定したことも併せて報告させていただきます。

引き続き行われた記念講演では、本学経済学部 地域政策学科 准教授 森詩恵先生に「介護保険制度からみたわが国の社会保障政策の課題ー介護の現状と制度改正を中心にー」と題して介護保険制度の課題と介護現場の問題点を講義していただきました。記念講演には大学から、崎田洋一事務局次長、税理士大樟会から大山伸之専務理事がご来賓に加われました。

記念講演終了後に懇親会が開かれ、講師の森詩恵先生にもご臨席いただくことができ、懇親会に花を添えていただきました。ご来賓の三木税理士大樟会会長にご挨拶を賜り、同窓会本部の平田広報部長の高らかな乾杯の御発声で懇親会はスタートしました。時間の経つのも忘れる和やかな展開の中、最後に学歌を斉唱し、中締めとなりました。

なお、社労士大樟会では引き続き会員の募集を行っております。入会ご希望の方は、下記までご連絡下さい。

事務局 「飯田労務事務所」 飯田政信

TEL: 06-6263-5511 FAX: 06-6263-5510

Eメール: mi-ro-mu@trust.ocn.ne.

箕面・豊能支部

大阪府箕面市・豊能郡に、 新支部設立の発起人会を開催



大阪府北部に位置し、これまで支部が組織化されていなかった大阪府箕面市・豊能郡地区に支部設立の機運が高まり、平成23年11月5日(土)箕面市立市民会館(グリーンホール)で箕面市から11名、同窓会本部から1名 計12名が集まり、支部設立に向け、発起人会が開かれました。

出席者は14回卒から68回卒まで幅広く、それだけに支部立ち上げの意見もバラエティ豊かで、設立の是非を問う等、内容の濃い会議になりましたが、最後は全員一致で支部設立に同意、設立総会に向け動きだしました。

○ 当日の出席者の皆さん(敬称略)

苗代壽子(14回卒)、佐々木美智子(14回卒)、富山茂樹(19回卒)、逸見 学(26回卒)、穂地前吉治(26回卒)、田辺捨夫(26回卒)、木谷正雄(31回卒)、雑賀保洋(33回卒)、浅川正行(39回卒)、西川道広(54回卒)、吉仲美智子(68回卒)

○ 新役員候補者として3名の方が全員一致で選出されました。

支部設立実行委員長 木谷正雄氏(31回卒)

*支部設立後支部長

事務局長 雑賀保洋氏(33回卒)

会 計 吉仲美智子氏(68回卒)

木谷実行委員長は、箕面・豊能地区には支部設立を期待されている卒業生が多くおられ、これから楽しみであり、活動の意義と今後の抱負を述べられた。第1回支部総会は今後2月下旬ごろ、開催したいと語られた。続いて全員で写真撮影、今後の支部発展を確認し閉会した。 同窓会事務局次長 梶村貞男(37回)

タブレットを
現場で活用!

XC-Gate

[エクシーゲート]

当社のタブレットソリューションで
業務の効率化を応援いたします!

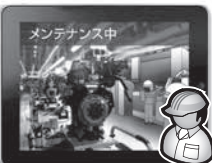
技能伝承コンテンツ
文書閲覧・活用



バーコード入力
入出荷確認



設備保全・
メンテナンス



チェックシート入力
報告書作成支援



Technotree 株式会社 テクノツリー

[本 社] 〒674-0074 兵庫県明石市魚住町清水534番地の7 TEL: 078-948-2300

↓↓ WEBからどうぞ! ↓↓

<http://www.technotree.com>

大樟教育研究会

今年も教員10名以上の合格を目指そう

第11回大樟教育研究会総会



4名の教員合格者が体験をアドバイス。左は眞鍋一美会長。

昨年の11月19日(土)、第11回大樟教育研究会(会長=眞鍋一美氏)総会が本学にて開催された。

教育に携わっておられる卒業生57名と、徳永学長以下大学関係者、さらに将来教師を目指す現役学生25名が参加し、内容の濃い研究会となった。

はじめに同窓会佐藤武司会長、徳永光俊学長よりご挨拶を頂き、徳永学長からは、「今年度教員採用試験に本学3名の学生が現役合格し、これは平成22年度から大樟教育研究会にお世話になり実施している試験対策講座が実を結んだ結果です」という謝辞と、「24年度は、さらにOBの先生方と連携を強化し、10名の現役合格を目指す」と力強い言葉を述べられた。

○求められる教師像 一教員採用選考から見たことー

講師：大阪経済大学非常勤講師 川口正義先生

近年の教員採用選考の動向と採用試験対策講座の中で見られる学生達の課題、能力を伸ばす方法など講座で実施した内容を踏まえて講演頂いた。「学生の一番の弱点は、勉強の方法を知らないことで、対策のポイント、勉強のコツを掴めば飛躍的に能力は向上する」との指摘があり、参加者は、面接対策から小論文対策、また教育現場でも活用できる勉強法ドリルを会場で実体験し、その効果を実感していた。

○同窓教員と教職希望学生との意見交換会

まず、22年～23年度の教員採用試験に現役合格した勝見俊介先生(八千代市立村上中学校)、太安竜也先生(岡山県立津山高等学校)、草葉康暢(経営情報学部4年)、寺田良介(経営情報学部4年)4名による体験談の発表があり、それぞれ自らのエピソードを交え、後輩達にアドバイスを送った。

分科会では、OBの先生方と学生達が、小学校、中学校、高等学校の3グループに分かれ、意見交換を行った。小学校グループでは、学生が自己紹介、卒業生は「学生達に伝えたいこと」を一人ひとり発表し、双方からでたキーワードについて話を深め、中学校・高等学校グループは、学生からのダイレクトな質問・相談に卒業生が本音で応えた。

学 生：「先生の言うことを聞いてくれない子どもにどう対処すればよいか」

卒業生：「子どもは、先生が敵が見方かすぐに見分ける、本音で向き合うことが大事」「先生遊ばっているような関係づくりをする」

学 生：「子供達が、自分が失敗して不信感を持ったりしないか不安」

卒業生：「失敗したらごめんねと、絶対にごまかさない。一生懸命子どもと向き合えば、不信感を持つなんて事はありえない。」

学生達は、先輩方の具体的なアドバイスと親身な対応に、「あんな先生になりたい」「必ず先生になる」と決意を新たにしようだった。

意見交換会終了後の懇親会においても、学生達からの質問は絶えることなく、和気あいあいのなかで、卒業生と学生の輪が各テーブルを賑やかにした。最後は卒業生・大学関係者・学生全員で、荒川剛先生(富山県立高岡商業高等学校)の発声のもと「学歌」と「逍遙歌」を大合唱し、次回の再開を誓いあった。

教務課 山田 武(74回)

中国・上海「準」支部設立に向けて!!

平成23年9月8日、中国・上海支部の拠点づくりに向けての準備と懇親を兼ね、佐藤武司同窓会会長、橋本廣様(38回卒)が同総会旗を携えて上海に赴かれました。

昨年6月に徳永学長らの訪中団が上海在住の卒業生と懇談した際に、海外拠点第1号として同窓会支部を立ち上げてはというお話がありました。同窓会としてもこれからの時代は国際化が避けて通れないとの判断から検討をスタートさせました。

現地の日本人卒業生5名と話し合いの結果、溝上寛様(65回卒)を幹事、また橋本廣様を顧問として設立に向けご尽力をいただくことになりました。現在のところ判明している上海で活躍する卒業生は13名程度であるため、まずは準支部の位置づけで発足を目標とすることで一致しました。



平成23年6月6日、上海懇親会に出席の皆さん

その後国際留学生として卒業し、活躍する中国人3名の方も準支部への参加を表明されました。このように中国人卒業生の参加も視野に、さらに具体化に向けて検討を進めることになりました。

国際交流課長 大谷忠久(51回)



半世紀に及ぶ“文武両道”の歴史 剣道部創部50周年式典～ 100名超が一室に

剣道部OB会



1961年(昭和36年)創部された剣道部が平成23年6月5日(日) 50周年の記念式典・懇親会を開いた。OB会長の鴨下順二さん(38回)らOB73名、現役部員22名、勝田泰久理事長、佐藤武司同窓会長ら来賓9名の104名が出席、同部の半世紀に及ぶ戦績を賞賛し、さらなる活躍を期待する声で会場は盛り上がった。

式典に先立ち午前10時から新体育館でOB・現役の合同稽古が行われ、まさにプロ剣士を思わせる激しい打ち合いに祝賀に来られた徳永光俊学長も感動された。徳永学長は「創部50周年を迎えられた剣道部に歴史と品格を感じます。大学はまず勉学する所ですが、文武両道をまさに実践されている皆さんに敬意と心から祝意を申しあげます。現役諸君も先輩が築いた今日を、次は

皆さんがつないでいく番です」とエールを贈られた。稽古終了後OB会総会が行われ、同部部長の草薙信照副学長から大学と現役の情報が報告された。

式典に入り物故者への黙祷の後、鴨下OB会長が「剣道部が半世紀を刻み、今日を迎えた事に感謝します。皆さまのたゆまぬ努力が連綿としてつながる力となりました。今日を期に80周年を迎える大学とともにさらなる飛躍を期待します」とあいさつ。次いで勝田理事長が「50年の長きにわたり先輩の努力とその時々々の現役生が支えてきた結果が今日という日を迎えました。剣道部のレベルも全日本クラスの大会に常時出場するなど今や実力校です。剣道は「礼に始まり礼に終わる」といわれ、礼節は人間形成になくはなりません。剣道部が経大にふさわしいクラブに成長されるよう期待しています」。佐藤同窓会長は「草食系といわれる若い人が多い中、武道をやられている人は会社でも非常に役立ちます。企業を引っ張る力を持っています。これからも研鑽をつまれ社会に有用な人材を育

てて欲しい」と述べた。

懇親会は現大経大の剣道部師範の田中早苗さん(36回)の発声で乾杯。宴も盛り上がってきた半ば、創部50周年の功労者として現顧問の松尾剛男さん(29回)が表彰された。松尾さんは入学時段位はなかったがそれが卒業時は4段になられ、この記録は今も破られていない。経大の監督も10年以上務められ「70歳になった今も地元中学校で必須授業の剣道を教えています。いつまでも生涯剣道に挑戦したい」と意気軒昂謝意を述べられた。

クラブのリフレッシュ化を図るため監督交代が発表され、今年から古畑正幸さん(47回)が就任。「“文武両道”を理念とし礼儀作法を重んじ心の豊かさを示せる人材を育てたい」と抱負を述べた。最後に草薙部長が「剣道部は確実に力が上がっている。今年はスポーツAO入試も当部は5名と人数が増え、強化クラブになりました。有望選手を集めがんばればさらに上にいけます。前途は明るい」と力強く締めた。

広報部長 平田義行

“部員を集め、再活動を始めよう” 山岳部創部65周年記念式典を開く

山岳部OB会



山岳部OB会(経稜会)は、山岳部創設65周年・大阪経済大学白馬ヒュッテ設立50周年記念パーティーを2011年9月17日、ホテル阪急インターナショナル(大阪市北区)でOB33名、大学関係者、ワンダーフォーゲルOBなど10名

が出席し盛大に開かれた。

’46年に創設された山岳部は、半世紀以上に及び多くの岳友を育ててきた一方、’61年に長野県小谷村に建設された白馬ヒュッテは部の歴史とともに歩み、山を愛する全ての人々に感動を与え、内外にわたり母校の名声を大きく上げた。

式典は経稜会副会長の村手勉さん(41回卒)の司会で始まり遭難者、物故者への黙祷後、元大阪経済大学教授・山小屋建設委員長の古久保五郎先生のご子息でOB会長古久保晴男さん(31回)が「白馬ヒュッテ50周年を経て会長をさせていただき、父との巡り合わせを感じます。私は山岳部に入るとすぐに山小屋建設が始まり、現地に入っては荷揚げの毎日でした。また山岳部は台湾雪山、ニュージーランド、マッキンレーなどの海外遠征もしました。多くの方々に支えられてきた65年間、

これからもこの絆を大切にしていきたい」。次いで大樟体育会下垣恒彦会長、大学から河井保雄学生部長、北川健管財課長の皆さんが祝意を述べた。乾杯は元山岳部顧問の故大槻弘先生の奥様大槻文子様が「節目の年に招かれ感謝します。懐かしいお顔ばかりで、本当に懐かしい」と盃を上げられ、宴は一気に盛り上がった。

最後に式典の実行委員長で記念誌の編集を担当された山下辰次さん(29回卒)が「卒業して改めて感じますのは“絆”です。皆さんの和があってこそ今日の日を迎えました。山岳部は現在部員がおらず休部状態となっていますが、皆さんのご協力で一日も早く復活、活動を再開したいと思います」と結ばれ、再会の願いを込めた山岳部の部歌が会場内に大きく響いた。

広報部長 平田義行



創部50周年

記念演武会を盛大に開く

合気道部OB・OG会「氣流会」



平成23年11月12日(土)合気道部は、部創設50周年記念式典及び合気道演武会を、フレアホールに、OB・OGが全国各地より集い、加えて京都大学、関西大学、龍谷大学、京都産業大学、

和歌山大学合気道部の賛助演武を交え、厳かに開催された。

わが部は、^{ここに}古谷貞雄先輩の孤軍奮闘により、昭和36年(1961)当時の運動総部総会において、満場一致で合気道同好会の結成が認められた。それから50年、今日に至るまで歴代部員のためまざる努力の継続により達成された名誉ある歴史であると思う。

合気道OB・OG会の「氣流会」は、毎年11月3日に総会を開催しており、終了後は「現役・氣流会合同稽古会」を、創始者・古谷師範の指導のもと和気藹々と稽古することを恒例行事として続け

ている。年齢や性別に関係なく稽古出来る「和の武道・合気道」ならではの光景であろう。これからも、100周年記念が迎えられるよう、全会員力を合わせて精進していきます。



氣流会会長 浜田修造(34回)

50年に及ぶ指導に感謝

西岡 弘 師範を囲み謝恩会

柔道部OB会(師範送別会)



出席者一同



花束を受けられる西岡弘師範

大阪経済大学柔道部OB会(会長＝下垣恒彦氏)は、50数年にわたり柔道部を指導されてきた西岡弘師範(講道館9段)が平成23年4月勇退されたのを受け、お礼を込めた謝恩会を11月20日(日)ヒルトン大阪(大阪市北区)で華やかに行われた。

謝恩会には柔道部OB100名超、大学から徳永光俊学長、宋仁守学生委員長、河井保雄学生部長、望月久義学生部課長、柔道部部長の大橋範雄教授、同窓会から大樟体育会梶村貞男事務局長、平田義行広報部長らが出席した。

全員起立の中、下垣会長の先導で入場された西岡師範は86才とは見えぬまさに威風堂々、柔術家としての風格はいささかも衰えも見せられない。下垣会長は「今日は柔道一筋に半世紀に及ぶご指導にお世話になったOBが一堂に集まりました。数々の思い出の中でも昭和38年、関西柔道選手権で上位6校に入り全国大会出場という快挙をとげました。その後も師範のご指導と伝統を受け強豪校として活躍しております。ありがとうございました」と心から謝辞を述べた。徳永学長は「師範には以前『雲外蒼天』と書いた色紙をいただきました。これは困難を乗り越え努力をすればその先は青い空が見える、という意味で、師範は講道館9段になられ技、見識、人物ともまさに『雲外蒼天』の道を歩まれました。大経大にとっても素晴らしいことです」。次いで大橋部長が謝辞を述べ吉田文雄OB会相談役が高らかに乾杯を発声、会場は熱気に包まれ一気に盛り上がった。師範を囲んでテーブルごとの記念撮影は、皆さん少年のように目を輝かせ手を取り、肩を抱き合って旧交を温めていた。

宴半ば、児玉・小林両先輩、安田現監督らがそれぞれの時代の思い出を語り、師範もこれには笑い、うなづく場面も。佐々栄治副会長が「一口に50年といっても人知れぬご苦労に並々なら

ぬ努力をされたと思います。この間、350名の部員が師の稽古を受けました。代表してお礼を申し上げます」とあいさつ。

最後に西岡師範が「昭和24年、5段をもらったがもっともっと強くなりたくて講道館へ自費で行った。全国からきている高段者の稽古は熱気もものすごく顔も見れないぐらいでした。私はもともと近畿大学に席がありましたが、昭和36年頃萩原元監督のお誘いで大経大に來ました。バラック建ての校舎に汚いドブ川、稽古の畳も上げ下げせねばならない。内心えらい所に来たなと思いました。しかし受けた以上必死で指導に明け暮れ、合宿も全国50回はあったでしょう。経大の50年間、事故やケガがなかったことに満足しています」とお礼を述べられた。内田正副会長が「師範は雲の上の仰ぎ見る方でした。長いご指導、ありがとうございました。これからは大経大柔道部名誉師範として長くご指導をお願いします」と締められた。

最後に全員で歌った柔道部遠征歌は、稽古に明け暮れ、遠征に苦しみながらも柔道を愛するものだけが許される歓喜の熱唱に、西岡師範はうなづくように優しい笑顔で聴いておられた。

広報部長 平田義行



「今年は全国大会に必ず出場」(現役生) 平成23年度柔道部OB総会開催 柔道部OB会



平成23年3月21日、本学同窓会ホールにおいて、平成23年度総会を開催した。当日は吉田、逸見両相談役を始め総名70名の参加を得、石橋事務局長の開会宣言と司会で始まる。はじめに、東日本大震災の被災者と入江部長先生、萩原先輩を始め物故者の冥福を祈り黙祷後、会長挨拶の後議事に入った。22年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、いずれも参加者全員異議なく承認された。続いて23年度事業計画案、予算案が報告され全員の承認を得る。また、今年度は創立80周年記念事業の寄付金が計上された。

以上で23年総会は終了、続いてOB親睦会、現役歓送迎会に移る。来賓に徳永学長、大橋部長先生、西岡弘師範、同窓会本部より竹中事務局長をお招きして始まる。会長挨拶の後、徳永学長、大橋先生、西岡師範、竹中事務局長より挨拶を賜り、吉田相談役の乾杯のご発声で和やかな交流が始まる。宴の半ばで安田監督より卒業生、新入生の紹介があり、今年は全国大会に必ず出場するという心強い宣言があった。最後に佐久間先輩の万歳三唱があり、学歌、逍遙歌、柔道部遠征歌を合唱して中田副会長の挨拶で無事幕を閉じた。

会長 下垣恒彦(36回)

Joint Meeting(同窓会) E.S.S.第38・39期生



平成21年11月、同期生がそろそろ還暦を迎えるのを機に、卒業以来38年ぶりに懐かしい思い出のcampusで再会。新装成ったE.S.S.部室を訪ねて現役生を激励した後、天満橋のホテル京阪に10名が集合、Thailandや東京からの参加者もあって大変盛会であった。この時、近いうちの再会を約したのであるがe-mail交換が奏功して平成22年12月25日に38期・39期生合同での同窓会を開催した。

きっかけはU.K.から久しぶりに帰国した松井君の報告会でしたが、networkのおかげで第37期生の森実、西森両先輩の参加もいただき38期・39期含め総数18名が集まり、ホテル京阪京橋で盛大に開催いたしました。

14時に森実元部長の挨拶から始まり、宴会ではグラスを片手にそれぞれ人生の履歴を披露して延々3時間、和やかな歓談が尽きませんでした。集合写真撮影の後、学歌および逍遙歌を大合唱して「また来年も元気に会いましょう!」と17時過ぎお開きとなりました。

北室雅弘(38回)

次回も元気に会いましょう

川西市役所大樟会



本会は、兵庫県川西市役所に勤める職員と市議会議員、そしてリタイヤされたOBの親睦会として昭和48年にス

タートし、毎年1回大学から先生方を迎え総会を開催しています。今回は、厳冬の2011年2月4日(金)同窓会常務理事の進木氏をお迎えし、大学の近況や課外活動の優秀な成績についてお話を伺い、盛会の肴にさせていただきました。

本会の会員数は38名ですが、今年度も退職される方がおられ、OB会員の数がついに過半数を占めるようになり、大学卒業生の新規採用を待ち望んでいます。

会の最後には学歌と逍遙歌を声高らかに全員で歌い、会員の健康、会の益々の発展及び次回も出席することを約束し、万歳三唱を唱和して名残惜しく散会しました。次回も全会員の出席をお待ちしています。

幹事 岸上芳夫(46回)

長時間の総会、お疲れさま

速記研究部OB会



平成23年2月12日(土)、3年ぶりの総会を本学同窓会ホールで開催しました。

永吉幹事(35回)の開会のあいさつ、大西氏(41回)の乾杯の音頭の後、古市氏(32回)から森本氏(44回)まで各年次の思い出話で盛り上がり近況報告を行いました。終盤になり酔っ払いぎみの田中氏(41回)の催促で柴田氏(42回)のエールで学歌、逍遙歌で合唱し伊藤氏(44回)の閉会のあいさつで3時間があっという間に過ぎ、そのまま阪急上新庄駅前の居酒屋に移動しました。そこへ福田氏(41回)、金丸氏(43回)が加わり2時間半、さらにその後19人が残り1時間半の3次会まで続きました。始めからその様子を武田氏(35回)がビデオに撮り後日CDにて皆さんに配布さ



れました。それから8人が4次会に流れていき長い一日が終わりました。

今回は3年後垣谷代表幹事のもとでの開催を決めました。多数の参加を待っております。

事務局 森脇範之(43回)

.....
1部昇格を果たした新OB会員
今年、創部55周年記念式典を開く
日本拳法部OB会



平成23年度日本拳法部OB総会が2月26日、同窓会ホールで開催された。総会に先立ち、現役25名及び新入生4名の練習を見学した。29代河瀬財務副部長(56回卒)が防具を着け、ふた回りも若い現役と実戦を交えた果敢な奮闘ぶりに、見学者から大きな拍手が送られた。現役諸君の防具練習は実に拍力があり、稽古総見は大いに盛り上った。

総会に移り、山本新会長の挨拶を受け、沼田会長補佐(37回卒)の進行で22年度会計報告、会則の変更が承認され、さらに「日本拳法部創部55周年記念式典祝賀会」を平成24年2月25日、同窓会ホールで開催することが決まった。

懇親会では来賓の山本部長先生、同窓会から竹中事務局長の挨拶をいただきOBの廣野先輩のご発声で乾杯、交流の輪が一挙に広がった。宴半ば、昨年の西日本学生拳法選手権大会でベスト8入りを果たし、今年1部昇格の功績を上げた新OB諸君の自己紹介が行われた。また大学の創立80周年記念に来年の当部の記念式典にあわせ協賛することが満場一致で決まった。終幕は学歌、逍遙歌の大合唱。現役・OBのつながりを深めるにふさわしい総会であった。

会長 山本隆造(37回)

若い世代の参加をお待ちします

Ⅱ部軽音楽部OB会



Ⅱ部軽音楽部OB会を平成23年3月5日2年ぶりに開催しました。

参加者は、Ⅱ部軽音楽部発足当時のOBだけとなりましたが、今後は大学祭などを通じて現役との交流が深まってきており、若い世代の参加也大いに期待しております。

宴会では学生時代の思い出話で多いに盛り上がり、楽しい一時を過ごすことができました。今回は中山、室屋両氏が世話人として会の舵取りをお願いしました。OB・OGの方々からのご連絡をお待ち申し上げます。

(連絡先)

室屋 司 ☎080-3850-5578

中辻良行(40回)

.....
平成23年度硬式庭球部OB総会
並びに、新入部員歓迎会を開催
硬式庭球部OB会

昨年5月28日(土)午後4時から本学E館7階会議室で平成23年度OB総会と新入生歓迎会を開催した。総会で挨拶に立った私は「昨年は男子部は2年ぶりに4部復帰を果たし、女子部は残念ながら5部リーグで敗退しました。日頃から現役諸君が活躍できるのも、OB諸氏のご支援の賜物と感謝しております。今年は男子が3部復帰、女子が4部昇格を目指しております。そして来年は大学の80周年、庭球部の60周年に向けて積極的なご支援をお願いする次第です」とさらなる現役支援を要請しました。

総会終了後、今年入部した男子5名、女子2名の歓迎会に移り、OBとフレッシュな新入部員と現役部員との交流の

場が開かれた。和やかな雰囲気の中予定されていた2時間があっという間に過ぎました。翌日に予定されていた恒例のOB戦は台風の影響で中止になりました。 会長 秋山治信(37回)

.....
空手道部創部60周年を来年に控え
OB総会で学年幹事を決定する
空手道部OB会



平成23年度OB総会を5月14日(土)現役15名とOB21名の出席を得、本学本館4階会議室で開催しました。総会に先立ち新設体育館で恒例のOBと現役との合同練習が始まり、翌日の修交会学生大会を控え、熱の入った練習ができました。当部は新入生が6名入部し、活気が出て盛り上がり、今年こそ一部昇格に向け気迫ある練習で汗を流しました。

総会は22年度会計報告、活動報告と23年度事業計画が承認され、2012年11月に「空手道部創部60周年記念式典と祝賀会」を本学70周年フリースペースホールで開催することを決定しました。学年幹事も決まり、OB会と現役が一丸となり有意義な60周年事業の成功と念願の一部昇格を勝ち取ることを確認して終了しました。

終了後は恒例のOB諸先輩と現役諸君との懇談親睦会を寿司とバイキングで和やかに楽しい一時を過ごし経大学歌を斉唱し解散しました。

翌15日(日)修交会学生大会では大阪経済大学新設の体育館で開催、7大学の参加を得て熱戦を繰り広げ団体戦で優勝することができました。この勢いで西日本学生空手道大会の必勝を目指します。

幹事長 與世田正雄(34回)



新装の学生会館で開催 平成23年度経翔会OB会 ワンダーフォーゲル部OB会



平成23年度経翔会総会を6月19日(日)母校の同窓会ホールで行ないました。これまで数年間は滋賀や京都等一泊で開催していましたが今回は新装されました学生会館を総会終了後の懇親会に利用させていただきました。

当日は13時より総会が開催され、現役部員1名を含め38名が各地より参加、はじめに9名の物故者ならびに東北大地震で亡くなられた方々に全員起立のうえ暫し黙祷を捧げました。

総会は1、経翔会の活動報告(平成22年～23年) 2、会計報告 3、役員改選 4、その他の事項につきそれぞれが審議され14時終了。終了後は新体育館に移動し新装なった現役の部室等を見学、その後懇親会を学生会館1階の食堂で、38年卒の山本先輩に乾杯の音頭を執っていただき始まりました。今回は参加者全員に千円程度の品物を持参していただきビンゴゲームでそれぞれ当たった品物を持って帰ってもらいました。なかには奇抜な商品もあったとか。最後は例により学歌、逍遙歌が肩を組んで謳われ16時頃来年の再開を約束しつつお開きといたしました。

経翔会会長 牧田征雄(31回)

今回で寄多郎会散会 寄多郎会(柔道部OB会)



平成23年5月17日、18日の両日京都嵐山の旅館「らんざん」において第27回目の寄多郎会を開催する。

平成22年8月に26回卒の岡本君が、平成23年5月に25回卒の三輪君が逝去された。また足の悪い人や病気の人もあって、出席出来ない人も多く、今回は出席者9名という淋しい会となりました。これまでも、大道、源、田中の各君が他界されており、会の初めに全員で冥福を祈り黙祷を行う。

毎回の事ながら70才を越える年齢になれば、学生時代の思い出話もしかる事ながら病気の話、健康の話、孫の話が多くなる。この様な愚痴と自慢の話にも倦むと今度は政治の貧困を歎く話で夜遅くまで延々と続く。

あくる朝はすぐ近くにある南禅寺に全員で参拝、美しい庭園を散策する。

この後、旅館「らんざん」に戻り、昼食「松花堂」弁当を喰べながら、今後の寄多郎会について話し合った結果、年々参加者が減る現状では継続は無理と判断、今回をもって約30年近く続いた寄多郎会は、残念ながら解散する事と決まりました。

誠に淋しい散会となりました。

「集まれば 生老病死 花菖蒲」文成
吉田文雄(24回)

ESS OB会 半世紀ぶりに開催 ESS OB会



約半世紀振りに、念願のESS OB会が実現した。今回は結果的に1960年代前後の卒業生が中心であった。

平成23年6月20日大阪阪神百貨店10階黄老(広東料理)に懐かしい顔が集まった。

村上 健(米国に帰化、24回)が、一時帰国されたのを機に、学生時代にお世話になったバーナン・スペンサーを囲もうと、熊本、岡山、所沢、横浜等遠路をいとわず10名が集まった。カナダ在住の松本 寔(22回)、アメリカ在住の大橋義次(25回)、辰巳弘継(25回)、松村 博(25回)、前田信雄(25回)、森畑宏(27回)は、残念ながら都合が悪く欠席された。

物故者は、真野ユリ子(24回・旧森村)、坂東 優(26回)、松原昭太(28回)らの3名であった。

今後、Eメール網等でお互いの情報交換を活発にして、参加メンバーを増やしていこうということになった。特に ESSの北海道旅行に参加された方(昭和32年、約20名)、また、この会に関心のある方、次回の集いに参加を希望される方は、是非コンタクトをお願いします。(敬称略)

☎075-211-6980 田中 勇(26回)



硬式野球部監督に赤井貫治さん(34回)が就任

硬式野球部新監督に赤井貫治さんが平成24年1月1日付けで就任された。第8代目の監督にあたり昨年の11月、硬式野球部の役員会で正式に決定された。赤井新監督は「一に練習、二に練

習で選手を鍛え、再度全日本大学選手権大会出場を目指す。今年は創部80周年で奇しくも大学の80周年と同じ記念の年。メモリアルイヤーとしたい」と抱負を述べた。



劇研“青春の会” 永遠の青春・演劇部 劇研OB会



いまが青春。平成23年9月中旬、大阪駅前丸ビル8階の日本料理店で演劇部の同窓会を開いた。「青春の会」メンバー 10名で大層賑わった。

戦後の学舎の一隅に瀟洒な洋館があり、その一室に演劇部があった。時の上級生は女子経専生で、我々新入りの男子学生を熱心に指導した。彼女達のドラマツルギーは廃墟の芽吹きのように、新鮮で常に燃えていた。

あれから60有余年、見事に老いを重ねた仲間達、14期から18期の男女の今日の顔合わせは、ひときわ楽しい宴となった。

逍遙歌にある「汝が悲しみに我は泣き、吾が喜びに君や舞う」。この若き日の純粋な精神は、母校の原点である黒正巖初代校長の「道理貫天地」の理念に基づくものであることを再認識して今年の会合の幕とした。

われら演劇部の友の若さは今も変わらない。何時も女ざかりであり、どこまでも男ざかりである。我等が青春のシンボルがここにある。青春バンザイ。演劇部バンザイである。

中村行男(16回)

同期生のみなさんへ

16・18回同期会



平成23年の定例会を5月9日開催。参加16名。顔ぶれはほとんど変化なし。

(1)不参加者は恒常的な体調不良・所用

(2)参加・不参加の無返信が発送通数の30%以上。本誌に何度か改善への協力を訴えたが、その効果はなかった。(2)の状態は冗費を生み、事務効率の悪化を招くことになるので、この問題を解消するため、本年の定例会通知にアンケートを実施し、無返信の場合は次年度以降の開催案内を出さない旨を通知した。

(3)アンケート 平成24年度からの定例会通知の要・否。

その経過と集約は次表のとおり。

		平成19年度		平成20年度		平成23年度	
発信通数		129		128		116	
返信	参加	19	64.3%	18	60.9%	16	(16) 68.1%
	不参加	64		60		63	
無返信		66	35.7%	50	39.1%	37	31.9%

()内は平成24年度以降要通知

酒井克己(16回)

健康で来年も会いましょう 23期生の集い

23期生会



毎年続けて今回は27回目の集いです。出席者は21名でした。大学より崎田洋一事務局次長、同窓会から中村前財務部長をお迎えして平成23年2月20日に同窓会ホールで開催しました。崎田様より大学の現況について色々とお話を聞き、新しい取組みを次々とやっておられる事が解りました。同窓会からも同窓会の現状と活動についてお話を聞きました。

私達も経大を卒業して54年を経過しました。こうして毎年、元気に話し合える事は楽しい事です。各自の現況報告を全員に話してもらいました。私達の年代になるとやはり健康づくりに励んでおられる事が良く解りました。そして今回都合で出席出来なかった人達からの便りも見ることが出来て、皆さん熱心に読んでおられました。

皆様と今日一日をゆっくりと本当に楽しく過ごす事が出来て良かったです。今後共健康に充分注意しながらやってゆきましょう。

次回、平成24年2月19日(日)には同窓会ホールで再びお会いしましょう。

酒井弘光(23回)

“次回も参加する気持ちが 1年の元気をはぐくむ”

澁江27期会



昭和36年(1961年)卒業の方々の同期会平成23年度「澁江27期会」が4月22日、ホテルモントレ大阪(大阪市北区)で開かれた。

昨年卒業50回記念をされ、今年は折り返しともいふべき51回目を迎えた。皆さん、半世紀以上の親交を脈々と続けておられ今も元気で愉快的な仲間です。

当日の出席の方は角本喜八郎さん、岸野光雄さん、岡薔(おかがき)純一さん、太田時二さん、角田喬計さん、幹事の神代憲治さんに当会名誉顧問として岡本昌夫(大阪経済大学名誉教授)先生です。

返信ハガキの山に目を通され、仲間の元気な様子に皆さん「そうか、あいつも元気か」とホットされ、同期の方々への思い出に話が咲きました。

角本喜八郎さんが「70歳をはるかに超えた今、こうして元気に会えるのは何としても素晴らしい。次回も参加する気持ちをもてば元気な1年を過ごせる。会がある限り出席しよう」と力強くあいさつされ、来年の再会を皆さん約されました。今年は4月20日(金)、このホテルで18時30分から開かれます。

広報部長 平田義行



「野風草会」70名が参加

徳永ゼミ同窓会



22期となったゼミ全体の同窓会「野風草会」を2009年より始め、昨年は500名の卒業生のうち連絡のつく300名ほどに案内はがきを送りました。10月30日のホームカミングデーに合わせて行い、70名の卒業生が集まってくれました。うれしいですね。20年ぶりに再会した卒業生に、「お元気ですか」と挨拶されて、面喰らいました。今年は創立80周年です。すっかり変わった母校をぜひお訪ねください。待ってます！

徳永光俊

大学周辺の変わり様に驚く

珠算研究部OB会



平成23年10月8日(土)、珠算研究部OB・同期会を10年ぶりに行いました。大学正門前に午後2時に6名が集まり、キャンパスを歩きましたが、昔とかなり変わっており、記念館ができていたり、学館が新築されたり、クラブBOXも工事中で驚くばかりでした。そういえば阪急上新庄駅周辺も変貌をとげ、昔の駅のイメージが全く違っており、大学へたどり着くのも大変でした。帰りは、新しくできた「瑞光4丁目」駅から地下鉄に乗り、今里で乗り換え難波へ行きました。

予約した店で午後5時より宴会を開始。初めは、飲みながら食べながら、各自の今の話や、家族の話で盛り上がり歓声をあげながら、薄くなった髪のと、シワの入った顔が38年前にタ

イムスリップ。気持ちは完全に20代です。我々の学年は大学の紛争に巻き込まれ、自治会再建を叫ぶ一部学生の影響で、珠算研究執行部を動かした年で、懐かしくもあり真剣な話でもありました。雰囲気は学生時代に議論したムードと变りなく、腹を割った話はわずかに残っていた心のシコリを38年ぶりにほぐしてくれました。当時はみんな真剣で、部員一人一人が社会の中における珠算部の在り方、珠算の意義、また部員としての生き方を問い、悩み、苦しみ、討論もし、もがいていました。でも、この経験が実は社会に出てからの人生にどれ程プラスになったかわかりません。私自身は36年間高校教師生活を送りましたが、その原点はこの大経大の4年間、その中でも特に珠算研究部できたえられた経験がどれ程役立ったかわかりません。

仲間は今58歳。定年退職を迎える2年後に再会の約束をして別れました。(参加者=林、植田、木戸脇、元吉、山本、塚本) 塚本行雄(41回)

第11回大樟教育研究会 和歌山支部の集い

大樟教育研究会(和歌山)



11回目を迎える「大樟教育研究会の和歌山県の集い」が、平成23年6月4日(土)第2富士ホテルで開催されました。和歌山県支部の新田和弘支部長、宇藤博文前支部長も母校発展のために今年も参加していただきました。この集いは和歌山県内で教育関係に従事・活躍されている同窓生十数名が、母校の発展のため毎年集まり情報交換等を行うことが目的で、今回も有意義な時間を過ごしました。

昨年より大学の教職希望学生に対す

る面接指導、論文指導、模擬授業指導に近畿府県の大樟教育研究会の幹事を中心に取り組みがはじまっています。今後も間近にひかえている大阪経済大学創立80周年を支えるべく同窓生の情報交換の場、母校との意見交換のできる会として、母校の現状を見守りつつ、協力していきたいと考えています。ぜひ和歌山県の同窓教員の集まりは年1回、6月の第2土曜日です。ご参加のほどよろしくおねがいします。

木村清志(48回)

32期生会、母校に集うの記

32期生会



2011年10月30日は、母校大阪経済大学にとって記念すべき第1回ホームカミングデーの開催された年であった。同時に並行して、私たち32期生にとっても、竹中事務局長の呼びかけのもと、同期会が開催された。

大学の本館3階会議室を会場に、各地より25名が参加した。年1回の集いとはいえ、3回目ともなれば、そここに「おー、しばらく!」「久しぶり、元気?」などの声が飛び交っていた。

開会宣言、記念撮影、乾杯の発声のあと、全員が近況を報告した。さすがに人生の折り返しを過ぎると、報告の内容にも「現役引退」、「夫婦2人の生活」、「孫がかわいい」などの言葉が目立った。そんな中、今回はなぜか「院号」の話で盛り上がったのは愉快であった。

しかし、何といても忘れてならないのは、会津若松市出身K氏の東日本大震災で故郷の兄弟・親戚を思い、涙ながらの話に、一同3月11日を肝に銘じたものと思われる。

会の締めくりに相応しい話しとして、母校80周年記念募金への参加で、永久



にその名を刻んでもらうことを即決。袋が一巡すると、見事125,000円が集まったのも、この会の誇りの一つである。

あっという間の2時間であったが、次回も元気で再会を期して散会となった。

眞鍋一美(32回)

「おい」「こら」…楽しい雰囲気

とりあえず34会



平成23年10月30日、ホームカミングデーのレセプションの終了後、4名の欠席者が出たものの、最終27名の34期生(昭和43年卒業)が、43年(偶然)ぶりに北は東京、南は鹿児島から本館4階第2会議室に集合しました。

司会者が本会のネーミングの由来など(なんでも「とりあえず」挑戦しようや!)のユーモラスな説明に皆さん、すでにお酒も入っているためすぐに打ち解けて、学生時代の「おい」「こら」の声も上がり、楽しい雰囲気の中で近況報告がありました。

経済界でまだまだ現役会社の代表役員で頑張っておられる方々、逆に老人性網膜症などで目の不自由な友人、吟詠の師範、お茶の先生、市長さん等、文化・武道界で活躍されている方々からのお話がありました。久しぶりに母校に帰り教室に入り、皆さんとお会いし、学生時代に戻り新たにこれからの人生を力強く生きて行きたいとの発言がありました。今年度の80周年記念事業に対し、学校への募金の提案があり「とりあえず34会」から5万円の寄付を全員の賛成で決定しました。

来年度の再会を約し、高らかに学歌と逍遙歌を歌い散会を惜しみながらの閉会となりました。

世話人 廣野義直(34回)

いつまでも元気な22人

14期生同期会



昨年も元気な22人が集まりました。一昨年出席された友人(渋谷さん)が亡くなり、ご冥福を祈って、昔にタイムスリップ。にぎやかなおしゃべりの3時間がアッという間に過ぎます。「何時までも元気で遊ぼう」と、今年春の1泊旅行のプラン、秋の同窓会プランもできて楽しい集いでした。

世話人 苗代・藤本・筒井

約50年振りに

29期生同期生会に出席して

29回同期生会



私は昭和38年3月に卒業して郷里の鳥取県立米子南高等学校教員となり、以後平成23年3月まで教員生活を送りました。実に、48年間の教員生活でした。

この間には29期生の同窓会幹事さんから何回となくお誘いを頂きましたが、その都度忙しく断り続けてきました。ようやく今年は何とか都合をつけて参加させていただきました。同窓会総会後会場の「ひでよし」に行きましたが、誰ひとりとして学生時代の顔が分かる人はいませんでした。しかし参加者21名の同期生と酒を酌み交わし、話を重ねる内に記憶が蘇り学生時代に帰ったようです。小林さん、長谷川さん、国西さん、大門さん、逍遙歌を音吐朗々と歌われた永田さん、いつもお世話を頂いている三原健太郎さん等々の皆さんと楽しいひと時を過しました。そして、久しぶりにみんなで学歌を合唱す

ると遙か昔の学生時代を懐かしく思い出しました。

しかし今の大学は昔懐かしい食堂、図書館、本館等面影は無く昔日の感で一杯です。

こうして振り返って見ると、大阪経済大学で過した4年間は私たちにとっては誠に青春時代の大きな宝物です。

私たち70歳の坂を超えました。みんな現役を退き、趣味や地域・各種団体に貢献する仕事をしながら健康に留意して生活されていることが判り、次回の再会を約してお別れをしました。

岩崎 学(29回)

道後温泉に26名が集う

第5期寮友会



まことに小さな国が、開化期を迎えようとしている。その列島の中の一つの島が四国であり、四国は、讃岐、阿波、土佐、伊予にわかれている。伊予の首邑は松山。城は松山城という。

これは「坂の上の雲」の出だしの文章です。

徳永学長の出身地でもある、松山市道後に同じ釜の飯を食った仲間26名が(奥様も2名参加)集いました。60名の方々に案内状を発送し、約半数の旧寮生が集うことができました。

江口の地の学生寮で生活を共にし、45年みんな60代半ばになり、第2、第3の人生を歩んでいる方が、青春時代の寮生活、学生時代に戻り、また、懐かしい思い出の友にも会え、旧交を温める事が出来ました。

同じ釜の飯を食った仲間は、他の会より「絆」が深いように思えました。今後、健康には充分気をつけ、再会できる事を願って散会しました。

幹事 相田通行(35回)



次回から案内状の発送を検討

第30期生会



10月30日、初のホームカミングデーが母校で催されました。卒業生が母校に帰り恩師と歓談し、今の大学の雰囲気を感じてもらいたいという企画です。母校は現在80周年記念事業に向けて大きく変わりつつあり、新研究棟・事務棟や新図書館が完成しますと、皆さんもびっくりされることと思います。

今回の30期生会は前回同様、同窓会総会と同日開催としましたが、年々参加者が減少しております。14名の参加で先細りが心配です。30期生会の案内は大樟会便り、KEIDAI DAYS、澱江等で掲載してきましたが、やはり30期生会独自の案内も必要ではないかとの意見もあります。考えていきたいと思います。

なお、80周年記念募金として、これまでの残余金の中から10万円を30期生会の名前で寄付しました。募金者プレートに30期生会の名前が表示されますのでお楽しみに。

総会終了後は、有志で上新庄駅前で二次会を行い、来年度はより多くの同期生を集めようと氣勢をあげました。今回は80周年記念後の大学で多くの同期生が集う姿を楽しみにしております。

神田 博(30回)

31名が5年ぶりに集う

樟耀会(吟詠部OB会)



平成23年11月12日(土)ハートンホテル北梅田にて5年ぶりにOB会を開催し、31名が相集い旧交を深めました。

同窓会誌「澱江」に残念ながら吟詠部の名前が消えて7年ほどが経つと思いますが、当日は昭和41年卒業(5代目)の先輩から、平成14年卒業の(41代)まで、この日を楽しみに遠く千葉県や四国から参集しました。

会は、物故者に黙祷の後、挨拶・乾杯・懇親に移り、詩吟を通じて大学生生活を謳歌した同志が久しぶりの顔合わせで、吟詠部は半世紀の永き間、学生吟界のリーダーであった事など当時を振り返り、話が弾みました。現在吟詠をしているものは7名で、それぞれ吟詠を披露し、学歌、逍遙歌、愛唱歌と現役時代にタイムスリップしました。

詩吟を誇りとし、吟詠部を絆とする樟耀会の朋友は人生の良き友として、今に続いていると確信した集まりでした。

会長 竹本 勇(瑞鼓)
(35回 吟詠部第8代)

意気軒昂、飲み語る

35期生会



10月30日、大樟会総会終了後、西中島南方の割烹で14名の参加で2回目となる35期の会を開催致しました。予定より少ない人数となりましたが、全員意気軒昂にて飲み且つ語り、大いに盛り上がりました。次回にはひとり1名づつの参加者を増やす努力をすることを確認し、散会となりました。

卒業後40余年、お互いに前期高齢者となりましたが、皆まだ元気です。寮の同期会やゼミ、クラブの同期会も盛んに行われているようですが、今年は80周年創立の年となります。横の連絡を密にして、合同の35期会を開催したいものです。大人数で盛大に。幹事一同、早めのご連絡を申し上げますので、ご予定頂ければ幸甚に存じます。同期の同窓生諸氏のご健勝を願い、今年度の35期生会のご参加をお願いいたします。お元気でまたお会いしましょう。

高本 勲(35回)

「澱江」購読料のお願い…「自らの購読料で『澱江』を育てよう!」を合言葉に、昭和59年度からスタートしました『澱江』購読料は、お陰さまで深いご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。編集子一同は、このご声援に応え、親しまれる『澱江』を目指し、頑張っておりますので、引き続き購読料へのご協力のほど、よろしくお願いいたします。※ご送金は、同封の振込用紙をご利用ください。振込手数料は不要です。

文具・事務用品・印刷

どんなことでも 日興へ!



株式会社 日興商会

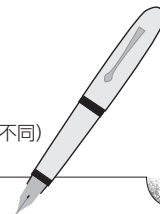
代表取締役社長 藤縄 健一 (第37回卒)



コクヨ製品取扱高全国 No.1

本 社 〒660-0892 尼崎市東難波町5丁目10番30号 Tel. 06-6487-1401 Fax. 06-6487-1414 ホームページ <http://nikko.bunguclub.co.jp>

お世話になった先生からの“お元気”なお便り (敬称略・順不同)



宿題

松原 和男



昨年、瀬江にも書いたが、2010年春ギリシャから始まった財政・金融危機は、その後、ポルトガル、スペイン、イタリアなどユーロ全体を揺るがす財政・金融の危機へと発展してきた。さらに、東日本大震災が起きたわが国、これまで好調だった中国、インドなどの新興国や米国にも不況の影がしのびよっている。(2011年9月現在)

1930年代の大恐慌の再来を主張する論調も増えてきた。これからの問題の解明は、大学を引退して5年経った現在でも、私に課せられた宿題と思っているが、年のせいか「気」ばかり焦って、なかなかまとめられないのが残念です。

白内障の話

永野 仁

一昨年11月に、道を歩いていてふと片目をつぶったら、景色は霞の中。びっくりして病院にいったら、まさに白内障。「いやあ、10分か15分の手術」と、先輩に聞かされていたのですが、私のは少しタチが悪くて1時間少しかかりました。余後の診察にかよっていて、2回目、小さな網膜剥離が起こっている、とすぐ手術。これは1時間ほどで終わり、1週間ほど入院し、新聞や辞書の小さな字もすっきり見えるようになりました。

病気の話など書くのはどうかなと思いますが、何事につけ「おかしいな」と気付いたら、がまんしてしないで、すぐお医者さんへ、とおすすめしたくて話しました。

留学生相手のボランティア授業はつづいています。

近ごろ思うこと

久保田 諄

原子核から出てくる放射線は煮ても焼いても薬をぶっかけても消えるものではなく、ただ放射線が自然に弱まるのを待つしかないこと、また原子炉の使用済み燃料棒の核廃棄物は今のところ地中深く孔を掘って棄てる以外に途がないことは、私の授業を受けた人なら誰でも覚えていてくれるでしょう。どうして政府や原子力関係者はこの様な事態になっても本当の事をはっきり云わないのでしょうか。黙って隠し通せるものでもないのに。

40年昔の大阪万博は関西における原子力発電の始まりと同時に「第三の火」として炉の安全性が喧伝されました。今回の事故では盛んに「想定外の事故」と云っていますが、想定外と云う言葉は科学者にとって敗北を意味します。

お元気ですか

滝内 大三



早いもので、退職して3年になりました。大学院の非常勤講師として、毎年春学期に経大にお邪魔するたびに、新しい立派な建物が建っていきます。卒業生の皆様も、さぞ立派になられたことでしょう。私は昨夏、谷本富という人について研究するため、香川県を訪問しました。そこにはゼミ1期生の岡(紙谷)静子さんが小学校の校長先生になっておられ、また同世代の野村一夫さんが香川県教育センター所長(現義務教育課長)として活躍しておられました。お二人にはいろいろとお世話になりましたが、同じ経大人として、母校を思う気持ちの深さにも感動しました。2011年7月から、私も経大評議員に選出されましたので、微力を献げたいと思っています。

五カ年計画を4年で

上島 武

2003年に退職した後の人生計画について、私はあらかじめ最初の10年を二つに分け、初めの5年で在職中にやり残した仕事のせめて一部なりとも果たす、後の5年は自分自身の趣味に充てようと考えていた。前者は『ロシア革命史論』として2008年に、後者は2011年2月『万葉集ノート』としてめでたく完成を見た。つまり二つの五カ年計画は8年足らずで達成されたことになる。ただし万葉集は若いころから拾い読んでいたから、その間の「蓄積」が役に立ったことは言うまでもない。ここで新しく伝えたかったメッセージは、一に天皇制的心理の克服、二に自然と人間への愛情、これに尽きる。いずれもフクシマ以後、最も重要な課題である。

泉谷ゼミ卒業生の皆さんへ

泉谷 勝美

退職後8年になります。目下、堺三国ヶ丘の老人ホームに妻と一緒に入居しています。妻は闘病25年車椅子生活で元気に頑張っています。今年私は82才、この間、バイパス手術を受け、更に二度にわたる心不全と肺炎を併発しての重病に見舞われましたが、天佑か命だけは生きながらえて、元気です。体重は減りに減って56Kg、ズボンもだぶだぶです。昨年からは身の整理と称してマイライフ、マイワーク、マイ介護と題した80ページのパンフを出しました。若干予備がありますので、お申し出下されば、送らせていただきます。住所 〒591-8046 堺市北区東三国ヶ丘4-1-28

フェリーチェ三国ヶ丘 ☎072-254-3466

蔵書の整理と売り値

藤本 周一

退職後、何とかしなければと思いつつ、ほとんど手つかずになってしまったのが「蔵書」の整理でした。自分としては、かなり思いきって整理作業に取りかかり、数年を経てようやく初期の目標に向けての目処がついてきました。小生の場合は、もともと「蔵書」と称するものもおこがましい程度のものでしたが、それでも冊数からみて約十分の一に縮小するまでの取捨選別は、書棚から取り出し、なじみのページを開いてみては棚に戻したりの行動に終始したというのが実情です。ところで、整理作業に伴って、この「迷い」を深めることになりましたのが、古書店の買い取り値の安さと、店頭に掲げられています「高価買受」の看板との矛盾でした。

2011年夏

成瀬 洋

ことし世間で言う米寿を迎えました。この夏梅雨明けしてしばらくした頃、突然所属の日本第四紀学会から、「日本における第四紀学の発展への顕著な貢献」ということで学会賞および功労賞授与の旨通知があり戸惑いました。昔1950～70年代に何がしか学会のお手伝いをしたこと、いくつかの研究グループに加わって当時としては新しい成果をあげたこと、その後の著作活動などが総合的に評価されたものと見ています。私としてはすぐれた研究仲間のほとんどが他界した今日、戦後第一世代の数少ない生き残りとして認められたものと受け止めています。表彰式には出るつもりが、生憎夏風邪から肺炎を起こして入院欠席。全く「想定外」の波風の立った一夏でした。

徳ちゃん亭「はし巻き」を出店

徳永 光俊



みなさん、お元気ですか。ゼミでは6年前から学園祭で屋台「徳ちゃん亭」を出しています。昨年は「箸巻き」でした。そろいの「道理貫天地」のTシャツを着て、1～4年生が協力して頑張りました。毎年20～30名の学生が来てくれるのは、うれしいかぎりです。最近ゼミで読んでる本は、広井良典『創造的福祉社会』、本川達雄『生物学的文明論』です。みんなも読んでみて！
(学長)

苦しい就職戦線に耐える学生

伊藤 博志

私も本学で教鞭をとらせていただくようになって早10年が過ぎようとしている。

赴任した時は、渡辺泉学長のもと「新しい経大」を目指した本学設立70周年の節目であった。この10年、日本経済も激変の時代と感じているが具体的な方向性は、いまだ見えてこない。そうこうしている間に、隣の中国にGDP世界第2位の座も譲ることになってしまった。

「坂の上の雲」という時代ではないと分かっているが、学生にゼミを通じて坂道を登らせていく環境を作るのが仕事である以上、坂道を用意しなければならない。その上の雲が、今さらアメリカや中国ではなかろうが、混迷の中それぞれの学生の人間性や知性を引き伸ばす坂を用意するのが難しくなってきた。

幸いにも平成不況下に生れ育った今の経大生は案外、坂道が嫌いでもなさそう。私が身勝手に要求する企業分析、工場見学、プレゼン、ゼミ合宿、飲み会など結構やってくれている。就職状況が厳しいという認識も背景にあるのだろうが、その意味や手順が理解できれば苦行にも耐えようとするという印象である。

ただし皆と一緒にでない嫌、という条件が付く。株式相場の格言「人の行く裏に道あり花の山」の理解は難しいようだ。私が大学を卒業する頃、安定している、成長産業だとして優秀な学生を大量に飲み込んでいった、銀行・証券、不動産・建設、百貨店などにその後、どんな展開が待っていたかを知る世代として、少し気がかりでもある。
(経営情報学部准教授)

何事にも成長の機会と考える

古宮 昇

昨年の4月から役職に就き、学生と大学に良いことをしようとあれこれ取り組んでおり、反対があったり壁があったりするたびに、成長の機会だと捕えてがんばっています。

卒業生のあなたも、イヤになったり、会社や人を憎んだり呪ったりしたい気持ちになったりすることがあるかもしれませんね。そんなときには、焦ったり人を責めるような気持ちのまま押し通そうとするとうまくいかないと思います。まず気持ちを落ち着けて、前向きな気持ちで、成長の機会を生かしてほしいな、と願っています。健康第一で元気にやっていってくださいね。
(人間科学部教授)

完全リタイアします

松本 良治



この3月末で27年間のサラリーマンと21年間の教員という48年間の就業生活から完全にリタイアします。誘われて経大に赴任した当初は、ちょっと決断を早まったかなと思ったこともありましたが、振り返れば大変充実した貴重な経験ができたことに今は大変感謝しています。一方で、私のゼミから大勢の人達を世の中に送り出した責任を思うと

気持ち揺らいでしまうところも多いのですが。

これからも皆さんと交流が続けられればいいなあと思います。例えばFacebookなどを通じて声を掛けていきたいと思っています。よろしくお願いします。
(経営情報学部教授)

NZのワイカト大学へ語学研修

片山 麻美子

皆さん、お元気ですか。昨年は震災と大雨の大きな災害が続くつらい年となりました。熊野はゼミのみんなと合宿で行って以来大好きになった聖地です。皆さんのご無事と被害地域の復興を祈っています。

さて昨夏、語学研修で10日間経大生とニュージーランドのワイカト大学に行きました。私の一番はマオリ村のハカの歌と踊りでしょうか。観光目的でない、伝統に支えられた生命力を感じました。空港や、ホームステイ、ショッピングなど小さなトラブルをあだ、こうだといひながら、一緒に生き延びてきました。ワイカトのプログラムで、例年経大生はとても元気がよく、面白くて現地の先生に愛されているそうです。久しぶりに若い頃を思い出しました。
(経営情報学部教授)

経営学を現実と理論で学ぶ

三島 重顕



三島ゼミでは、経営学を現実と理論の両面から学びます。まず学生は、各自が就職先として興味を持つ企業を選定します。その後、『会社四季報』で数字の側面から当該企業の動向を概観します。各企業には業績が伸びたり失速したりする年度があるので、そうした数字上の動きの原因を突き止めるため、存在する過去の日経新聞の記事すべてを読み込みます。最後に、当該企業の経営全般、あるいは短期的な出来事についてなど、特定の事象を経営学理論から分析します。相応しい理論の選定は学生自身が行い、その理論本を一冊熟読したうえで、現実の企業経営を理論で分析する卒業論文を書き上げていきます。
(経営学部准教授)

定年を多くの方に祝っていただく

桜井 三枝子

昨春、めでたく定年退職し、人間科学部教員の企画のもとに大勢の卒業生や同僚、研究仲間祝っていただきました。卒業生には遠く富山、山口、東京から参加していただき心からお礼を申し上げます。情報学部の藤田さん、森さん、柚木さんは教職に、吉川さんは旅行社に、人間科学部第一期生～第四期生は順調に企業に就職し第一線で活躍中、赤根川さんは結婚し、男児を連れての参加、尾坂さんは警察官になって大変身。この不況の中を真面目に懸命に生活と戦っている卒業生に頭が下がります。大学院だった朱亮さんと長谷川来夢さんも参加し、現役ゼミ生は受付をするなど賑やかでした。でも、当日は嬉しさに興奮してゆっくりとお話する時間を持てませんでした。現在、特任教授として残っておりますから連絡をいただいたら、再会しましょう。近況をきかせてくださるのを楽しみにしていますよ。
(人間科学部教授)

憂 愁

六浦 英文

3・11の東日本大地震による津波と原発事故については、ドイツでもN24テレビで詳細に報道された。放射能で汚染された大気が風によってどの方向に流れていくのかについて、シミュレーション画像を見ることもできた。

他方、日本ではどうか。3月下旬に風向きが変わって放射能の大気が関東地方を覆うシミュレーション画像の放映は行われたのであろうか。日本のテレビでは、「ただちに人体に影響はない」という御用解説者の言葉が「大本営発表」のように繰り返されるばかりだった。誰のために、どこを向いて報道しているのだろうか。報道の劣化、政治の貧困、経済の低迷、天災……。21世紀の日本には克服すべき課題が山積しているようだ。(経営学部教授)

大経大ネットワークの強化にご協力を

吉野 忠男

ここ数年の内定獲得率は、やはり低迷していると言わざるを得ません。ゼミ学生も悪戦苦闘の最中ですが、企業側の対応に驚くこともしばしばです。学生の意欲をみたいとの思いが推察されますが、ややもすると恫喝まがいの言動が見受けられます。これは学生の、その後の就職活動の様子をみると分かります。完全に意欲を喪失し就職活動から離れてしまう学生も存在するからです。確かに学生の側の「甘え」も否定できませんが、就職意欲を損なう対応は企業側としても考えていただきたいことです。

ご卒業生のみな様におかれましては、悪戦苦闘の後輩学生にどうぞご配慮をお願いし大経大ネットワークの強化にご尽力いただければと心からお願いする次第です。(経営学部准教授)

ゼミは人間同士のつきあい

間野 嘉津子

間野ゼミのみなさん、ご無沙汰しています。元気に活躍のことと思います。

私は今年で定年です。思い起こせば懐かしい先生や学生さんばかり。私がはじめ所属した教養部は人間科学部となり、その頃「ヨーロッパ文化論」を担当していた私に一人の学生さんから、ゼミを是非にという話を持ちかけられ、それ以来専門ゼミを持つようになりました。(その後私は経済学部に移籍。)フランス語の授業と違って、ゼミでは主役は学生の皆さんです。半年経った頃にはみんな個性豊かに成長し、人間同士のお付き合いが始まります。その時が一番の楽しみでした。卒業論文というノルマを果たし、いよいよ卒業式を迎える頃には、みんな考え方のしっかりした若者になっていました。ゼミの想い出は尽きません。ではこれにて。(経済学部教授)

大阪経済大学に赴任して

熊倉 修一



本学に着任して3年が経ち、多くの事に漸く慣れてきました。同時に、本学を取り巻く諸問題もうっすらと見えてきました。現在、キャンパス内では新棟建設の工事が着々と進むなど、創立80年記念に向けた雰囲気が高まって来ています。このように周年を迎えることができるのは、OBの皆様も含め関係者のこれまでの大いなるご努力

の結果です。しかし、言うまでもなく大学を取り巻く諸情勢は極めて厳しく、生き残りをかけた大学間競争は一段と激しくなりつつあります。本学が90周年、100周年を同じように祝えるか予断を許しません。そのためには、今から研究・教育・経営上の諸課題に真正面から取り組んでいく努力が求められていると思われます。(経済学部教授)

人間への関心

稲場 紀久雄

私の人間への関心は、強まるばかりだ。一人ひとりの人間は、その人生にその人にしか書けない詩を書く。その詩は、みんな違う。私は、今「メロスのように—評伝小栗孝則私論—」を書いている。既に15万字書いた。出版できるかどうかは分からない。完成したら売り込むつもりでいる。しかしそんなことは瑣末なことだ。それよりも小栗の生き方に魅かれる。私は、これまでに十人ほどの人物の生涯を調べた。その都度、私は人物研究に夢中になっている自分に気づいた。いつか作家になりたいと思ったりもする。どうせ、挑戦するだけで終わるだろうけれど。でも、まだ夢がある。いよいよ特任教授最後の秋学期の講義が始まる。緊張するが、楽しみである。(人間科学部教授)

学生ハートと笑顔をしっかりつかむ

増山 裕一



オープンキャンパスで、「建物にギョッと詰まった大学でステキですね。」といわれて嬉しく思いました。学生にとってキャンパスとは、大学の内外を含めた広い生活圏の中で必要なものがコンパクトにまとまっている方がよいみたい。iPhone新世代の学生ですね。北浜でも学生の指導しておりますが、便利な立地でコンパクトな教室ながら、万全のサポートで社会人学生の心を掴んでおります。私は授業で学生のハートと笑顔をしっかり掴んでいきたいと思っています。

(経営学部准教授)

雑 感

井形 浩治

大学の真の姿は、どこで発見できるか。キャンパスという「場所」や、学生、教・職員、理事という「人々」からも確かに伺える。新校舎や各学部の教学への取り組み、いずれも「今の経大」を語る。しかし、真の姿はそれだけでない。学部長就任以来、全国各地の同窓会に招かれる。そこには私よりはるか年配の多くの方々の姿がある。「代表取締役社長」、「市(県)議会議員」等々、その肩書から社会での活躍が偲ばれるOBに出会い、昔の経大や先生方の逸話を拝聴する。ここに、「新しい・今につながる経大」の姿が見られる。経大が「どこから来た」のか、「どこへ向かう」のか。和やかで楽しい一席は、我々がこれからすべきことの学習の場でもある。(経営学部長・教授)

ゼミ第1期生の皆さんへ

鵜飼 奈津子



皆さん、社会人1年生の生活、いかがお過ごしですか？慣れないことも多く、学生時代とは違った苦労もあるでしょうが、それぞれ日々頑張っていることと思います。大学院に進学して臨床心理士を目指している人たちが、福祉関連の仕事に就いた人も多くいますが、一般企業に就職した人にとってもゼミで勉強したことが何か役に立って

ると良いなあと思う今日の頃です。第1期生は、皆とても仲が良く、インターネットの「らくらく連絡網」を通じて、卒業してから半年ですでに3回もミニ同窓会を開きました。すでにメールアドレスを変えてしまったりして連絡が途切れてしまった人は、大学の私のアドレスまで連絡してくださいね。次の同窓会をたのしみに！(人間科学部准教授)

2011年度 同窓会理事会

80周年記念募金 同窓会は2億円を目標に

2011年(平成23年)度同窓会理事会が5月28日(土)午後2時から理事総数193人中、出席87名、委任状提出55名の計142名で開かれた。はじめに昨年の1月31日に逝去された尼崎支部長の小谷芳男氏に全員で黙祷を行った。ついで田村正晴副会長が開会を宣言。

佐藤武司同窓会長は「平成23年度の本学の受験生は昨年より23名減りましたが、ほぼ安定しております。大経大のブランド力が上がってきており、大変結構なことです。創立80周年記念募金事業はご案内の通り目標は全体で80周年にちなみ8億円、この内同窓会は2億円を目指しております。募金も少しずつ増えてきておりますが、ここにお集まりの皆さんのさらなるご支援をお願いします。募金の期限は2013年3月末までで、10万円以上募金して頂いた方はインテリアとしても見栄えのする銘盤にお名前を載せ、永久に顕彰します。

秋の同窓会総会はこれまで11月3日に開催していましたが、今年は大学祭を含め大学主催のホームカミングデーが10月30日に行われます。これにあわせ同窓会総会もこの日に変更します。記念講演会を含め総会をきっちり行うことで、大学の申し入れを受けました。

スポーツ推薦入試は「スポーツAO入試」と改称され、大樟体育会が永年要望しておりました推薦ワク増員については現行の70名プラス5名の75人となりました。あわせて補助金も増額、予算化されました。

80周年を迎え大学はハード・ソフト面とも大きく変わってきます。私たちも大学に協力しながらやるべきことはきっちりやっていたいかなければなりません」とあいさつした。

全役員が留任

次いで議事に入り、議長に平田義行(31回)、副議長に廣野義直(34回)を選び議案審議に入った。第1号議案の10年度事業報告・



熱心な討議が続く理事会

収支計算書、監査報告が行われ、貸借対照表の項目で前払い費用の説明や学対費計画増の内容、休眠支部への運営費援助の現状など質問があり、中村財務部長から説明した。賛否では全員一致で承認された。第2号議案で11年度事業報告・収支予算案が提案された。同窓会としての80周年募金は次年度に計上する。また同窓会ホームページを積極的に活用する提案がなされた。第2号議案は全員一致で承認された。第3号議案では同窓会会則一部改正の承認が提案され、第5章本校評議員・理事の推薦において評議員・理事(候補者の選出)が挿入され、承認された。第4号議案の本部役員改選の件では平成23年3月8日、次期役員選考委員会(大門壽郎選考委員長)から常務理事1名追加の19名、監事3名、を選出。佐藤会長から80周年記念募金活動の中、事情を知る現役員の継続希望の意を受け全員続投を提案、会長再選後各役職を発表紹介され承認を求めた結果、了承された。3時過ぎ終了した。

第2部では来賓あいさつと学内の近況報告が行われた。勝田泰久理事長は「本学は就職・スポーツに強い大学として80周年を成功させば、90～100周年は非常に明るい展望があると確信しております。同窓会の皆さんには物心両面のご支援をお願いしたい」と述べた。

次に徳永光俊学長が「大経大の学生像は"あったかもん やんちゃもん しっかりもん"。そういう芽が育っています。私はこれを"大経大ブライド"として育てていこうと思います」とあいさつされた。

第3部は同窓会ホールに移り約110名の参加者で懇親会が行われ、理事会は終了した。

支部・団体の現状を報告

2011年度全国支部長会を開く

平成23年度全国支部長会が5月28日、理事会にさきがけ午前中に開かれた。この会は昨年11月に設立された北大阪支部を加え現在49支部と7職域・団体の支部長・会長で構成されており、年に一度集まり活動や近況報告をする中で、本部・支部・職域団体の運営に役立てようとするもの。議案審議や議決などは行わない。

佐藤武司同窓会長は「まず、東日本大震災では約50人の卒業生が被災されましたが、皆さん無事だったということで大変安堵しております。1日も早い復興を願っております」と述べたあと、今年の受験者数、80周年の取り組み、同窓会総会の日程変更など協力を要請した。

各支部長・団体長からの主な報告、提言は以下の通り。

- ・同窓生が少なくなり、近隣支部との合併も考えざるをえない(宮崎)
- ・地方での大学の知名度アップをもっと上げて欲しい(北九州)
- ・同窓会ホームページの掲示板の利用を広げよう(香川)
- ・徳島銀行内で13名の行員支部が出来た(徳島)



支部長会であいさつする佐藤会長

- ・転勤者の情報交換を相互に(広島)
- ・若い人の支部参加が困難だ(島根・鳥取)
- ・支部活動を再開する(東播磨)
- ・近隣支部との交流を活発に(丹有・阪神)
- ・近くの未組織支部の立ち上げに協力する(池田)
- ・支部会員へ会費制を実施、88人が賛同(北大阪)
- ・支部内に2分会を立ち上げ(福井)
- ・支部は「なかよしクラブ」でいく(姫路)
- ・学生の教職員希望講座に大学がやっと腰を上げた(大樟教育研究会)
- ・各地の施設研修を積極化する(社労士大樟会)

本部だより

本部役員一覧

2011年12月1日現在

氏 名	役 職	卒回	氏 名	役 職	卒回	氏 名	役 職	卒回
佐藤 武司	会長	30	秋山 治信	広報部	37	植村 祐三	監事	32
田村 正晴	副会長・財務部長	30	大谷 忠久	広報部	51	大西 健介	監事	35
竹中 亨	事務局長	32	進木伸次郎	組織部長	33	山内 淳子	監事	47
梶村 貞男	事務局次長	37	石橋 隆夫	組織部	32			
齋 貞文	総務部長	30	廣野 義直	組織部	34			
神田 博	総務部	30	下垣 恒彦	組織部	36			
福地 利仁	総務部	39	菊川 和義	組織部	59			
平田 義行	広報部長	31	中坪 健治	財務部	41			
小林 真人	広報部	32	二宮 勉	財務部	65			

平成22年度収支決算書

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

(単位:円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	決 算 額	予 算 額	科 目	決 算 額	予 算 額
前期繰越金	17,754,632	17,754,632	総 会 費	2,964,141	3,000,000
会 費 収 入	35,974,000	34,500,000	役 員 会 費	938,111	1,300,000
総 会 収 入	1,075,000	750,000	支 部 費	9,419,567	11,000,000
利 息 収 入	905,794	650,000	事 務 費	1,002,421	1,000,000
澱 江 収 入	1,143,270	1,000,000	人 件 費	4,914,320	5,000,000
広 告 料 収 入	981,750	600,000	旅 費 交 通 費	1,953,130	2,800,000
雑 収 入	419,400	0	広 報 活 動 費	8,669,211	12,000,000
			名 簿 調 査 費	258,655	500,000
			学 対 費	11,429,883	15,000,000
			諸 会 助 成 費	1,050,035	1,500,000
			慶 弔 費	225,925	500,000
			予 備 費	0	1,500,000
			次 期 繰 越 金	15,428,447	154,632
合 計	58,253,846	55,254,632	合 計	58,253,846	55,254,632

平成23年度収支予算書

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

(単位:円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算 額	摘 要	科 目	予 算 額	摘 要
前期繰越金	15,428,447		総 会 費	3,000,000	
会 費 収 入	43,500,000		役 員 会 費	1,200,000	理事会・常務理事会・各部会
総 会 収 入	750,000		支 部 費	11,000,000	運営費・支部総会援助
利 息 収 入	700,000		事 務 費	1,000,000	
澱 江 収 入	1,000,000		人 件 費	6,000,000	事務局人件費
広 告 料 収 入	900,000		旅 費 交 通 費	2,800,000	
			広 報 活 動 費	9,000,000	
			名 簿 調 査 費	300,000	
			学 対 費	15,000,000	大学祭・クラブ活動援助 他
			諸 会 助 成 費	1,500,000	諸会援助
			慶 弔 費	500,000	
			特別基金繰入金支出	5,000,000	
			予 備 費	2,000,000	
			次 期 繰 越 金	3,978,447	
合 計	62,278,447		合 計	62,278,447	

同窓会「大樟会」支部長・各種団体会長一覧

2011年12月1日現在

支 部・団 体 名	氏 名	卒回	現 住 所	電 話
北海道	池田 正勝	34		
東京都	藤本 二郎	34		
富山	小泉 俊夫	30		
石川	鍛治 一英	36		
福井	石橋 隆夫	32		
岐阜	長崎 和夫	29		
静岡県	大塩 博喜	40		
愛知	五十棲 保彦	32		
三重	英 成樹	38		
滋賀	正村 公一	27		
京都	田中 伸治	45		
大阪市	三好 政彦	26		
大阪市役所	南 正治	43		
北大阪	平田 義行	31		
北摂	大門 壽郎	29		
北河内	森川 義一	25		
豊中	植田 富雄	38		
池田	中 一正	27		
泉州	車野 修三	27		
堺	堀本 修	24		
尼崎	久保 太郎	31		
伊丹	水納 敏也	25		
阪神	進木 伸次郎	33		
神戸	下土井 康晴	25		
但馬	高本 勲	35		
丹有	廣野 義直	34		
明石	佐藤 武司	30		
北播磨	伊藤 俊博	32		
東播磨	西川 嘉紀	33		
姫路	林 和信	32		
淡路	竹内 通弘	34		
奈良	西本 集一	23		
和歌山	新田 和弘	32		
鳥取	秋口 政俊	39		
島根	浅原 宏	22		
岡山	松永 清彦	41		
津山	竹本 巧	37		
備後	小池 勝章	32		
広島	陰山 秀明	44		
山口	小林 真人	32		
徳島	樫本 孝	35		
香川	鈴木 澄夫	36		
愛媛	眞鍋 一美	32		
高知	野崎 邦男	32		
北九州	植田 達三	52		
大分	寒田 陽	40		
熊本	濱 忍	35		
宮崎	福田 俊彦	32		
南九州	前園 博隆	34		
春秋会	田中 夏木	26		
大樟体育会	下垣 恒彦	36		
池田泉州銀行経友会	田中 寛	37		
日立大樟会	角脇 忠行	34		
税理士大樟会	三木 泰	35		
大樟教育研究会	眞鍋 一美	32		
社労士大樟会	久保 太郎	31		

同窓会ホームページの 「掲示板」を活用し情報の交流をしませんか

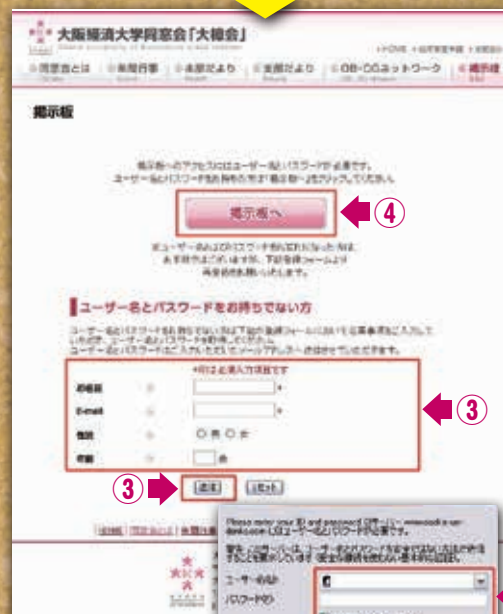
同窓会「大樟会」広報部では、かねてから会員相互のコミュニケーションを密にし、情報の多様化、迅速化に対応するため、同窓会誌「澁江」、「大樟会だより」さらには同窓会ホームページの「掲示板」を3本柱に広報活動を展開して参りました。

ただ、ホームページの「掲示板」は、一部の部外者の侵入を防ぐためユーザー名とパスワードを入力していただくことにしたため、利用者が激減しております。

そこで「掲示板」を簡単に利用していただくため、再度その手順をご説明いたします。奮ってご活用下さるようお待ちしております。

手順

- ① 同窓会ホームページを開く。
- ② メニュー右端の「掲示板」をクリック。
- ③ 画面下部の登録フォームに「お名前」「E-mail」「年齢」「性別」など必要事項を記入、チェックをし、「送信」をクリック。訂正したい時は「リセット」で再入力願います。
- ④ 入力していただいたメールアドレスには、「ユーザー名」と「パスワード」が送信されますので、それを「掲示板へ」のボタンをクリックして、開いた画面の所定の場所に入力致します。
- ⑤ 入力後「パスワードを記憶する」にチェックを入れ「OK」をクリックして終了です。
- ⑥ 最後に一度掲示板内の上部にある「掲示板の使い方」(クリックして開く)および送信されたメールに記載されている「掲示板での注意事項」をご覧ください。



経大生協では、学事・学会・講演会・OB会などの懇親会やPARTYを、ご要望にあわせてプランニングいたします。お料理・飲み物・ホールサービス・会場設営など内容についても是非ご相談ください。

お気軽にご相談ください

大阪経済大学生生活協同組合

〒533-0011 大阪市東淀川区大桐 3-16-10
TEL.06- 6379- 2230 Fax.6379- 2232 URL.http://OK.osaka.coop/
e-mail Osakakeizaidai.Coop@ma4.seikyuu.ne.jp

中国農村部の社会保障を 先進国並みに上げたい

おう そう
王 嶸 氏 (2011年大学院博士号取得)



略歴…1982年10月30日生まれ。中国黒龍江省出身。01～05年東北財経大学(中国)ビジネス日本語学部(学士) 04～05立命館大学国際関係学部(交換留学) 06～08大阪経済大学経済学研究科博士前期課程(修士) 09～10ワイカト大学(ニュージーランド)アカデミック英語(短期留学) 08.4～11.3 大阪経済大学経済学研究科博士後期課程(博士) 現在は江西省の国立江西農業大学・経済貿易学院に講師として勤務。

世界第2位の経済大国に躍進した中国。90年代から本格導入された市場開放経済のもとで整備され始めた社会保障制度は、国民の経済格差を是正する上での喫緊の政策課題となっている。このような中で、若く聡明な中国人留学生の王嶸さんが、本学大学院経済学研究科で研鑽を積み、2011年春、論文「中国農村における包括的医療保障体系の構築」で「経済学博士」の学位を授与され卒業、帰国された。

王嶸さんは04年、海外実習で中国大連を訪れた故土井乙平先生、山本恒人先生と出会った。王さんはご自身の将来を、日本では60年代には完成していた社会保障制度を学ぶことで、特に整備が遅れている中国の「医療保障制度」を強化し、普及することに捧げたいと考えていた。この出会いによって、06年に本学の経済学研究科に入学され、社会保障論の研究を土井先生、森詩恵先生、さらに山本先生の指導を受け3年間の博士後期課程を修了された。

社会保障といっても年金、介護、医療、失業、社会福祉と幅広い。王さんは医療保障を選んだ理由として、03年中国では農村医療制度が再建され、温家宝政権でその推進が政権課題となっている。一方、日本は国民皆保険が定着しているが、中国では今も自由加入。加入率は都市部では40%前後、農村部では90%と高いが、医療給付のバラツキや富裕層と貧困層との受給格差など構造的問題も大きい。2010年夏、王さん自身農村部に入り、新医療制度の実態と住民の満足度を調査

した。制度加入への抵抗感は少なかったが、農村の行政単位が末端になるほど医療機関は少なく、医療コストも上昇していた。

王さんは、「中国農村部の医療保険制度を先進国並みにレベルアップしたい、そのため大学で研究を進めながら、その成果を政治・行政にも反映していきたい」と眼を輝かす。中国では経済成長とともに医療制度が国民レベルで最大の関心事となるのは必至で、それだけに医療保障制度に関わる「博士号」の重みは大きいものがある。王さんは「社会保障の歴史と基礎理論、中国の現状と日本の違い、先進諸国の実情」などを教育・研究の指針としており、その第一歩として11年7月、江西省の国立江西農業大学・経済貿易学院に専任講師として赴任した。

王さんの日本での学修はトータル7年に及ぶ。この間、ニュージーランドに短期留学もし、世界中に友だちが増え、異文化理解をさらに深めたという。いろんな職種のアルバイトも経験した大阪経済大学の6年間で、自分の人生観が変わったと確信しているという。修士課程の頃、師事する土井先生が亡くなられ不安な時もあったが、教職員の皆さんに一生懸命バックアップして頂き、自分の夢を支えて頂いた。このご恩には時間をかけてでも報いたい。その一つとして、留学生交換で日本の学生さんを中国に紹介する橋渡しをしたい。若い今こそ羽ばたける時、勇気をもって日本から旅立って欲しい。大阪経済大学の規模は小さいが、自分が勉強したいことでその気になったら、本当に勉強できる大学です、と強調される。

卒業式で大学院経済学研究科後期博士課程の総代を務めた王さん、「私をサポートしていただいたすべての方に感謝します。私は一人の研究者として母国のために役立ちたい。それが大阪経済大学への恩返しだと信じています」と結んだ。

(聞き手=編集委員・平田義行)



中国へ帰られる前に



文武両道の創部の精神を今も貫く

準硬式野球部総監督

牧田 安夫 氏(19回卒)

略歴…大正14年3月27日生れ、86歳、東京都出身、旧制明石中学から前身の経済専門学校を経てリベラリストであった黒正巖先生を慕って本学へ。昭和28年3月(大学2回卒)卒業と同時に、東京都が全国公募した職員採用試験に見事合格、以後東京オリンピック開催の立役者となった東知事、その後の美濃部、鈴木の下、渉外部長、広報部長の要職を勤める。現在も多くの人脉を持ち、NPO東京都日本中国友好協会、社団法人日本太極柔力球協会常務副会長、工学院大学孔子学院客員研究員、産業能率大学総合研究所特任講師など幅広い分野で活躍中。

高校球児のメッカ甲子園に語り伝えられる明石中学と中京商業の延長25回の名勝負は、野球人ならずとも記憶に残っている。そんな環境の明石市で少年時代を過ごした彼にとって、野球は子供の遊びの原点だった。その彼に準硬式野球とのかかわりを作ったのは、あの第2次世界大戦であった。海軍航空隊でゼロ式艦上戦闘機に乗っていた彼は、20年8月の終戦をシンガポールで迎えた。当時イギリス軍の統治下であったため俘虜収容所には野球の道具はなかった。そこで現地で採取される生ゴムを固め、丸太を削ってバットを作り、野球に興じた。それは戦争から平和へ、野球が再び自由にできるようになった喜びの行動であった。帰国し大学に入ってから準硬式野球部を創設、昭和25年近畿6大学準硬式野球リーグを設立、本学は同27年に初のリーグ優勝を果たしたのを皮切りに、43回のリーグ優勝と2回

の全国制覇を遂げるなど、華々しい戦績を残してきたが、今でも準硬式野球部のリーダーの役割として欠くことのできない存在となっている。

それは「野球ができるというだけではダメ。創部の精神である文武両道の精神を忘れてはいい人材は育たない。野球というものを通じて自分がやるべき役割は何か。どんなことをすればいいのか。それを弁えてこそ組織は一番力を発揮する。それには当然目標がいる。それに向けて自分の役割を考え、それに向けて活動する。もちろん勝負をするからには勝たなければならない。そのためにどうするかを自分で考える力を学生時代に植え付けていく。これが私の指導方法です」と、熱っぽく語る野球に対する哲学があるからだ。「野球を通じて人生を考えよう」と、教える彼の情熱はいささかの衰えも感じさせない。

(聞き手=編集委員・森川義一)

地球のアートとコラボする

アーティスト

倉貫 徹 氏(37回卒)

略歴…昭和23年大阪生まれ。同46年本学経済学部卒業後、(株)倉貫に入社。同58年同社の代表取締役役に就任。個展・グループ展への出展は同43年以降、関西を中心に、オーストラリア・ベルギー・米国・中国など海外を含めて多数。平成19年作品集「水晶島」、同23年作品集「風水庭園」出版。



水晶やダイヤモンド、ルビーなど「宝石を作品素材として使った、世界でも類を見ないアート」と専門家から評価を受ける。競争が激しい中国現代アートの世界で注目され、上海の美術館で作品展を開いたり、画商からオファーを受けるなど、活躍の場を広げている。

少年時代から絵を描くのが好きだった。一方でSF小説を好み、隕石や化石を探しに山へ。高校時代は詩作を手掛け、現代詩の雑誌に投稿して入賞した経験も。宝石製造卸の家業を継ぐため本学で学ぶが「経済の勉強はあまり好きではなく」、鈴木亨ゼミで研究した哲学にこそ、大きな影響を受けたという。

在学中から、美術コンクール展などに出品。卒業後も家業を担いながら美術活動を継続し、化石や鉱物などを素材とする独創的な作品を発表した。「前衛」が「現代美術」と言い換えられるようになる1970年前後のことだ。

35歳で社長職を継ぎ、時代の波に乗って事業を拡大。年商約5億円の会社を58億にまで成長させたが、バブル崩壊で縮小に転じる。社員の独立支援ほか残務を済ませ、昨年からはアート活動に専念し始めた。

宝石を作品に使い始めたのは10年近く前。「最も身近にあり、最も安価で入手できる立場だった」と振り返る。「高温高压で結晶化し、億単位の年数を経て、地盤の隆起によって地表へ。いくつもの偶然が重なり、生まれる地球のアートの結晶。それが宝石です」

“地球のアートとコラボする”をテーマに制作するほか、宝石を愛した宮沢賢治の詩とコラボする展覧会、ミケランジェロなど歴史的な芸術家とコラボする写真作品の制作など、意欲的な活動が続けられている。「どんどん作品を創り出し、世界に発信する。多くの人に見てもらいたい」と抱負を語る。

(聞き手=編集委員・永富美幸)

コンサルティングは「需要を引き出す能力」

ダンコンサルティング株式会社 代表取締役

塩見 哲 氏 (38回卒)



略歴…1949年8月京都府生まれ。1972年3月経済学部卒業後、公認会計事務所を経て1976年経営戦略コンサルティング会社設立。以後35年以上にわたり、中小企業の目的である「継続」をテーマに経営戦略の立案・企業診断・再建計画・資金戦略・出店戦略・企業継承・経営資源の活性化などのコンサルティング業務を行っている。また不動産・建築計画などの土地有効活用企画プロデュースの専門家でもある。

税理士でダンコンサルティング(株)社長の塩見哲さん。大樟税理士会研修会での舌鋒鋭くかつ聴く者を納得さすお話に、是非もう一度聞いてみたい取材を申し込んだ。お会いしてみると実に気さくで高慢でもなく、一極集中の東京に在住・在勤されながらご出身の京都人らしく物腰の柔らかさにすぐ親しみを覚えた。

昭和47年卒業後、東京の公認会計事務所に入り雑用をこなすうち、顧客の経営者から「これからの日本の中小企業経営はコンサルタントが必要になってくる」ことを学んだ。もともと人の想いを聞いて一緒に考えることが好きだった塩見さん、「その仕事こそが最も俺に向いている」と即断、早速準備を始めた。この間に税理士資格を取り、昭和51年3月、東京・高円寺に事務所を立ち上げた。が、仕事がすぐある訳でもなくアルバイトしながら街角でアンケートを採って社会のウォンツを掘り下げたという。しかし東京に出て短期間でコンサルタントという新分野を開発できたことは、市場拡大という社会

背景の「運」にも恵まれたと振り返る。同時に、経営者が成功する条件として、勘が鋭い・感性が高く・習慣化できること、この3つの「かん」が必要と説く。

「生産年齢人口(15～64歳)が95年の8717万人から2050年には4868万人に減少し、基盤となる人口が減ることで需要も減り慢性的デフレ時代を迎え、商社も建設業も料理屋さんも「需要を引き出す」コンサルティングのセンスを持たないと生き残れなくなります。ニーズを引き出しそれに沿った商品を作ることがあらゆるビジネスに求められています」と確言される。

大学はどうなりますか?今は時代の変わり目で、キーワードは「人口、環境、情報」です。自分の意見を持ち、相手の意見も尊重する個々の力が大事です。それには総合大学ではなく専門化し地域で生きられる大学を目指すことです。新入生が入ってきた時、何のために社会で生きていくのかを一緒に考えてあげられる、そんな学生さんがたくさんいる大学がいいですね。

(聞き手=編集委員・平田義行)



今年も夏の甲子園で 全国高等学校野球選手権大会の 審判委員を務めた

クローバー保険事務所株式会社 代表取締役

田中 豊久 氏 (51回卒)

略歴…昭和37年9月、大阪市生れ、49歳、大阪府立花園高校から同56年経済学部へ入学、同60年3月卒業と同時に京都の医療機器販売会社に入社、主として透析用機器の販売に携わる。ただ、7歳の時に父親を亡くし、実家が商売を営んでいたこともあって、早くから自立して母親を楽にさせてやりたいという気持ちを持ち続けていた。そして平成5年5月に現在の保険取扱業を立ち上げたが、その一方で、在学中硬式野球部で馴らした経験を生かし、大阪府高等学校野球連盟の審判委員として活躍するようになり、今年の夏も甲子園で7度目の審判委員を務めた。

保険会社の代理店を営む経営者の顔と、野球の審判員というボランティアの世界にいる二つの顔を持っている。「そりゃ、生活していくうえで本業はおろそかにできませんが、3分の1は野球の審判員として動いています」と照れ笑い。

経大野球部が近畿大学リーグから関西6大学リーグに昇格したこともあって、入学した時の新入部員は23名を数えた。「同期生同士の競争も激烈で、結局レギュラーの座を確保することはできませんでしたが、4年生の時、全日本大学野球選手権にユニフォーム姿で神宮のグラウンドに立てたことは、大学時代の思い出とし

て忘れることはできません」と語る。

そんな野球への思いが断ち切れないでいるとき「保険業を始めて間もない頃、高校時代のOBから審判員の話を持ちかけられ、ついその気になってしまいました」と。今では数々の大会の審判を務め、審判員としてのキャリアを着々と高めつつあり、「甲子園球場のグラウンドに立った時の緊張感を忘れることなく、本業の保険業にも精進していきたい」としており、今後も力むことなく二つの顔をコントロールしていくことでしょう。

(聞き手=編集委員・森川義一)



監督就任1年目で夏の甲子園出場

福井県立福井商業高等学校 野球部監督
米丸 友樹氏(66回卒)

略歴…福井県丹生郡越前町出身、34歳。福井県立福井商業高校から本学経済学部に進学、在学中は野球部のキャプテンとして関西6大学野球リーグで活躍。平成11年3月卒業後、教職への道を選択、平成13年23歳の時、教員資格を取得して、母校である福井商業高校の商業科の先生として社会人のスタートを切る。平成23年4月、名将北野尚文監督勇退後の同校野球部監督を引き受け、見事その夏の甲子園に初登場した。

1908年(明治41年)開校の歴史を誇る福井商業は、福井県下でも有数の文武両道の名門校。校内の至る所に野球部をはじめ多くのクラブ活動の戦績を物語る優勝旗やレプリカが散見される。米丸氏の在学中は2、3年生と連続して県大会の優勝戦で敗れ、甲子園の土を踏むことはできなかったが、弟は同じ福井商業で2回甲子園に出場する選手だったにも拘らず、野球推薦の道を選ばず、一般入試で早大に見事入学、現在三井住友銀行でサラリーマンとして活躍中とか。

「人生とは判らないものですね。4年生の夏、練習中に受けた右腕のデットボールがもとで、一時は社会人野球も考えましたが、現役としての野球生活を断念、教職の道を選択しました。そして母校の恩師である北野監督のもとで、野球部長として野球に携わる。その時はこんな幸せなことってあっていいのかと思いました

よ」と、今もうれしさを隠しきれない。

「北野監督からは多くのものを学ばせて頂きました。野球選手としての技量を向上させることは当然ですが、同時にチーム力を上げる、そして如何にして勝つのか、それと同時に人間性を育てる。これをみっちり教えていただきました」と感謝の念。

ただ、甲子園での初陣は惨めだった。作新学院との1回戦で11対1と大敗した。「初回到ホームランを打たれて頭が真っ白になった。子供たちに力を発揮させてあげられなかったことに悔いは残るが、いい経験をさせてもらいました。今後に生かしたい」と、春の甲子園でのリベンジに闘志を燃やす。

いま34歳の熱血先生、週17時間、商業科の先生として教壇に立っているが、いまだに独身、花嫁募集中。

(聞き手=編集委員・森川義一)

大阪で初の将棋道場を開く

十三棋道館棋道師範
北川 茂氏(39回卒)

略歴…1951年(昭和26年)1月7日、商人の町船場で生を受ける。61歳。関西大倉高校から本学経営学部へ。昭和48年卒業。不動産会社などへ就職した後、4年後に十三棋道館を立ち上げる。小学校4年頃から父親に当時流行っていた「軍隊将棋」の手ほどきを受けたのが将棋の道に入るきっかけに。在学中も熱心に将棋クラブで活動。現在門下生は幼稚園児から85歳の年配者まで約160名。国内でも十数人と言われる棋道師範。



阪急十三駅から歩いて数分のところに十三棋道館がある。訪れた時にも中年女性へ師範は指導中。将棋と言えば小学生時代から小生自身も近所の友だちと身近なゲーム感覚で遊んでいたのだが、「この道場は、あくまでも競技としての将棋であって、暇つぶしの遊びの将棋とは質もレベルも考え方も全く違う」との説明に認識を新たに。北川氏が開設した当時は大阪では将棋クラブは成立しないとされていたので、当初は囲碁も併設していたのだが、将棋だけでも行けるとの確信が出来、以後大阪では初めての将棋専門の道場に。いわゆる将棋のトレーニングセンターだ。「将棋は一種の武道、戦いだから頭脳の武道だと思っている」と北川氏。ところで、小学生の姿も見える。何の習い事でもそうなのだが、上達は年齢に比例するため「将棋の世界も早くから始めるほうが良い。出来れば3歳くらいから。定年後に一から始めようという人に

としてはなかなか厳しく絶望的」と言う。強いのかそうでないのかは、年齢が上であろうが下であろうが関係ないのが将棋の魅力のひとつ。将棋人口は、昭和50年代に比べると五分の一にまで激減。原因は新しい参入者が減り、競技者層の高齢化があげられる。ただ、平成15年ごろからは子どもたちが増えつつあるが、この年代が中堅層になるまでのドーナツ化現象を埋めるまで20年以上がかかる。「この年齢層の間を埋めるのが至難のわざ」だと言う。この難問を解決するためには「指導者であるレッスンプロの養成や学校で授業に美術、音楽と同様に選択科目として取り入れてもらうよう働きかけたい」と北川氏は熱く話す。北川氏は他にも全日本弓道連盟錬士六段、虚心流居合剣法錬士七段などの肩書きを持つ。

(聞き手=編集委員・小林真人)

新しい発想で健康事業を開拓

ニシノ鍼灸整骨院 院長・株式会社アスワン 代表
NPO法人SALA理事長

西野 正彦 氏(45回卒)



夫人の博子さん(本学経営学部44回卒)と共に。

略歴…昭和28年大分県生まれ。工業高校卒業後、大阪で3年間、会社勤務。独立開業を目指し、本学経済学部へ入学。卒業後、明治東洋医学院で学び、柔道整復師・専科教員免許取得。各地の有名整骨院勤務の後、昭和57年ニシノ整骨院開設。同62年(有)ヘルシーオオサカ設立[現・(株)アスワン]。平成元年トレーニング室開設。同15年自社ビル建設により移転。げんき塾、NPO法人SALA設立。同18年ニシノ鍼灸院併設。同20年介護予防事業開始。

「柔道着で歩いていた西野君が、先生になって帰ってきた」と、本学近隣の住民に温かく迎えられた。ニシノ整骨院を開設したのは、ちょうど30年前のことだ。柔道は小学2年から続け、本学在学中は柔道部の主将を務めた。その素養を生かして、卒業後に柔道整復師の道へ。専門学校で学び、「日本一」と呼ばれる整骨院の門を次々たいて、住み込みの修行を重ねた。

念願の独立開業は「愛すべき大学のそば、愛着のある東淀川で」と、かつての下宿の隣で9坪の整骨院からスタート。確かな施術と誠実な人柄が信頼を呼び、2年後に18坪、4年後に27坪と規模を拡大。地域はもとより、西日本各地から、1日250人の患者が訪れる人気整骨院へと、みるみる成長した。

独立まもない頃、同じく本学卒業生の夫人・博子さんと結婚。整骨院の会計、包帯やタオルの洗濯から、柔道部の後輩や独身スタッ

フの食事まで、博子さんが当初は一人で引き受けた。結婚前のOL時代とは全く違った暮らし。「ご近所の患者さんが自宅に寄って、料理を教えてくれたことも。うれしかったですね」と博子さんは目を細める。

治療→体力回復→現場復帰の考えに基づくトレーニング室をはじめ、経営と技術の両面でスタッフの独立を支援・指導し、各施設をグループとして結ぶ管理会社、スポーツ選手をサポートするNPO法人、自治体の認可を得た介護予防施設を次々に設立。常に独自の発想で、社会的活動分野を切り開いてきた。

「自分の仕事を好きになること、天職にすることが大切です」。ニシノ整骨院から巣立った独立開業者は80人以上。現在、息子と甥も院内で勤務している。「次世代の息子たちは、閉塞感のある日本を飛び出して世界へ」と未来を見据えている。

(聞き手=編集委員・永富美幸)



ブリヂストンスポーツセールスジャパン(株)の代表取締役社長に就任した

ブリヂストンスポーツセールスジャパン株式会社 代表取締役社長
山本 陵太郎 氏(50回卒)

略歴…昭和36年6月26日生れ、50歳、大阪市出身、旧大阪府立上島高校を卒業後、昭和55年4月経済学部へ入学。在学中は準硬式野球部で8シーズン連続のリーグ優勝に貢献、同58年には全日本大学準硬式代表メンバーの一員としてブラジル遠征に参加し、同チームの4番バッターとして大活躍した。同59年3月卒業と同時に同社の前身であるブリヂストンスポーツ関西販売(株)に入社、営業部ゴルフ場担当として社会人のスタートを切る。その後3度の会社組織の統廃合により、平成20年7月に現在の社名に変更されたが、この間平成14年2月に42歳の若さで取締役任に抜擢され、営業部長、販売企画本部長、関西支社長などの役職を歴任、平成22年3月から東京本社執行役員営業統括本部長に、そして同23年2月、資本金1億円、年商350億円、社員数354名の躍進企業の社長に選出された。

ブラジル・サンパウロへの遠征メンバーの4番を任された選手とはいえ、就職戦線は厳しかった。10月1日の就職活動解禁日を持って、学校の就職斡旋コーナーで目にとまったスポーツ用品の販売会社の門を叩いた。しかし「入社の予定者は決まっている」と一度は断られたが、「社内の野球チームにプラスになるかもと採用されました」と、苦笑い。

以来、ゴルフボールをはじめとするブリヂストンのスポーツ用品の販売に奔走してきたが、「そこで学んだことは、営業のポテンシャルを挙げるには、まず会社として何をなすべきか、その為の準備、つまりマーケティングを如何に確立するか、それが大切です」と言い切る。そして「経済構造の変革から、かつて3000億円市場といわれていた我々

の市場も2500億円に激減した。さらに海外から流入した商品の価格低下が著しい中で如何にして勝ち残るか、私に与えられた試練だと思っています」としており、これからが経営手腕の問われるところ。

そんな中で4年間の野球部在籍中、監督として指導を受けた牧田現総監督の存在は大きい。「私の人生にとってまさに恩師ともいえる方で、常に人間形成の大切さを教えられました。これからの会社経営にこの恩師の教えを忘れることなく、全身全霊を込めて取り組んでいきたい」と、意気込みを語られた。

(聞き手=編集委員・森川義一)



地方市議会の声を国政に

全国市議会議長会会長

下関市議会議長

関谷 博氏(47回卒)

略歴…1959年(昭和34年) 2月3日下関市小月生まれ、52歳。下関商業高校から本学経営学部へ入学。1981年(昭和56年) 3月卒業後、福岡市の繊維商社へ就職。5年間勤務したところで稼業の洋裁学校経営を手伝うため退職。その後28歳で不動産と保険会社を設立。1991年(平成3年)下関市議会議員へ初当選。現在6期目。2007年(平成19年)から市議会議長。昨年6月から全国市議会議長会議長。任期は2年間。剣道3段。居合道2段。趣味は読書、山歩き。

下関市の人口28万人は県庁所在地の山口市を抜いて県内一。かつては捕鯨の基地として栄えた。現在も調査捕鯨の基地でもあるが、フグ、アンコウの水揚げは日本一の水産都市には変わりない。年間600万人の観光客が訪れ、「海峡と観光と歴史のまち」が売りだ。その地方都市から初めて全国809市の市議会を代表する全国市議会議長会会長が誕生した。全国知事会、全国市長会などとともに地方6団体のひとつで、ひと月の内三分の一は東京、三分の一は地方または海外、あとの三分の一が地元という激務で、毎週官邸で行われる大臣あるいは官房長官との協議に出席する。協議内容は消費税から子ども手当、復興税など多岐にわたる。閣議へかける前に各団体から意見を求められるもので「現在の政府がどのように動こうとしているのかが手にとるように分かる」という。

この重要なポストは代々政令都市クラスの大都市の市議会議長

から選ばれていたのだが、この制度が始まって100年目にして地方中核都市から選ばれ、しかも我が母校の卒業生がその重責を果たしているのである。年齢、キャリア共に最年少とあって期待も大きい。「会長に決まった翌日いきなり官邸へ呼ばれ、総務大臣から消費税について意見を求められた時には緊張した。与野党合意が乱れる度に相談があり、今は大分なれました」という。市議会議長としても改革に取り組む。「この政治の世界は持ち回りというのが一番うまくいくのだが、これが市長部局と真っ向から対抗できない議会の欠点でもある」と話す。「国の根幹をなすような法案に地方から様々な声を入れるということに充実感と責任を感じる」という。若い新議長にエールをお送りしたい。

(聞き手=編集委員・小林真人)

四国の有名建築を手がける

アイビー株式会社 代表取締役社長

おご
尾後 正樹氏(33回卒)

略歴…1943年(昭和18年) 10月8日生まれ、68歳。愛媛県今治沖に浮かぶ四坂島出身で、住友金属鉱山が設立した小中学校で学ぶ。今治西高校から本学経済学部を昭和42年に卒業。在学中は当時関学の名誉教授であった池内信之教授のゼミへ。クラブは現在では死語に近い英文タイプ部。卒業後、当時の日産プリンス自動車販売へ入社。その後、父親の定年を機に地元へ帰り、建築設計事務所へ入社、その後35歳の時に独立。現在のアイビー株式会社を立ち上げた。

今治市は全国的に有名な造船とタオルの町。「山椒は小粒でも辛い」が如く、会社の規模はそう大きくはないのだが、仕事はでっかい。市内にあるランドマークタワーともいえる中国四国地区でも最大級の今治国際ホテル、中世の城をそっくり持ってきたかのような日本食研の本社工場ビル、豪華なタオル美術館など、市内でも観光の名所ともいえるこれらのユニークな建物は全てアイビー社が設計管理を手がけたもの。官庁からの仕事は一切受けないというのが尾後社長のポリシーだ。「官庁からの仕事はほとんどはお役人が基本プランを出してきてそれに乗るだけで面白くない。それに比べて民間の仕事は建築士が自由に自分のアイデアを出せる仕事出来る」という。県内の金融機関などからも特命で受注があるなど、この社の信頼は厚い。「普通



ウイーンのベルベデーレ宮殿を模した日本食研の本社工場。年間2万人の見学者がある。要予約。



は建物が完成すれば施工主との縁は切れるが、当社では建物が完成した後もビルの保守、監理まで未来永劫にお付き合いさせてもらっている」という。お客の立場からすれば「面倒臭いいい会社」ということになり、最近施工主から土地探しまで依頼されるようになり、その分野にも経営を拡大している。尾後社長は、現在の徳永学長のお父様へ毎月1回車で片道1時間の松山市まで「論語」を学ぶため一昨年まで26年間も通ったという一面も持っている。「論語を学んだ中で一番印象に残るのは『恕』という言葉」だそうだ。

これは思いやりを表す言葉で「現在でも相通じるものがある」という。

(聞き手=編集委員・小林真人)

対 談

ゴルフこそ生涯スポーツ 付加価値をつけて集客増を図る

よみうりカントリークラブ 支配人 西野 宗一 氏(47回卒)
三田カントリー 27 支配人 西澤 正義 氏(58回卒)

日本のゴルフ場経営は1990年(平成2年)以降、バブル経済の破綻を直撃に受け、ゴルフ場の倒産や併合・再編成が進み、ゴルフ人口の低下も加わって今やゴルフ環境は様変わりを余儀なくされている。こんな中、品格あるマナーを伝統とし、メンバーのクラブライフの充実に情熱を注ぐ「よみうりカントリークラブ」(兵庫県西宮市)の西野宗一支配人(47回卒)と、ビジターのリピート率が高く人気のある三田カントリー 27(兵庫県三田市)の西澤正義支配人(58回卒)のお二人に、ゴルフ場運営の最先端の思いを熱く語ってもらった。(敬称略)

(聞き手・構成=編集委員 平田義行)



西野 私は、学生時代、準硬式野球部で野球漬けの毎日でした。就職活動もろくにしておらず、入社試験と面接で合否判定をしてもらえ「読売新聞のゴルフ場」ということで、ご縁がありました。元より自然が大好きなとスポーツ現場での仕事

に就きたかったこと、そしてバットの次はゴルフ!という勝手なイメージがありました。他のコースですがキャディーのアルバイト経験も後押ししました。とはいえ、街から山への通勤には戸惑いがあり、吹っ切れるのに数年はかかりました。

入社後は、フロント、総務、キャディーマスター室あるいはコース管理部と、ひと通り経験し、05(平成17)年からウエストコース(旧よみうりパブリック)の、そして3年後にカントリークラブの支配人になりました。入社当時はゴルフブームで1年先の土日でも予約でいっぱいでした。今とは隔世の感があります。

西澤 私は先輩よりひと回り年下ですね。大学は92(平成4)年卒業、クラブは空手道部でした。元々、サービス産業に興味があり、私もキャディーの経験がありましてゴルフのさわりは解っておりました。そこへ三田カントリー 27が96(平成8)年オープンしたのを機に入社しました。27歳でした。支配人は07(平成19)年になりました。

西野 同じ大学出身の支配人が近隣の仲間にいるのは、心強いし嬉しい限りです。またよみうりCCの会員代表に母校の勝田泰久理事長がおられ、激務の合間を縫ってクラブ運営に惜しみないご協力・

ご支援をいただいています。その責任感の強さには敬服します。OBの私からすれば、内外に文字通り「つながる力」を実感させてもらっています。



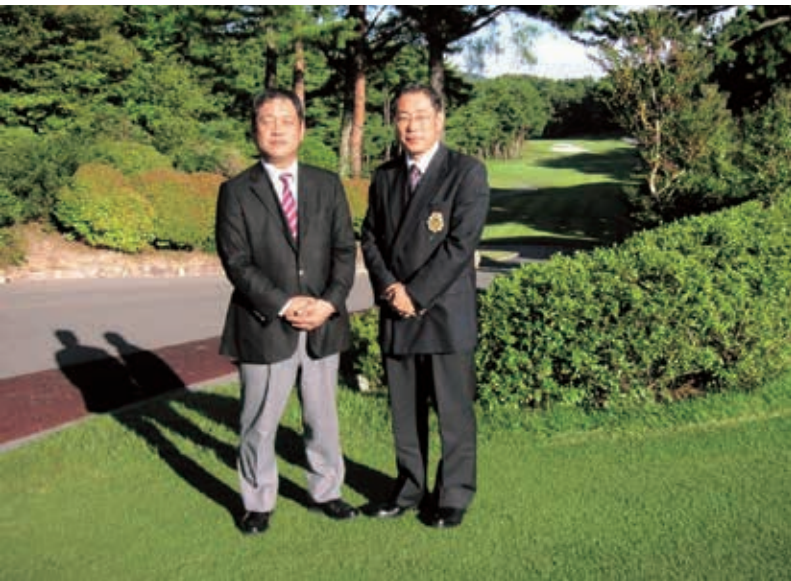
西澤 当社は丸紅(株)の子会社「紅栄株式会社」が社名で全国に4コースを持っており、本社の三田カントリー 27に社長、役員2名、そして支配人の私です。開場から15年、まだ若いゴルフ場です。当クラブもメンバーが自然減し今ではお客さま

の95%がビジターさんです。プレイスタイルも変わりほとんどがセルフプレーですね。だからこそビジターさんのケアーが大切で、それがリピート率を上げるカギとなります。昨年はプレーされた方の55%が複数回来られています。

西野 ビジターさんの集客はどうされていますか。

西澤 応募はほとんどネットですね。昨年は35%がネット申し込み。予約経路の変化で若い方が圧倒的に増え、土日は会社や同窓会のコンペが多くファッションもカラフルです。

西野 支配人は、昔のようにデンと座っているだけではダメで、今は守備範囲も広くなり、さしずめプレーイングマネージャーといったところですね。従業員やコースの管理、営業でのイベント企画から挨拶回りまで、机に向かうのが夕方になることも普通です。世の中の移り変わりで、パブリック制のウエストコースは、セルフプレーが多くなってきました。今はただ単に「ゴルフをしましょう」だけでは振り向いてもらえず、



左＝西澤正義さん 右＝西野宗一さん

何か楽しい付加価値がないと集客しにくくなってきました。同窓会の取り組みから派生し8年目を迎える「ゴルフ甲子園～高校野球部OB対抗戦」などはその典型です。昨年は46校・56チームが出場して、旧交を温めて盛り上がりました。今年も5月から予選会を行い8月末に決勝大会を開催する予定です。

私が担当する会員制のカントリークラブでは、昨年開場50周年を迎え、様々な会員向け企画を打ちました。プロゴルファーで日本ゴルフツアー機構理事の鈴木規夫さん、元阪神タイガース監督の安藤統男さん、そしてベルリンフィルを指揮した音楽家の佐渡 裕さんなどを招いて「ゴルフ&トーク」を開催、会員の皆さんにすごく喜ばれました。クラブの一体感の高まりを目の当たりにし、支配人として何より嬉しい経験をしました。

西澤 当社は一昨年から「ギャラリー参加プラン」の企画をやっています。これはゴルフを知らない方でもプレーヤーと一緒にカートに乗ってコースに出れるというもので、1組に1名が参加できお子さんや奥さまが多いですね。レストランや入浴も利用できゴルフの楽しさを味わっていただきます。終わって感想を奥さまに聞きますと「私もゴルフがしたい」(笑)

西野 型破りな企画ですね。西澤さんのオリジナルですか。月に何名ぐらい来られますか。

西澤 えーそうです。来場は月に20人ぐらいですかね。他に、地元三田市観光協会主催で三田市内8コース持ち回りサーキットを月1回やっており、賞品是三田市の名産品で私どもも集客に協力しています。

西野 読売ゴルフには、幸い4つの個性あるコースがあり、男子ツアー

プロから、女性やシニア、さらにはジュニア層まで幅広い方々がゴルフに親しめる環境にあります。これをタテ・ヨコ・斜めに結びつけて、常に誰もが楽しめるゴルフ場で有り続けることが使命と考えています。

西澤 私どももますますパブリック化が進みます。冬はプレーできませんので10ヶ月が勝負です。年間4万人来られたら経営的にもOKです。私は若い人のゴルフ人口を広げるために、ルールをもっと簡素化できないかと思っています。ゴルフはやはりお金がかかるスポーツですから「それでも面白い」と思っていたかないと普及しません。

西野 プロゴルフの世界を見ても、09年に当クラブで優勝した石川遼選手を筆頭に、女子ツアーでも若い世代が活躍しています。今年はまだ加速するかも知れません。トーナメント観戦も最近は若い方が増えています。接待ゴルフからスポーツゴルフへの変化は止めようのない、大きなうねりとなってきたのではないのでしょうか。

西澤 そしてゴルフを始めるなら若い時からが一番です。経済大学でも体育の授業でゴルフを取り入れられたらいいですね。地元の高校にもゴルフ部を作っていただき実践に当コースを使っていただく、そんな企画も持っています。

西野 そうですね、若い人が早くから始めて欲しいです。ゴルフは職業、階層、年齢問わず誰でもできる生涯スポーツです。この「瀬江」の多くの読者もゴルフを愛し、ゴルフを通してよき人間関係を築いてこられたと思います。ゴルフはプレーが出来る限り続けて欲しいですね。

西澤 まったくその通りです。



よみうりカントリークラブ

「モノ」の向こうにある生活や変化を伝えたい。 より多くの人々の『快適ライフのパートナー』を目指して。



ジャパネットたかたは通信販売の会社です。
しかし、ただのモノ売りにはなりたくないと思っています。

商品の向こうにある変化や生活を伝え、私たちがお奨めする商品がきっかけで
「生活が豊かになった」とより多くの方に感じていただけるような提案をしたい、
そんな想いで、メディアミックスと自前主義の事業方針のもと、
日々すべての工程に全力投球しています。



100年後も世の中に必要とされる会社であるために、
皆様と少しでも多くの「感動」を共有できる会社であることを目指して…。



自前主義

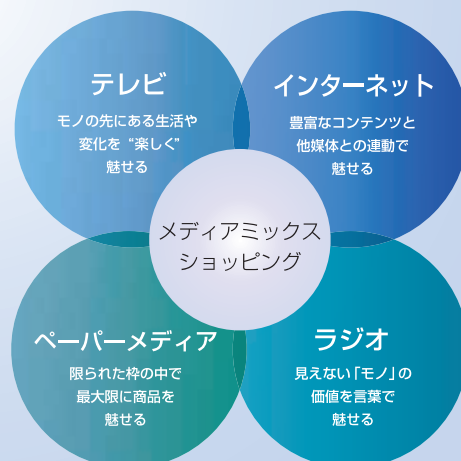
商品の仕入れからアフターフォローまで、
全てに責任を持つ

商品の仕入れからアフターフォローまで、全工程において
責任を持てるよう、自前主義の形式をとっています。商品
の仕入れ、媒体制作、ご注文受付、発送、購入後のアフター
フォローなど、社内ですべての部門を持つことにより、社員
が責任と誠意を持った対応をし、各部門が連携して業務を
進めます。スピードをもって業務を進め、お客様に最新情報
と商品をいち早くお届けします。

メディアミックス

いつでも買える、どこでも買える、
快適ライフを目指して

テレビのみならず、ラジオ、インターネット、モバイル、
カタログ、チラシなどたくさんの入り口を用意することで、
お客様の多様なライフスタイルに合った快適なショッピング
をしていただけるよう、メディアミックスの形式をとって
います。時代の流れをいち早く捉え、少しでも多くの皆様
にとって身近な存在となることを目指しています。



 **ジャパネットたかた**

〒857-1197 長崎県佐世保市日宇町2781

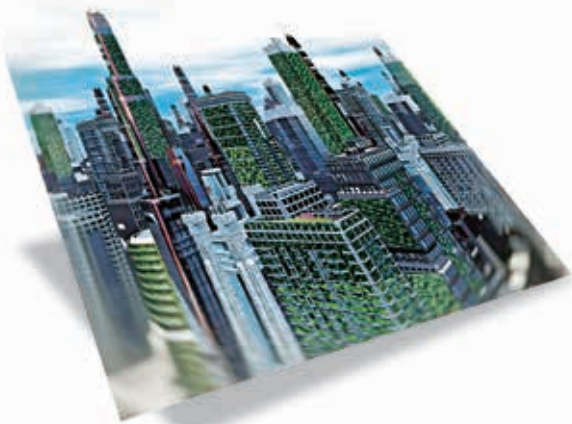
<http://www.japanet.co.jp/>

ジャパネット

検索



ホームページは
こちらから！



For Next Generation

仮設建物の国内シェアNo.1の実績を誇る大和リース。
50余年前の創業時より、リユースシステムによる事業を展開し、
それに伴う環境問題への取り組みを積極的に行ってきました。
昨今の地球温暖化や環境破壊などの問題に危機しながら、
これまで培った技術力を活かし、壁面などの緑化事業をはじめ
次世代に向けた新しい事業に取り組んでいます。
人にやさしい未来をつくるために、これからも。



緊急災害救援ユニット

EDV-01

Emergency Disaster Relief Unit

**GOOD DESIGN
AWARD 2011**

これまでの技術を活かし、様々な災害復興に緊急対応するため
に最前線拠点として活動できる施設を研究・開発しました。

大和リースの事業領域



規格建築事業

仮設建物や病院、学校などの公共施設、企業様の施設などを建設。
また、PFIやリース方式などの事業にも取り組んでいます。



流通建築リース事業

土地オーナー様とテナント様のビジネスを成功に導くためのシステムを中心に複合商業施設などを全国に開発・運営しています。



環境緑化事業

屋上・駐車場・壁面・室内緑化など、さまざまな緑化や省エネ製品を総合プロデュースしています。



オート&リーシング事業

企業様のお車や官公庁の公用車など、カーリースを通じてサポート。ハイブリッド車や電気自動車の提案も行っています。

次世代に向けた新しい事業を展開

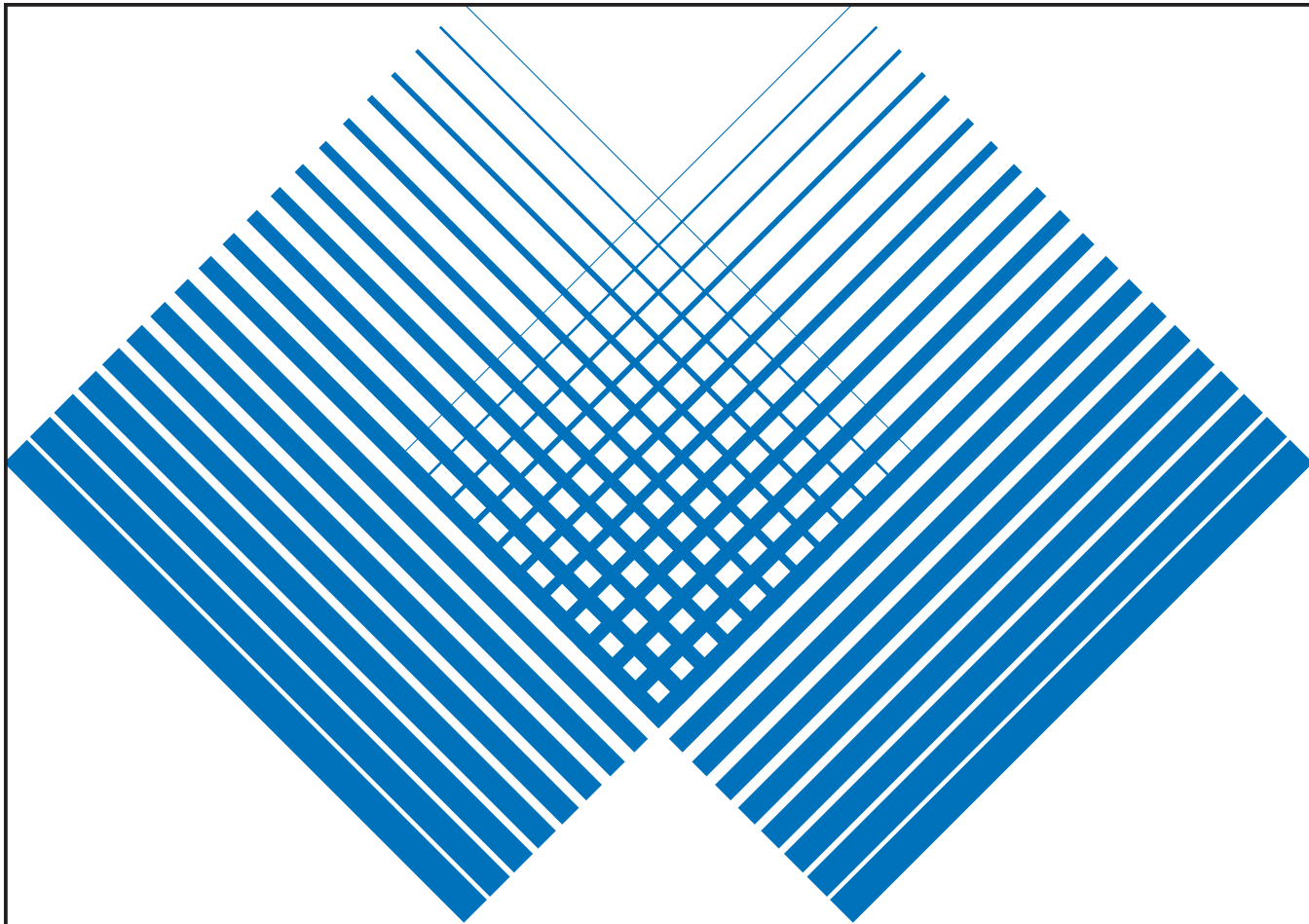


Daiwa Lease

大和ハウスグループ

大和リース株式会社 www.daiwalease.co.jp

大阪市中央区農人橋2丁目1番36号 ビップビル 〒540-0011 Tel 06-6942-8011 Fax 06-6942-8051
建設業許可番号・国土交通大臣許可(特-22)第5903号 宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣(6)第3836号




FUJITA

フジタが見つめているのはゼネコンの向こう側。
建設業の枠にとどまらず、独自の高い技術力と提案力を駆使して、
お客様に新しい“価値”を提供する企業をめざしていきます。
自然・社会・街、そして人の心の豊かさにつなげる
新しいゼネコンの領域へ。

“高”環境づくり **フジタ**

思いを守る、明日へつなぐ



大正12年に製本で創業しました。
昭和26年に株式会社を設立、
手帳やアルバムの製造・販売を経て
現在は、環境関連市場、介護福祉市場など
技術力を活かした事業展開を続けています。
これからもお客様のお役に立つ企業を目指し、
新たな価値を創造してまいります。

 **ナカバヤシ株式会社**
製本から手帳・アルバムへ、そして新しい価値の創造へ
<http://www.nakabayashi.co.jp/>

For a Lively World



大成建設の技術で実現する未来都市

わたしたちは“人がいきいきとする環境を創造する”というグループ理念のもと、
自然との調和の中で、安全・安心で魅力ある空間と豊かな価値を生み出してきました。

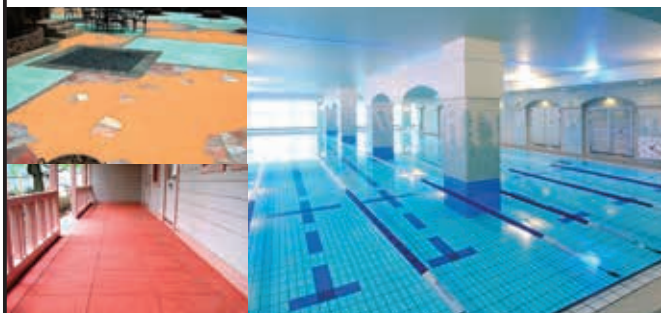
For a Lively World…この思いとともに、これまで育んできた技術を、さらに高め次の世代へ。

わたしたちは、夢と希望に溢れた地球社会づくりに取り組んでいきます。

地球がいきいき、人もいきいき。大成建設がめざす未来です。



大成建設株式会社



イメージひろがる！ テクノカラーは、
アイデアしだいで使い方いろいろ…

新たな時代を彩る、
カラーモルタル誕生！

ColorMortar



【特徴】 ●豊富なカラーバリエーション(全カラー66色)で自在の色の組合せが可能です。 ●プレミックスモルタル製品ですので、硬化物は接着性に優れ、かつ高い強度を発揮し、耐久性に優れています。 ●白華現象のおこりにくい配合設計になっています。 ●用途目的に合わせて多種の組合せが可能です。

【種類】

- テクノカラーSK(厚塗り用)
- テクノカラーMU(薄塗り用)
- テクノカラーNS(洗い出し及びコンクリート用)

色・カタチ思いのまま
スタンダードをめざす
業界初の新発想モルタル



業界初

テクノカラー 66
〈受注生産型〉



機能性モルタル類の総合メーカー

テクノスジャパン株式会社

代表取締役 社長 佐藤 武司

(昭和39年 30回卒業 大樟会会長)

○お問い合わせは

TEL/078-924-1234 FAX/078-924-0050
<http://www.attack-pro.com>

■ 本社・工場 / 〒673-0028 兵庫県明石市硯町3丁目4番7号
■ 東京支店 / 〒130-0012 東京都墨田区太平3丁目11番10号

関連会社



エースコンサルタント株式会社



南側から見たJ館(新事務・研究棟)

〈澁江〉の次号へ同窓生の皆さんへのお願いとお知らせ

◇母校創立80周年を迎えて ～投稿歓迎～

2012年10月、母校は創立80周年を迎えます。80周年の記念事業募金に多くの同窓生がご賛同いただき、厚くお礼を申し上げます。80年の歴史を刻んだ母校にあなたの思いをお寄せください(500字以内 10月31日締切り)

◇「OB・OGネットワーク」投稿歓迎

－クラブ・ゼミのOB・OG会、同期会の開催呼びかけや開催報告

◇「ズームアップ経大人」の自薦、他薦

◇広告協賛のお願い

－事務局に募集要項を用意しております。ご請求ください

本号のご感想、企画提案など歓迎いたします(上記お問い合わせは事務局広報部へ)

★「澁江」次号(48号)の発行は、2013年(平成25年)1月25日(金)です。

●編集後記●

- …昨年は天変地変の多かった年で、特に東日本大震災は日本の歴史を変える悲慘な出来事でした。早期の復興を願うとともに、国民一人ひとりが国の在りようを考えねばなりません。
- …今年は母校創立80周年を迎えます。同窓生の連綿たるつながりが大きな歴史を作りました。この歩みは90周年、100周年へと繋がり「大阪経済大学」が社会からさらに期待される大学へと成長して欲しいものです。
- …「澁江」は同窓生の“つながる力”の大きな媒体です。皆さまのご協力で発行されています。次号もよろしくお願いします。

(広報部長＝平田義行)